

平成30年度
福島県道徳教育総合支援事業

平成30年度 道徳の礎（いしずえ）

【理論編】 道徳科の授業の充実に向けて
【実践編】 平成30年度道徳教育推進校報告
【Q&A】 道徳科の教育課程Q&A

福島県教育委員会



道徳の礎（いしずえ）の使い方

「道徳の礎（いしずえ）」は、「ふくしまならでは」の道徳教育の実現に向けて必要な理論や実践を集録し、ふくしまの先生方の悩みに寄り添う一冊です。

「ふくしまならでは」の道徳教育の実現に向けて、

- 【理論編】 道徳科の授業の充実に向けて
- 【実践編】 平成30年度道徳教育推進校実践報告
- 【Q & A】 教育課程 Q & A

以上の3編構成で作成しています。さらに、先生方の悩みに合わせて、すぐに頁を開くことができるよう、色別の5つのインデックスを付けています。御自身の問題意識に合わせて御活用ください。

【インデックス1】 道徳科の授業の充実に向けて

道徳教育や道徳科の理論が分からない……。

⇒ 「道徳のとびら」や「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会で発信してきた内容をまとめてあります。「道徳科の指導と評価の一体化」等について詳しく解説しています。

1頁
～10頁

【インデックス2】 道徳教育推進校の実施報告，全体計画・別葉等

道徳教育の学校の基本方針が大切とは言うけれど……。

⇒ 平成30年度道徳教育推進校の道徳教育推進の視点、道徳教育全体計画及び別葉等を掲載しています。学校の道徳教育の方針を明確にしたい時に御活用ください。

11頁
～54頁

【インデックス3】 多様な指導方法に基づいた授業実践

多様な指導方法は大切だけれど、どのように授業を構想すればよいの……。

⇒ 平成30年度道徳教育推進校の実践と考察を掲載しています。授業実践の際の参考にしてください。

55頁
～76頁

【インデックス4】 ふくしま道徳教育資料集を活用した授業実践

ふくしま道徳教育資料集をより効果的に活用したい……。

⇒ 平成30年度道徳教育推進校が活用したふくしま道徳教育資料集の実践と考察を掲載しています。「ふくしまならでは」の道徳教育の実現に向けて参考になります。

77頁
～98頁

【インデックス5】 新教育課程Q&A（道徳科編）

道徳科の教育課程で分からないことがあります……。

⇒ 既に学校に周知している新教育課程Q&Aから道徳科の部分を抜粋しました。教育課程の編成に向けて悩んだときに開いて確認してみてください。

99頁
～105頁

平成30年度道徳教育推進校及び掲載頁一覧

地 区	学 校 名	内 容	掲載頁
県 北	福島市立福島第四中学校	実施報告・全体計画・別葉等	11～16
		質の高い多様な授業実践	64～66
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	86～88
県 中	郡山市立大島小学校	実施報告・全体計画・別葉等	17～22
		質の高い多様な授業実践	55～57
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	77～79
県 南	中島村立吉子川小学校	実施報告・全体計画・別葉等	23～28
		質の高い多様な授業実践	58～60
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	80～82
会 津	会津美里町立本郷中学校	実施報告・全体計画・別葉等	29～34
		質の高い多様な授業実践	67～69
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	89～91
南会津	南会津町立舘岩中学校	実施報告・全体計画・別葉等	35～40
		質の高い多様な授業実践	70～72
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	92～94
相 双	福島県立相馬東高等学校	実施報告・全体計画・別葉等	41～48
		質の高い多様な授業実践	73～76
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	95～98
いわき	いわき市立江名小学校	実施報告・全体計画・別葉等	49～54
		質の高い多様な授業実践	61～63
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	83～85

【理論編】

道徳科の授業の充実に向けて



【第1部 理論編】道徳科の授業の充実に向けて

「道徳教育の目標」「道徳科の目標」はどう変わったのですか？

道徳教育の目標

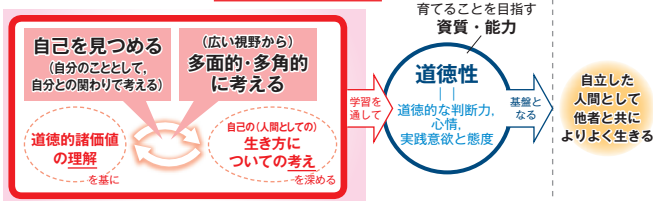
(小(中)学校学習指導要領第1章総則 第1 教育課程編成の基本方針 2 抜粋)
 学校における道徳教育は、**特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)**
を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、
 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に
 応じて、児童の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。
 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基
 づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として
 他者と共によりよく生きるための**基盤となる道徳性**を養うことを目標とする。

- 学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」の記述・「総則」編に記載
- 「特別の教科 道徳」の記述・「特別の教科 道徳」編に記載
- 「道徳教育」の「要」として「道徳科」の位置付けは従来と変わらない
- 育むものは、内面的資質としての道徳性に統一

道徳科の目標と特質

(小(中)学校学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」の「第1 目標」)
 第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるた
 めの基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自
 己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方
 についての考えを深める学習を通して**、道徳的な判断力、心情、実践意欲と
 態度を育てる。

道徳性を養うために行う**道徳科における学習**



【本時のねらいは…】

〇〇〇を通して、(道徳的な判断力or心情or実践意欲or態度)を育てる。

新学習指導要領において、学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」については「総則」の章に、授業については「特別の教科 道徳」の章に、別の章立てとなって記載されています。両方の目標や内容、関係をとらえることが大切です。

特に「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」「特別の教科 道徳」いずれの目標においても、育むものは「道徳性」に統一され、現行学習指導要領にあった「道徳の実践力」という記述がなくなり、育むものが異なるというねじれが解消されました。授業のねらいも、どんな道徳性の諸様相(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)を育みたいのか、しっかりと精査することが大切です。

朱字で記述された「〇〇学習を通して」の部分が特に大切です。

具体的には、道徳科の特質として、道徳的諸価値の理解を基にしながら、

- 自己を見つめること
 - 物事を多面的・多角的に考えること
- を押さえることがとりわけ大切です。

この特質に根ざして授業を構想・展開し、一人一人の子どもの学習状況や道徳性の成長の様子を見取って、評価することになるのです。



内容項目は変更されたのですか？

内容項目の追加	「特別の教科 道徳」の内容の学年段階・学校段階の一覧表参照。 【小・低学年】19項目 「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」追加 【小・中学年】20項目 「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」追加 【小・高学年】22項目 「よりよく生きる喜び」追加 【中学校】22項目
体系的なものへの改善 手掛かりとなる言葉の付記	記述の仕方について、各学年毎の記述を改め、内容項目毎の記載に変更して、系統性と発展性を意識して指導できるように配慮した。また、「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉を付記し、指導のしやすさに配慮した。

小学校低学年は19項目(3項目追加)、中学年は20項目(2項目追加)、高学年・中学校は22項目(高学年は1項目追加)となります。学習指導要領では「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げること」とされていますので、年間指導計画作成の際には漏れのないよう留意してください。

また、それぞれの内容項目に「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉(キーワード)を付記することで、指導のしやすさに配慮しています。



道徳教育全体計画はどう作成すればよいのですか？

小（中）学校学習指導要領第1章総則 第6 道徳教育に関する配慮事項 1 抜粋

- 道徳教育の**全体計画**の作成
 - ⇒ **重点目標の設定**
 - ⇒ 各教科等における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法の明示

活用しやすい工夫（小（中）学習指導要領解説・総則編131頁）

例えば、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを**別葉にして加えるなどして、年間を通して具体的に活用しやすいもの**とすることが考えられる。

小・中
共 通

- **校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。**

道徳教育推進教師の役割（小（中）学習指導要領解説・総則編128頁）

- 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- 道徳科の充実と指導体制に関すること
- 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- 道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- 道徳教育の研修の充実に関すること
- 道徳教育における評価に関すること など

道徳教育全体計画の作成を含め、学校の教育活動全体で行う道徳教育については、新学習指導要領「総則」に記述されています。全体計画は、校長のリーダーシップの基、道徳教育推進教師が要となり、全教職員で作成することが大切です。なお、全体計画等の具備すべき内容については、総則解説編に記述されていますが、参考までに列記します。

また、「別葉」についても、作成に係るロードマップを作成し、全教員の願いのこもった内容と形式で計画的・組織的に作成したいものです。



【道徳教育全体計画の内容】

1 基本的把握事項について

- 教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策（本県では、いじめ防止対策推進法の明記を強調）
- 学校や地域社会の実態と課題、教職員や保護者の願い
- 児童生徒の実態と課題

2 具体的計画事項について

- 学校の教育目標、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標
- 道徳科の指導の方針
- 年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の工夫、校長や教頭の参加、他の教師との協力的な指導
- 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育の指導の方針、内容及び時期
- 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針、内容及び時期
- 学級、学校の人間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針
- 家庭、地域社会、他の学校や関係機関との連携の方法
- 道徳教育の推進体制
- その他（次年度の計画に生かすための評価の記入欄、研修計画や重点的指導に関する添付資料等）

3 「別葉」について

- 各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの
- 道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
- 道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

平成30年度 道徳教育全体計画		小46 郡山市立大島小学校
（教育関係法令等） ○日本国憲法 ○教育基本法 ○学校教育法 ○学習指導要領 ○いじめ防止基本方針 ○児童憲章 - など		学校の教育目標 自分の考えをもち、ねばり強く努力できる心豊かなたくましい児童の育成 ○進んで学習する子ども（知） ○思いやりのある子ども（情） ○健康で明るい子ども（体） ○最後までがんばる子ども（意）
各教科における道徳教育 ○国語科 - 物語文の学習等を通して道徳の心情を育てるとともに、読む・書く・話す・聞く活動を通して自己表現力の伸長を図り社会生活への適応力を育てる。 ○社会科 - 調べたり学びあったりする活動を通して社会生活を理解し、地域や人々の営みのすばらしさに気づき、日本や外国の人々への共感と理解を深める。 ○理科 - 自然との触れ合いや動植物の観察・栽培活動を通して、生命を尊重し真理を追究する態度を育てる。 ○生活科 - 自然や人と関わる活動を通して、生命を大切にしたり、相手の思いやりに気づく心を育てる。 ○音楽科 - 表現・鑑賞活動を通して音楽に対する感性を育て、美しいものを尊重する心や豊かな情操を育てる。 ○図画工作科 - 造形的な創作活動を通して表現する喜びを味わい、自他の個性を感じ取り協力し合って活動する態度を育てる。 ○家庭科 - 家族の一員としての役割を認識し、家庭生活への実践的参加や家族を大切にすることを学ぶ。 ○体育科 - 心身の健康・安全への理解を深め、自他の心身を大切にしようとする心情や協力し合って活動する態度を育てる。 ○総合的な学習の時間 - 自然体験やボランティア活動等の社会体験を通して、道徳的実践力を育てる。 ○英語教科 - 外国語活動を通じてコミュニケーション能力の素地を養うとともに、言語や文化について体系的に理解を深めることで、日本人としての自覚を持って世界の人々との親善に努めようとする態度を育てる。		道徳教育重点目標 1. 常に向上心を持ち、知識や技能の習得を目指そうとする心を育てる。 2. 互いの人格を認め、仲良く親切にいたわり合う、生命尊重の態度を育てる。 3. 清らかな心と健やかな体を持ち、美しいものや崇高なものを尊ぶ豊かな心情を育てる。 4. 互いに協力し合い、進んで人々のために役立つととる態度を育てる。
各学年の重点目標 低 ・健康や安全に気をつけ、わがままを言わずに規則正しい生活をする。（節度、節制） 中 ・生命を大切にすることを（生命の尊さ） ・気持ちよくあいさつ、言葉づかいに心がける。（礼儀） ・身近にいる人に感謝の心で接し、親切にする。（親切、思いやり） 高 ・よく考えて行動し、節度を生活をする。（節度、節制） ・生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切に（生命の尊さ） ・適度な運動に取組み、正面に臨む心で元気よく生活する。（正義、誠実） ・約束やきまりを守り、公共心、公徳心を持って行動する。（親切、思いやり）		「わたしたちの道徳」活用の基本方針 道徳科授業の一部で補助的に用いた各教科の学習内容と関連させたりして活用を図る。 情報モラル教育 道徳科授業で情報モラルについて指導することにより、情報社会のルールやマナーを身につける。
道徳教育の推進体制 1 校長の方針のもと、道徳教育推進教師が推進役となり、全教員で道徳教育を推進する。道徳教育推進教師は道徳主任と兼任する。 2 学級担任は、学級における道徳教育指導計画を年度当初に作成して、意図的・計画的に道徳指導にあたる。		特別活動における道徳教育 ○学級活動 - 話し合い活動や係活動を通して学級生活の向上を図り思いやりのある望ましい人間関係を育てる。 ○児童会活動 - 学校生活の向上のために全校生を代表し、互いの創意を生かして課題解決に取り組む態度を育てる。 ○クラブ活動 - 共通の興味関心を目指す活動を通して、協力し合う態度や思いやりを育てる。 ○学校行事 - 行事への自主的、積極的な参加を通して集団の一員としての自覚を深め、道徳的実践意識を高める。
道徳科の指導方針 ・道徳的価値について理解を深める。 ・道徳的判断力を高める。 ・道徳的心情を豊かにする。 ・道徳的実践意欲と態度を向上させる。 ・問題解決的な学習、体験的な学習を重視する。		生徒指導における道徳教育の観点 ・教師と児童、児童相互の心の交流を図り、児童一人一人が意欲を持って将来を展望できるよう援助する。 ・課題を抱えた児童に対しては、学年・学校全体で組織的に取り組む。 ・一人一人が自己実現に向けての資質や能力を育てる。
学校における教育環境の整備方針 ・学校内外で、学校・家庭・地域社会が一体となり、道徳性を育み実践できるような教育環境を整える。		学校における豊かな体験活動の場の設定 ・授業や学級活動など、学校における全ての教育活動において、道徳的実践を促すとともに、自然、人、社会との触れ合いの場を設けるなど、豊かな体験の場を計画的に設定する。
基本的な生活習慣に関する指導方針 ・規範意識や生活習慣形成については、児童の創意を生かして細かな指導を行う。 ・生活指導を通して、学校内外の生活に規律と秩序を持たせるとともに、ふれあいを通して生活の指導を図る。		
家庭・地域社会との連携 - 学校・家庭・地域社会との連携を強め、道徳教育の充実に努める。 ・家庭の習俗や活動の連携の推進 ＜参観日の活用・各種便り＞ ・地域社会、関係機関との連携 ＜社会参加・グリーン作戦＞		他の学校や教育機関との連携 - 幼稚園、中学校などの情報交換を密にし、児童の実態をつかみ、定期的な交流を通して関連を深める。 ・就学前の情報交換の推進 ＜幼稚園訪問・保育参観・交流会＞ ・進学前の心構えをつくる ＜中学校一身体験入学＞

道徳教育全体計画例「郡山市立大島小学校」（20頁に記載）

道徳教育全体計画の別葉はどうすればよいのですか？

全体計画の別葉の充実と工夫

【別葉作成上で大切なこと】

- ① 自校の特色や重点を教育活動全体でどのように実践していくか、分かること
- ② 道徳科の授業以外の指導内容や時期が明確になること
- ※ 今求められている「カリキュラム・マネジメント」の具現化

- A 時系列で、内容項目と教育活動全体との関連を明らかにした別葉
- B 自校の重点を中心に、内容項目の系統性を明確にした別葉
- C 全ての内容項目と学校の教育活動全体の関連を明らかにした別葉
- D 学校オリジナルで使いやすい別葉

(道徳のかけ橋第4号(平成26年12月15日)より抜粋)

[illegible]

別葉例「いわき市立江名小学校」（53頁に記載）

平成30年度【3学年】道徳教育と各教科との関連											
月	学習指導	総合的な 学習の時間	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語
4	「3年生になっ て」A(4)希望 反応①場内発表	「夢や目標の主 人公へ」C(4)友 誼別	「親身」D-(9) 読後感、 反転②場外発表	「第二次世界大 戦」C-(18)世界 平和			「花」D-(13)感動、 植物の心③	「ボックスア ー」D-(13)創造 性、個性の伸長			"Pop Culture: The and Now" C-(17) 伝統と文化
5											
6											"Far Trade From C-(18) 国際的 視野、貢献
7		「卒業研究」A-(3) 主眼点、異性の 理解		人権と日本国憲 法C-(10)社会、公 平な、社会的正義	「2次方程式」 G-(11)公式、論 理、社会的正義	「生物の成長と 繁殖」D-(19)生 命の尊厳					
8						「遺伝の仕組み」 D-(21)感動・具 象化④					
9	「社会の一員と しての生き方」 C-(12)社会参画、 公共の精神		「最悪」C-(12) 感情、公共の 精神				「歌声合奏の場 面」C-(10)学校 生活生活、無畏生 活の充実	「パレーボール」 D-(10)公平、 社会的正義	「五輪を争うの 心算」D-(13) 感動、異性の心		
10	「学校行事に参 加し、お世話受 け感謝、寛容		「雲つづく」C- (17)我が国の風 情と文化の尊重、 国を愛する態度		「物知な伝説」 D-(21)感動、異 性の心	C-(16)郷土の 歴史と文化の尊重			「最速」C-(17) 我が国の伝統 文化の尊重、国 を愛する態度		
11						「オペラ」C-(18) 感動、理解、 貢献	「東京のストラ ップ」C-(17)都 市国の伝統文化 の尊重				Surviving for Better World C-(18)男女と保護 意識
12											
1	「卒業までの生 活」A(4)自然、 原則	「卒業への参 照」B-(46)やり とり、感謝	「嵐からの代わり り」D-(22)上り 坂を登る	「部本調査」D- (20)自然愛護	「自然の中の生 物」D-(20)自然 認識					「子どもにとっ ての家財」D-(19) 生命の尊厳	
2										「バスケケットボ ール」C-(11)公 正、公平	
3						「科学技術の人 間」D-(22)上り 坂を登る					

別葉例「福島市立福島第四中学校」（15頁に記載）

道徳のかけ橋第4号では、「別葉」の特集を組み、左のA～Dの形式に大別しています。別葉は、今現在求められているカリキュラム・マネジメントを具現化する有効なツールです。より実効性のある別葉こそが、道徳教育の充実への近道です。是非、全教員が共通認識に立ち、作成してください。A～Dの4つの形式の利点と課題、工夫したい点を列記します。自校の別葉を見直す参考にしてください。

Aの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- 時系列で整理しているため、一覧の形で年間の見通しがもてる。
- ▲ 情報が多すぎて使いにくい。重点項目が分からず、共通理解が図りにくい。
- 自校で重点とする内容項目の部分に色をつけ、分かりやすくする。指導後に、記録や改善策を書き加える。

Bの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- 重点内容項目を中心に作成しているため、学校全体で重点を意識して教育活動を進めることができる。
- ▲ 時系列になっていないため、年間の見通しが分かりにくい。また、他の内容項目について、どのような場面に取り組んでいくのか分からない。
- 重点項目以外は、実践を通して少しずつ書き込みを加えていく。

Cの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- すべての内容項目の関連が分かる。
- ▲ 必要な情報が多く盛り込まれているため活用に向けた共通理解が必要である。
- 道徳教育推進教師を中心に全職員で作成し、一人一人の意見を生かし少しずつ改善していくことで活用に向けた意識を高める。

Dの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- 形式がない別葉だからこそ、自校の先生方が日常的に使いやすいものが最良である。形式にこだわらず、今ある計画を少し工夫・改善しながら、「学校ならでは」の別葉を作成したいものです。

「別葉は作成しているが十分活用されていない。」
 このような声が多く、多くの学校で聞かれるのが現状です。「この関連は難しいなあ」「この単元では〇〇という価値項目についても学んでいるなあ」と気付いたら、別葉にメモを残していくとよいと思います。そういった日々の積み重ねが道徳科と教育活動全体を積極的に結び付けることにつながります。自分の学校の「別葉」について、校内で改めて考えてみましょう。



教科用図書の導入で何が変わるのですか？

検定教科書の導入について

法的根拠

教科書の法的根拠
学校教育法34条（教科用図書・教材）
小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する**教科用図書を使用しなければならない**。（中学校等にも準用）

教科書の定義

教科書の発行に関する臨時措置法2条（定義）
この法律において「教科書」とは、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及びこれらに準ずる学校において、**教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材**として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であつて、文部科学大臣の検定を経たもの又は文部科学省が著作の名義を有するものをいう。

教科書には「主たる教材」としての使用義務があります。今後は、採択された教科書の教材を中心に、年間指導計画を作成することになります。なお、教材の配列は、今まで通り、各学校の特色や行事、各教科等の関連に応じて配列を工夫することが大切です。



教科用図書の教材以外を使用してはいけないのですか？

ふくしま道德教育資料集等の活用について

（小学校学習指導要領解説第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道德科の教材に求められる内容の観点 1 教材の開発と活用の工夫）

(2) 多様な教材を活用した創意工夫ある指導

道德科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、**道德教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる**。様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は、児童にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、ねらいとする道德的価値について考えを深めることができるため、**地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい**。

（同 2 道德科に生かす教材）

(3) 多様な見方や考え方でできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること（略）

なお、**教科用図書以外の教材を使用するに当たっては、「学校における補助教材の適正な取扱いについて」（平成27年3月4日 初等中等教育局長通知）**など、関係する法規等の趣旨を十分に理解した上で、適切に使用することが重要である。

○ 「主たる教材」としての教科用図書教材

⇒ 今後は主題、教材の配列としての「年間指導計画」が極めて重要

○ 「副教材」として、ふくしま道德教育資料集をはじめ、市町村発行の道德教育資料集等を積極的に位置付けたい。

⇒ 意図的・計画的・組織的な計画と活用を

「ふくしま道德教育資料集」「市町村発行の道德資料集」等の教材は、地域に根ざした教材として大切にしたいものです。

また、「私たちの道德（WEB版）」や「小（中）学校 道德読み物資料集（文科省）」等の活用も考えられます。教科書以外の教材を年間指導計画に位置付ける場合は、教科書教材との対応が分かるようにしておくことが望ましいと考えます。

なお、教科用図書以外の教材の年間指導計画への位置付けと活用にあたっては、学年や学校としての組織的な対応と校長の判断はもちろん、市町村教育委員会の指導助言の基に行うことになります。

なぜ、「指導と評価の一体化」が大切なのですか。

質的転換＝「指導と評価の一体化」 ～主体的・対話的で深い学びの実現～

何を学ぶか

どのように学ぶか

何を学んだか

指導と評価の一体化

道德科の
目標と特質

指導

評価

○ 小低19、小中20、小高22、中22の内容項目に基づいて、道德的判断力、心情、実践意欲と態度を育む

○ 「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」の二つの特質に根ざした活動の設定

○ 「自己を見つめる姿」「多面的・多角的に考える姿」をどの場面で、何を使って見るか。

望ましい道德性の育成、日々の授業の充実と改善

指導の充実なくして、評価の充実はあり得ません。もう少し詳しく言うと、児童生徒一人一人のよさや可能性を受け止めて、認め、励ます評価を具現するためには、児童生徒のよさや可能性を引き出し、存分に発揮させる指導の充実が不可欠なのです。

「授業のねらいー指導ー評価」が、「道德的価値の理解を基に自己理解を深めること（自己を見つめること）」「物事を多面的・多角的に考えること」という、道德科の二つの特質に一貫して基づいていることが大切です。



「特別の教科 道徳」における多様な指導方法について教えてください。

問題解決的な学習など 多様な方法を取り入れた指導について

問題解決的な 学習の工夫	道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見つけ、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。
道徳的行為に 関する体験的な 学習を取り入れる 工夫	道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的、多角的に考えたりするためには、例えば、実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。
特別活動等の 多様な実践活動等 を生かす工夫	道徳科において実践活動や体験活動を生かす方法は多様に考えられ、各学校で児童の発達の段階等を考慮して年間指導計画に位置付け、実施できるようにすることが大切である。

「小（中）学習指導要領解説「特別の教科道徳編」第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第3節 指導の配慮事項 5 問題解決的な学習など多様な指導を取り入れた指導」より部分抜粋

小（中）新学習指導要領では、「児童の発達の段階や特性等に考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」とされました。

今まで一般的に実践されてきた「登場人物の自我関与型」の授業が否定されているような誤解がありますが決してそうではありません。否定されているのは「登場人物の心情理解のみの指導」「主題やねらいが不十分な単なる生活経験の話し合い」です。この2つだけでなく、「読み物教材のあらすじを追うだけの授業」や「道徳的価値（内容項目）に基づかない体験的な授業」等も散見されますので、道徳科の特質に根ざした授業づくりをこそがけることが大切です。

9、10頁に「(H28.7.22) 特別の教科道徳の指導方法・評価等について（報告）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」で示された「質の高い多様な指導方法のイメージ」を掲載します。指導の参考としてください。



「特別の教科 道徳」の評価についての基本的な考え方を教えてください。

- 改訂後の学習指導要領（特別の教科 道徳）
児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。
ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

具体的な方法を、道徳科の評価の在り方に関する専門家会議で検討

(H27.6～H28.7)

【基本的な方向性】

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価（※）として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにする必要



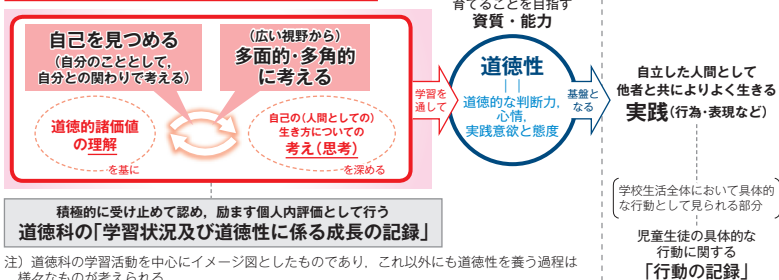
※ 専門家会議報告に基づき、道徳科の学習評価の在り方、指導要録の参考様式について、平成28年7月29日付で都道府県教育委員会等に通知

道徳科の評価はどのように進めたらよいのですか。

道徳科の学習活動と評価のイメージ

- 道徳性が養われたか否かは容易に判断することができるものではなく、観点別に分析的に評価（ABCの段階をつける）ことは妥当ではない。
- 道徳科の授業では、特定の価値観を児童生徒に押しつけたり、指示通りに主体性を持たずに言われるままに行動するよう指導したりするものであってはならない。内容項目を手掛かりに「考え、議論する」ことを通じて、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える学習を行うことによって、道徳性を養うことを目指すものである。
- このため、道徳科の学習の中で、特に「自己を見つめ、自分のこととして考えているか」「物事を多面的・多角的に考えようとしているか」といったことに着目することで、道徳科の学習状況を把握することが必要である。

道徳性を養うために行う道徳科における学習



注) 道徳科の学習活動を中心にイメージ図としたものであり、これ以外にも道徳性を養う過程は様々なものが考えられる。

- 児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行います。
- 観点別で分析的に評価したり、数値化したりする評価は、道徳科では妥当ではありません。
- 道徳科の特質である「自己を見つめる姿」「多面的・多角的に考える姿」を見取って評価していきます。
- 学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」に記述します。道徳科の評価は、あくまで授業を行った結果としての「学習状況」「道徳性の成長に係る成長の様子」を見るものです。



小学校児童指導要録（参考様式）（イメージ） 別紙3

児童氏名		学年	学期	1	2	3	4	5	6
各教科の学習の記録									
国語	読解・書く能力	1	2	3	4	5	6	7	8
算数	算数能力	1	2	3	4	5	6	7	8
理科	科学的思考力	1	2	3	4	5	6	7	8
社会	社会的事象についての知識・理解	1	2	3	4	5	6	7	8
道徳	道徳性	1	2	3	4	5	6	7	8
英語	英語の基礎	1	2	3	4	5	6	7	8
音楽	音楽の基礎	1	2	3	4	5	6	7	8
体育	体育の基礎	1	2	3	4	5	6	7	8
総合	総合的な学習の時間	1	2	3	4	5	6	7	8
特別活動	特別活動	1	2	3	4	5	6	7	8
その他	その他	1	2	3	4	5	6	7	8

- 指導要録において、記述式の評価の記載が必要となります。
- 道徳科の評価の実施に伴う指導要録の形式等については、28教義第846号（平成28年8月10日付）で発出しています。なお、指導要録の様式については、各学校の設置者（各学校を所管する市町村教育委員会）が決定します。

「指導要録」と「通知票」の根拠と性質を踏まえ、各学校で行うことは何ですか。

【指導要録の根拠及びその性質】

- ① 校長は、その学校に在学する児童等の指導要録を作成しなければならない。（学校教育法施行規則第24条）
- ② 指導要録は、児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立てるための原簿となるものであり、各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿である。（平成22年5月11日 文部科学省初等中等教育局長通知）

【通知表（票）の根拠と性質】

- ① 法的に規定されている表簿ではない。校長の責任において作成される性質をもつ。
- ② 児童生徒の学習指導の成果、学習生活の状況、健康状況等を保護者に連絡し、保護者が児童生徒の学校生活の状況を知るための連絡簿であり、その呼び方や内容、形式も各学校ごとに創意工夫が見られる。

【各学校で行うこと】

- ① 校長の指導の下、通知表（票）の評価をどのように行うか。
- ② 保護者に道徳科の評価について、どの時期に、どのような内容で周知し、理解を図るか。
- ③ 通知表（票）の記述を、どのように指導要録につなげるか。

評価を行う際、どのような点に配慮すればよいのでしょうか？

「特別の教科 道徳の指導方法・評価等について（報告）H28.7.22 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」には、「道徳科の評価の工夫に関する例」も具体的に掲載されています。ぜひ参考にしてください。

道徳科の評価の工夫に関する例（本専門家会議における意見より）

- 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等へ集積して学習状況を把握すること。
- 記録したファイル等を活用して、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝えること。
- 授業時間に発話される記録や記述などを、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード（挿話）として集積し、評価に活用すること。
- 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること。
- 1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して、よい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位時間の授業という長い期間の中でそれぞれの児童生徒の変容を見取することを心掛けるようにすること。
- 児童生徒が1年間書きためた感想文等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、内面が変わってきていることを見取ること。
- 教員同士で互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組むことにより、児童生徒の理解が深まり、変容を確実につかむことができるようになること。
- 評価の質を高めるために、評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと。

道徳科の評価記入上の留意点

県内7地区で開催された「平成30年度『特別の教科 道徳』の実施に向けた地区別研修会」では、評価の演習に取り組み、評価文の事例検討や作成に取り組みました。ここでは、研修会を通じて分かったこと、学んだことを列記します。是非、評価を行う際の参考にしてください。

○ 平成30年度「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会の研修から

〈道徳科の評価記入上の留意点〉

学びの事実を基に、飛躍させず、盛り込みすぎず、比較せず、分かりやすく、行動の記録と区別して、文章で記述する

○ 研修会を通じて分かったこと、話題になったこと

キーセンテンス	研修会を通じて分かったこと、話題になったこと
「学びの事実を基に」	なぜそう書いたか、根拠が大切です。「児童生徒の発言」や「学習の様子」「ワークシートやノートへの記述」等を記録・累積しておくことが大切です。
「飛躍せず、盛り込みすぎず」	記録しておいた「発言」や「学習の様子」「ワークシートの記録」といった根拠を曲解して記述したり、数多くの根拠を記述しすぎたりすると誤解を生じ、伝わりにくくなります。
「比較せず」	「誰よりも優れています」といった表現は、一見最大の褒め言葉に感じますが、個人内評価の基本的な考え方からはふさわしくありません。同様に、「以前より理解できるようになった」という表現も誤解を招く恐れがあり、気を付けなければならない表現です。
「分かりやすく」	「道徳的価値の理解」「道徳的判断力の高まり」といった専門用語は、児童生徒や保護者には分かりづらい言葉です。児童生徒や保護者の目線に立って、分かりやすい表現をこころがけたいものです。
「行動の記録と区別して」	あくまでも「道徳科」としての授業の評価です。行動に表れている道徳性の記述は、「行動の記録」に記述しますので、明確に区別してください。

以上の考えを基本としながら文章表現で記述します。各学校において、どのように記述するか教職員で共通理解を図りながら、児童生徒一人一人を受け止めて、認め、励ます評価の具現化に取り組んでください。

○ 研修会参加者が作成した評価文

- 「親切・思いやり」や「自然愛護」について考える授業では、友だちの発言にうなずきながら共感して聞いた、根拠に基づいて自分の意見を発言したりしていました。友だちと考えを交流する中で、友だちの考えをもと

にさらに深く考え、自分の考えを書いてまとめることができました。その考えについては、道徳ノートをご覧いただいて、ご家庭での話題にしていいただければと思います。

- 「〇〇〇」では、登場人物の役になりきって、くじけず最後まで努力することの大切さを表現しました。最後までがんばるためには、周りの応援も必要であることに気付くことができました。
- 「〇〇〇」の授業では、友達の発言にうなずきながら、熱心に耳を傾ける姿が見られました。話し合いを通して、きまりを守ることの大切さを理解し、これからの学級生活に生かしていこう、という意欲が高まりました。
- 「〇〇〇」の授業では、親切・思いやりの大切さについて考えました。友だちとの話し合いを通して、本当の思いやりとは、相手の気持ちを大切にしながら、自分にできることを行うことだと気付くことができました。
- 「〇〇〇」の授業では、人間も自然界の一員であることを忘れてはならないという意見を持ち、自然愛護について自分事として考えることができました。友だちの意見を聞いて、自分の考えをさらに深めようとする積極的な姿勢が見られました。
- 道徳の授業では、規則や友情、国際理解など、様々なテーマについて学び、自分の考えを発表できるようになりました。友達の考えをよく聞き、意見を交換する中で、自分のことだけでなく、相手のこともよく考えて問題の解決に臨む姿が見られます。
- 「〇〇〇〇〇」の授業では、自分の考えと友だちの考えを比べたり、自分だったらどうするかを考えたりする活動を通して、最後まであきらめずに取り組むことの難しさを感じていました。

授業における評価の視点及び想定される児童生徒の姿

道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような評価の視点が考えられるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え、考えようとしている。
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行為を多面的・多角的に考えようとしている。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している。
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

今後の道徳科の授業では、「道徳的価値を自己との関わりでとらえることができたか」「物事を多面的・多角的に考えることができたか」の2つが大切であることは、繰り返し述べてきました。今後の道徳科の授業案には、これら2つを具現化した評価の視点を明確に位置付けることが大切です。左のような視点を一例に参考にしなが記述し、しっかりと子どもの姿を見取りたいものです。



道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような児童生徒の姿が想定されるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ・ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
- ・道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
- ・様々な登場人物の立場で考えている。
- ・自分の考えと友だちの考えを比べて考えている。
- ・時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
- ・人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えている。
- ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
- ・日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
- ・自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。
- ・自分だったらどうするかなど考えている。

この姿は、あくまでも想定であり、一例に過ぎません。このような姿を目安にしながら子ども一人一人の素敵な学びの姿をたくさん見取り、通知表や指導要録に記載したいものです。



道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）

※ 以下の指導方法は、本専門家会議における事例発表をもとに作成。したがってこれらは多様な指導方法の一例であり、指導方法はこれらに限定されるものではない。道徳科を指導する教員が学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと把握した上で、学校の実態、児童生徒の実態、児童生徒の授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要。

※ 以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

	×	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
ねらい		教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きて上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い
		学習指導要領においては、道徳科の目標を「道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と定めている。この目標をしっかりと踏まえたものでなければ道徳科の指導とは言えない。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きて上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。	
		道徳的価値に関する内容の提示 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。	問題の発見や道徳的価値の想起など ・教材や日常生活から道徳的な問題をみつめる。 ・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本来の意味や意義への問いを持つ（原理・根拠・通用への問い）。	道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など ・教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・日常生活で、大切さが分かっているにもかかわらず実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。	
		登場人物への自我関与 教材を読んで、登場人物の判断や心情を自分との関わりで考える。 【教師の主な発問例】 ・どうして主人公は、○○という行動を取ることができたのだろう（又はできなかったのだろう）。 ・主人公はこういう思いをもって△△という判断をしたのだろう。 ・自分だったら主人公のように考え、行動することができたらだろうか。	問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など） ・道徳的な問題について、グループなどで話し合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え議論を深める。 ・グループでの話し合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。 ・道徳的な問題場面に對する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。 【教師の主な発問例】 ・ここでは、何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 ・なぜ、もし（道徳的諸価値）は大切なのでしよう。 ・どうすれば（道徳的諸価値）が実現できるのでしょうか。 ・同じ場面に出会った自分ならどう行動するのでしょうか。 ・なぜ、自分は、そのように行動するのでしょうか。 ・よりよい解決方法にはどのようなものがあるのでしょうか。	道徳的な問題場面の把握や考察など ・道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているかを考える。 問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など ・ベアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 ・実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすることの難しさなどを理解する。 道徳的価値の意味の考察など ・役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を具現化したことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ・同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しをもたせる。	
具体例	導入	登場人物の心情理解のみの指導			
	展開				
	終末				

まとめ
・教師による説話。
・本時で学習したことや今度どのように生かすことができるかを考える。
・本時を振り返り、道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。
・道徳的諸価値を身につけたり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。

	×	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
指導方法の 効果	登場人物の心情理解のみの指導	・子供たちが読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的。	・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。 ・他者対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性。 ・問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値。	・心情と行為とをすり合わせることにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。 ・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い
指導上の 留意点		道徳的諸価値に関わる問題について多様な他者と考え、議論する中で、多面的・多角的な見方へと発展し、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりで深めることが可能。 ・教師に明確な主題設定がなく、指導頼に基づく発問でなければ、「登場人物の心情理解のみの指導」にならない。	明確なテーマ設定のもと、 ・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。 ・上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。 ・議論し、探求するプロセスが重視されているか。 といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。	明確なテーマのもと ・心情と行為との齟齬や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。 ・上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。 といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒・生活指導になりかねない。	
評価		・個人内評価を記述式で行う。 ※児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達段階に応じ励ましていく評価。 ・道徳科の学習において、その学習活動を踏まえ、観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などを通して、例えば、 ○他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか ○多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか といった点に注目する必要がある。 ・学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫が必要。 ・妥当性・信頼性の確保のため組織的な取組が必要。			

※ 「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

【実践編】

平成30年度道徳教育推進校報告



県北地区道徳教育推進校「福島市立福島第四中学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	福島市立福島第四中学校
所 在 地	福島市南平5番地の8
校 長 名	佐藤 晃
教 育 目 標	自主自立の精神をもち、たくましく生きる生徒の育成 1 自ら学習に取り組む生徒 2 品位ある行動をする生徒 3 進んで奉仕活動をする生徒 4 心身をたくましく鍛える生徒
学級及び児童生徒数	学級数 17 生徒数 441名

2 研究テーマ

よりよく生きようとする生徒の育成
 ～多様な切り口で取り組む道徳教育の工夫・改善を通して～

3 研究テーマ設定の理由

本校の平成29年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙では、自分に自信をもてない生徒が多いことがわかった。このことから、生徒が学びに向かう力、自立した人間として他者とともによりよく生きようとする力の育成が大きな課題といえる。

そこで、学校教育全体で行う道徳教育を軸として、道徳教育の要となる道徳の時間を学校全体で改善し、全教職員が生徒の学びの基盤である心の育成に重点的に取り組むことが、生徒が自信をもってよりよく行動するための一助となるのではないかと考えた。

そのような中、昨年度5月に「道徳教育グランドデザイン」を作成し、「諸活動を生かした取組」「学年ローテーション授業による取組」「生徒指導的機能を生かした取組」「別業を利用した取組」の4つを柱とし、道徳の授業以外にもそれぞれの教職員の専門性を生かし、学校全体で多様な方法で道徳性を育てていくことにした。昨年度1年間研究を行い、アンケート結果等から本研究による取組が有効であることが分かったため、今年度も同じ研究主題、研究仮説、研究授業の視点で継続して研究を進めることにした。

4 研究計画

月	主 な 研 究 内 容
4 月	第1回研究協議会、本年度の研究の進め方、研究内容・方法の確認
5 月	第1回アンケート調査(生徒・教師の意識調査)の実施と集計、アンケート調査結果分析
6 月	第1回校内研修会(提案授業)実施「道徳通信(仮名)」発行
7 月	NRTテストとアンケート調査を照らし合わせながら、道徳性評価と学力とのバッテリーチェック実施
9 月	ローテーション授業開始、第2回校内研修会実施(11月に向けたプレ授業)「道徳通信」発行
11月	市教委委託学校公開及び道徳教育地区別研究協議会「道徳通信」発行(学校公開の様子等)
12月	第2回アンケート調査実施、研究集録作成
2 月	今年度研究実践の反省、次年度研究の方向性の確認

2

道徳教育推進校の実施
報告・全体計画・別葉等

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について							
〈作成上の工夫点、配慮点〉 ○ よりよく生きる力の基盤となる道徳性を養うため、自己を見つめながら多様な視点で物事をとらえ、人間としての生き方について考える学習をとおして、道徳的判断力や実践力を育成することを学校運営・経営ビジョンの重点実践事項に位置づける。 ○ 学校全体でどのような面からどのような方法で道徳性を育んでいくのかを明確にするため、道徳教育全体計画及び道徳教育グランドデザインを作成し、教職員の共通理解と共通実践が図られるようにする。 ○ 別葉は、月ごとに一覧表形式にしており、道徳の時間とそれ以外の教科や教育活動との関連を明確にしている。また、各月ごとの項目の欄に新学習指導要領の内容項目を入れたり、各学年ごとの重点内容項目を網掛けしたりすることで、各教科等との関連づけの意識化を図る。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ○ 別葉の拡大コピーを職員室の壁に貼り、実際に授業をやってみて気付いたことや変更点を赤ペンで書き込み、次年度に生かせるようにする。							
【視点2】質の高い多様な指導方法への取り組みについて							
研究主題に迫るため、以下の3つの視点で授業の検証を行う。 <table border="1"> <tr> <td>視点1</td><td>授業のねらいに迫り、生徒の考えを深める発問の工夫</td></tr> <tr> <td>視点2</td><td>多面的・多角的に考えさせたり、議論・討論させたりする授業の工夫</td></tr> <tr> <td>視点3</td><td>振り返りの方法の工夫・改善</td></tr> </table> その他、「指導案作成マニュアル」を作り、「道徳科における質の高い多様な指導方法について」（H28.7.22 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）の資料を参考にしながら、「登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」などの授業パターンを積極的に取り入れたり組み合わせる実施したりする。		視点1	授業のねらいに迫り、生徒の考えを深める発問の工夫	視点2	多面的・多角的に考えさせたり、議論・討論させたりする授業の工夫	視点3	振り返りの方法の工夫・改善
視点1	授業のねらいに迫り、生徒の考えを深める発問の工夫						
視点2	多面的・多角的に考えさせたり、議論・討論させたりする授業の工夫						
視点3	振り返りの方法の工夫・改善						
【視点3】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について							
○ 3学年では、震災をきっかけに福島市に移住し、震災復興に積極的に携わっている方をゲストティーチャーとして招き、講演会を行う。また、ゲストティーチャーの生き方との関連を図り、公開授業では「ふくしま道徳教育資料集」を活用し、郷土に対する愛情や絆の大切さを育むとともに、希望と勇気、克己と強い意志についての考えを深める授業を行う。 ○ 他学年においても「ふくしま道徳教育資料集」を積極的に活用し、特に郷土愛や絆、思いやりの大切さ、震災復興への強い意志を育むようにする。							
【視点4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について							
○ 「道徳ファイル」を用意し、授業での取組をファイルに確実に蓄積することで、学期ごとの振り返りに活用するとともに、教師が評価を行う際に参考にできるようにする。 ○ 授業ごとの振り返りの他に、生活ノート「さかみち」にも道徳の振り返りを記入する欄を設け、資料から離れ日々の生活の中で、道徳で学んだことをどのように生かしているかを記入できるようにする。 ○ 学期ごとに「道徳の振り返り（生徒の自己評価）」を記入させ、自分が成長したと感じられる所や、今後の生活の中で生かしていきたいことなどを書かせるようにする。また、新学期には担任が「道徳の振り返り（生徒の自己評価）」に「生徒を認め励ますコメント」を記入する。 ○ 来年度の教科化に向け、現職教育部が中心となって、道徳の時間や道徳教育の評価に関する先行研究等の資料を収集し、自校化を検討する。							
【視点5】家庭・地域との連携を生かした取り組みについて							
○ 地域の方で震災復興に積極的に携わっている方をゲストティーチャーとして招き、希望と勇気、克己と強い意志に関わる講演及び、関連を図った道徳の授業を実施する。 ○ 「道徳通信」を発行し、学校内の取り組みや授業の様子について保護者の方にも情報を提供する。また、道徳に関するアンケートを実施し、保護者が道徳の授業に何を期待しているのか実態を把握するとともに、教科化に向けての質問や疑問にも答えるなどして、家庭等との連携を深める。							

6 「家庭・地域との連携」について

活動のねらい

- ① 地域の方で震災復興に積極的に携わっている方をゲストティーチャーとして招いて講演会を行い、さらにそれに関連した道徳の授業を行うことで、アンケートで低かった内容項目「郷土愛」や「社会参画」を高めていく。
- ② 来年度からの教科化に向けた準備段階として「道徳通信」を発行し、道徳の取組を保護者に伝えるとともに、教科化になって何がどう変わるのかを保護者に説明する。また、「道徳の授業を通して、保護者がどのような子どもを育てほしいのか」を知るためアンケートを実施し、その結果に基づいた道徳実践を行う。

活動の概要

- ① 「ふくしま学びのネットワーク」理事・福島大学特任准教授の前川直哉氏をゲストティーチャーとして招き、「君が学ぶと世界が変わる」と題した講演会を行った。
- ② 年5回の道徳通信の発行を行った。また、保護者に「どのような子どもを育てほしいのか」というアンケートを実施し、その結果を道徳通信で知らせ、目指す子ども像について保護者と教師が共通理解を図るようにした。さらに、アンケート結果に基づいた授業実践を学校全体で試みた。

成果と課題（成果○ 課題●）

- 進路について具体的に考え始めた3年生に「人はなぜ学ぶのか」を深く考える講演会を行い、学びに対する生徒の意欲を喚起することができた。また、道徳の授業でもこの講演会を生かした授業を展開し、集団や社会のためによりよく生きようとする心情を育むことができた。
- 「道徳通信」を定期的に発行し、学校での道徳の授業の様子や道徳教育に関する情報をお知らせするとともに、教科化に対する保護者の疑問や質問に答えることができた。また、保護者が学校の道徳教育にどのような期待を持っているのかを、アンケートを通して把握することができた。
- 地域の人々との連携を図ることができなかった。特に、地域の方と保護者、生徒が同時に参加する行事や道徳的活動を取り入れることができなかったため、今後ぜひ実現させていきたい。



7 成果と課題（成果○ 課題●）

- 全教員で、「多面的・多角的、批判的に考えさせたり、議論・討論させたりする授業」に意欲的に取り組むことができた。うまくいかないこともあったが、互いに授業を見合い、アドバイスし合うことで、授業改善への意欲を向上させることができた。
- 「ふくしま道徳教育資料集」を活用し、道徳的な問題をより自分事として捉えさせ、アンケートで肯定的な回答が少なかった「郷土愛」や「社会参画」、「克己心」などを育む授業を効果的に行うことができた。
- 生徒に学期ごとの「道徳の振り返り」を記入させ、自分が成長したと感じられる所や今後の生活の中で生かしていきたい所などを書かせることにより、自分自身の成長を長いスパンで振り返らせることができた。また、担任が生徒の書いた振り返りに目を通し、コメントを書くことで、生徒自身の心の成長を把握し、認め励ます評価につなげることができた。
- ローテーション授業や「道徳通信」の発行、「生徒指導だより」の発行等を通して、「多様な切り口で取り組む道徳教育」という副主題で研究を行ってきた。しかし、別葉はまだ十分に活用しきれていないので、今後さらに「多様な切り口で取り組む道徳教育の在り方」を模索していきたい。

諸活動において育む道徳性

特別活動	教育課外の活動	総合学習
◎ 望ましい生活習慣を通して心身の調和の伸長を図り、集団の中の一人として、自主的・主体的な態度を育成する。	◎ 懇談会、PTAの会合などを通じて、道徳教育の趣意を図る。	◎ 目的を達成しようとする継続的な「意欲」を大切にし、成長に向けて「意志」を育てる。
◎ 人固との生き方を、自己の自覚を深め、自ら生かす能力を養う。	◎ 家庭・地域社会の道徳的意義や要約を把握し、行動に生かす。	◎ 自ら学び自ら考え、自主的に問題を解決する能力を養う。
◎ 学校行事を通して、家庭・地域との共通理解と協力を得るよう努める。		

諸活動を生かした取組

学年ローテーション授業による取組

各学年において育む道徳性

1 年	2 年	3 年
◎ 中学生という自覚を持たせ、基本的な生活習慣を身に付け、自立の精神を育む。	◎ 中堅学年として誠実な態度で生活させ、自己の向上に粘り強く努力する態度を育てる。	◎ 先輩としての責任感を持ち、自主自立の精神を高め、高い目標に向かって粘り強く努力する態度を育てる。
◎ 自分自身の目標を定め、それに沿って行動し、粘り強く努力する態度を育てる。	◎ 自己の向上に粘り強く努力する態度を育てる。	◎ 野心的な目標を持ち、粘り強く努力する態度を育てる。
◎ 学校や家庭における人間関係について考え、他者の思いやりに配慮し、思いやりを育む。	◎ 豊かな心をもち、生命の尊厳を尊重し、自己の生命を尊重する態度を育てる。	◎ 豊かな心をもち、生命の尊厳を尊重し、自己の生命を尊重する態度を育てる。
◎ 勤労・奉仕への関心を持ち、協力し合う態度を育てる。	◎ 勤労・奉仕意欲を持ち、協力し合う態度を育てる。	◎ 勤労・奉仕意欲を持ち、協力し合う態度を育てる。

教育目標

自主自立の精神を持ち、たくましく生きる生徒の育成

- めざす生徒**
- 学習に取り組む生徒
 - 自ら行動する生徒
 - 品性を磨く生徒
 - 進んで奉仕活動をする生徒
 - 心身をたくましく鍛える生徒

研究主題・副主題

よりよく生きようとする生徒の育成

～多様な切り口で取り組む道徳教育の工夫改善を通して～

- ◎ **目指す生徒像**
目的意識を持って様々な問題に積極的に対応し、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用しながら課題解決を図る力を持った生徒
- ◎ **研究仮説**
① 多様な切り口から様々な道徳教育に取り組む。
② 生徒が主体的に取り組む道徳の時間の工夫・改善を行う。

道徳教育基本方針

- ～時を守り、場を清め、礼を正す～
- ◎ 教育活動のあらゆる場面に道徳教育を組織的・計画的・継続的に道徳教育をすすめる。
- ◎ 道徳の目標に照らし合わせて道徳の時間の充実を図り、深化・統合させていく。

道徳の時間に育成する道徳性

道徳教育の要

- ◎ 道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める。
- ◎ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

生徒指導において育む道徳性

◎ 生徒指導の目標

生徒が自らの諸課題を、自らの手によって解決していくことのできる能力と態度を育てると共に、生徒一人一人の自己実現の援助に努める。

◎ 生徒指導の課題

- 全職員員の共通理解、共通実践の徹底
- 生徒理解にたつた指導 ○ 生徒指導だよりの活用
- 望ましい基本的生活習慣の育成
- 道徳的価値観を醸成する生徒の育成
- 自主的・自立的な態度の育成 ○ 教育相談の充実

生徒指導の機能を生かした取組

別業を利用した取組

各教科において育む道徳性

国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健	技家	英語
学習過程において、自分の生き方や真理探究の心構えを身に付けさせ、豊かな情操を養う。	国民としての自覚を高め、個人の尊厳と人格の尊重が民主的な社会の基本であることを自覚させる。	科学的な思考力の育成を通じて、科学的、合理的な生活態度を身に付け、より正確で客観的な道徳的価値判断ができるようになる。	科学的探求を通して合理的な日常生活を営む態度を育てるとともに、生命現象に関する授業を通して、生命を尊重する態度を養う。	創造活動を通して協調性や創造的な態度を養うとともに、優れた音楽に親しみ、情操豊かな人間性を養う。	造形活動を通して美的探究心を養うとともに、美術の鑑賞を通して自然美を愛する豊かな心を養う。	心身の健康の意義を理解させ、生命尊重の態度を養うと共に、運動競技を通して公正・協力・責任の態度を養う。	安全で能率的な仕事の進め方から、計画性・合理性を養うと共に、生活を明るく豊かにしようとする態度を養う。	外国人の生活習慣や考え方についての理解を通して、国際社会の一員として世界平和に貢献する態度を養う。

平成30年度【3学年】 道徳教育と各教科との関連

月	学級活動	総合的な 学習の時間	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語
4	「3年生になって」A-(4)希望、 克己と強い意志	「修学旅行のま とめ」B-(3)友情、 信頼	「握手」B-(9) 相互理解、寛容	「第二次世界大 戦」C-(18)世界 平和			「花」D-(3)感動、 畏敬の念	「ボックスア ー」A-(3)向上心、 個性の伸長			"Pop Culture Then and Now" C-(17) 伝統と文化
5											
6											"Fair Trade Event" C-(18) 国際理 解、貢献
7		「卒業研究」A-(3) 向上心、個性の 伸長		人権と日本国憲 法」C-(11)公正、 公平、社会正義	「2次方程式」 C-(11)公正、公 平、社会正義	「生物の成長と 生殖」D-(19)生 命の尊さ					
8						「遺伝の規則性」 D-(21)感動・畏 敬の念					
9	「社会の一員と しての生き方」 C-(12)社会参画、 公共の精神		「故郷」C-(12) 社会参画、公共 の精神				「混声合唱の味 わい」C-(15)学 校生活、集団生 活の充実		「バレーボール」 C-(11)公正、公 平、社会正義	「エネルギーの 有効利用」D-(3) 感動、畏敬の念	
10	「学校行事に向 けて」B-(9)相互 理解、寛容		「君待つと」C- (17)我が国の伝 統と文化の尊重、 国を愛する態度		「相似な図形」 C-(16)郷土の伝 統と文化の尊重				「柔道」C-(17) 我が国の伝統と 文化の尊重、国 を愛する態度		
11					「相似な図形」 D-(21)感動、畏 敬の念		「オペラ」C-(18) 国際理解、国際 貢献	「堆朱のストラ ップ」C-(17)我 国の伝統文化 の尊重			Striving for a Better World A- (4)勇気と希望強 い意志
12											
1					「標本調査」D- (20)自然愛護	「自然の中の生 物」D-(20)自然 愛護				「子どもにとっ ての家族」D-(19) 生命の尊さ	
2	「卒業までの生 活」A-(2)節度、 節制	「卒業後の思 い」B-(6)思いや り、感謝	「誰かの代わり に」D-(22)より よく生きる喜び						「バスケットボ ール」C-(11)公 正、公平		
3						「科学技術の人 間」D-(22)より よく生きる喜び					

県中地区道徳教育推進校「郡山市立大島小学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	郡山市立大島小学校
所 在 地	郡山市並木四丁目10番地
校 長 名	早川 文之
教 育 目 標	自分の考えをもち、ねばり強く努力できる心豊かなたくましい児童の育成
学級及び児童生徒数	学級数 25 児童数 614名

2 研究テーマ

主体的に考え、共に学び合う心豊かなけやきっ子の育成

～かかわり合い、実感し、自己をみつめる活動を通して～

3 研究テーマ設定の理由

(1) 本校の教育目標から

本校では、重点目標である「一人ひとりを大切にし、豊かな心を育む『心の教育』の充実に努める」ために、一人ひとりの特性を理解しながら、児童の心に寄り添った指導・支援をしている。また、学校・学級集団として、他者とかかわる中で、自分のよさや他者との違いに気づき、共に高め合うことが、豊かな心を育むためには不可欠であると思われる。そのためには、児童が多様な価値観と出会い、考えを深め、実感を伴って道徳的価値のよさや大切を理解することが必要である。

(2) 児童や地域の実態から

本校の児童は、明るく素直で、与えられた学習に積極的に取り組むなど大人の指示や学校の規則を尊重しようという意識が高い。一方、道徳科では、自分の考えを書いたり、相手に伝えたりすることに、抵抗を感じている児童も多い。

本校は、市の中心部に位置し、保護者の教育に対する意識も高く、学習塾などの習い事に取り組ませるなど、教育に熱心な家庭が多い。一方で、友達とかかわりを心配している保護者も少なくない。

4 研究計画

月 日（曜日）	主な研究内容	備 考
5月2、16、30日	現職教育推進委員会（研究内容の検討等）	実施学年：5年
6月 1日（金）	現職教育全体会（研究内容の共通理解）	
6月29日（金）	授業研究（事前事後研含む）「5年3組」	
7月18日（水）	校内研修（講演） 講師：二本松市立渋川小学校長 渡邊 真魚様	
8月20、21日	校外研修	場所：上越教育大学 実施学年：6年 実施学年：4年
8月31日（金）	授業研究（事前事後研含む）「6年1組」	
9月11日（火）	授業研究（事前事後研含む）「4年1組」	
9月18日（火）	校内研修（師範授業・講演） 講師：郡山市立宮城小学校教頭 伊藤 貴史様	
10月3、5、15日	授業研究（事前事後研含む）	実施学年：1、3年、特支 講師：秋田公立美術大学 実施学年：2年
11月 2日（金）	道徳教育地区別推進協議会（1年4組3年4組5年1組公開授業）	
11月20日（火）	授業研究（事前事後研含む）「2年2組」	
11月13、20日	現職教育推進委員会/全体会（研究のまとめ）	
1月15日（火）	現職教育全体会（反省・次年度の見通し）	

5 研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について 〈作成上の工夫点、配慮点〉 ○ 道徳教育全体計画では、学校教育目標を受け、道徳教育の重点目標を「節度ある生活を送る」「生命を大切にする」に設定した。さらに、各ブロックで、児童の実態や伸ばしたい力をもとに、重点目標・指導の重点を明確にした。 ○ 別葉は、教職員で共通理解を図り、教育活動全体で重点とする内容項目の指導に当たれるように、各学年の重点目標をもとに、行事や特別活動、各教科との関連を矢印で示した。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ○ 別葉に、各担任が追加や変更点を書き込み、次年度に生かすようにする。 ○ 学級における道徳教育指導計画は、児童の実態や担任の願い等をもとに作成し、学級経営誌に綴り、学期ごとに反省し重点目標の達成に生かすようにする。
【視点２】質の高い多様な指導方法への取組について 主体的に考える子どもの育成にむけて、 ① 自分を重ねて考えることのできる課題提示の工夫 共に学び合える子どもの育成にむけて、 ② 自他の思考過程を吟味・共有する場の工夫 心豊かな子どもの育成にむけて、 ③ 地域・家庭とのかかわりを意識した振り返りの工夫
【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について 主体的に考える子どもの育成にむけて、 ① 身近に起こった福島のこと、関心をもって考えられる教材提示の工夫 ② 自分事として道徳的価値を考え、表出することができる話合いの工夫 心豊かな子どもの育成にむけて、 ③ 学習した内容が実感できる振り返りの工夫
【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について 「多面的・多角的な見方へと発展したか」「道徳的価値の理解ができたか」を、 ① 話合い中に、児童の姿から見取る。 ○ 学習形態を工夫し、児童同士の対話の中で見取る。 ○ 意図的な指名をすることで、児童の表情やつぶやきから見取る。 ② 終末に、児童が書いたものから見取る。 ○ 自己を見つめながら書かせ、道徳的価値の理解が深まったかを見取る。 ○ 書いたものを累積し、長期間での変容を見取る。 ○ 授業後に、励ますコメントを担当が記入することで、励ます評価を行う。
【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について 心豊かに育てる学校・学級づくりを推進するために、 ○ 道徳だよりの発行（学校での取組を伝える） ○ ゲストティーチャーの活用（地域や保護者の方を招聘） ○ 地域行事への参加（敬老会など） ○ 他教科との関連（福祉施設への訪問など） などを行っていく。

6 「家庭・地域との連携」について

【道徳だよりの発行】

家庭・地域との連携を図るために、校内で実践していることを伝えることをねらいとして、道徳教育推進教師から「道徳だよりの発行を行った。おたよりの内容は、主に道徳科の授業や教職員の研修の様子である。保護者からは、学校での実践の様子が分かり、家庭でも、道徳科の授業の様子を子どもに聞くようになったなどの声があった。発行回数が少なくなってしまったことが課題であり、よりよく伝えるための体制を整えていくなど、今後に向けて考えていきたい。

【ゲストティーチャーの活用】

読書を通して、児童の心を耕したいという保護者や地域の方からの思いから、毎週金曜日の朝に「カルガモお話会」という名前で、PTAの方による読み聞かせを実施した。児童は、保護者や地域の方の読み聞かせを楽しみにしており、目を輝かせながら興味深く聞く児童の姿が見られた。また、保護者や地域の方は、児童の成長を楽しみにし、学年に応じて本を精選し、家庭・地域で児童を育てているという一体感があつた。



【地域行事への参加】

地域とのつながりや触れ合いを通して、他者を思いやる心や敬う心を育むために、敬老会で受付後のお年寄りを誘導するなどのお手伝いを行った。お年寄りの手を取り、ゆっくり歩いたり、大きめの声で話したりするなど自然と相手を思いやる行動をとっている姿が見られた。しかし、それらのよさが校内で伝わらないところがあった。児童のよさが校内で伝わるようにするとともに、よさを生かした発展的な活動につながるようにしていきたい。

7 成果と課題（○成果 ●課題）

（1）視点1～5について

- 道徳科の授業において、本校における道徳教育の重点目標を各学級の児童の実態に即して実践できるように、事前アンケートを活用したり、他教科との関連を別葉で明確にしたりしながら取り組んできたことで、ねらいとする道徳的価値に迫ることができた。
- 教材の中で、場面を比較させる時に、思考ツールや役割演技、ワークシートなどを取り入れたことで、「自分だったら、こうする。」と、一人一人が教材の登場人物と自分を重ね合わせて、道徳的価値についての考えを深めることができた。
- 授業の終末において、地域の方の手紙の紹介や教師の説話をを行ったことで、教材の中だけの世界という認識から、自分たちの日常生活に関わることでありと捉えさせたことで、他者意識をもった言動が見られるようになった。
- 互いの意見を交流する話し合いにおいて、学習形態の工夫や意図的指名などを行った。友達の考えを受けて自分の考えを少しずつ伝えることができてきたが、自分の考えの幅を広げられる聞き方の工夫と自分の考えを十分に伝えることができる時間の確保が必要であった。

（2）研究テーマについて

- 教師が明確にねらいをもち効果的な手立てを講じることで、児童の身近にいる友達、教師、家庭、地域との関わりを、児童が他人事でなく自分自身のこととして、主体的に考えていくことが分かった。
- 振り返りの場を設定し自己を見つめる活動を取り入れてきたことで、普段の生活の中で「この間、道徳でやったことと似ている場面だ。」などと実感を伴いながら道徳的価値のよさや大切さを理解したり、「このままで、本当にいいのか。」と、自分の行動を振り返ったりしながら自分の生き方を考える機会になった。
- 本研究1年目ということもあり、指導方法が研究の主になってしまう部分が多かった。授業の中で、児童一人一人が、どのような経験から、何を考え、何を伝えたいのかを、まず教師自身が見取り、児童が思う存分自分の言葉で伝えるのを教師や仲間が聞き入り、受け止めることができるように、今後の研究を進めていきたい。

平成30年度 道徳教育全体計画

小46 郡山市立大島小学校



第6学年 道徳教育年間指導計画

学年の目標
自分たちの生活を見直し、節度を守り、節制に心がける。A-7 節度、節制 生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。D-10 生命の尊重 互いに信頼し、学び合って友情を深め、協力し助け合う。B-15 友情、信頼 働くことの意義を理解し公共のために役立つことをする。C-21 勤労、公共の精神

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主な学校行事	始業式 授業参観 運動会 選抜訓練 交通安全教室 1年生を迎える会	運動会 家庭訪問 知能検査	鑑賞教室 新体力テスト プール開き 交通安全教室	授業参観 奉仕活動 水泳記録会 終業式	始業式	発育測定	開校記念日	持久走記録会 教育相談 けやきつ子発表会	奉仕活動 終業式	始業式 発育測定	鼓笛移杖式 6年生を送る会 リーダー講習会	奉仕活動 修了式 卒業式
道徳の時間	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)
総合的な学習 の時間との連携	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)	自分自身 個性の伸長 A-(1)
特別活動	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼	健康安全・体育的行事 B-18 友情、信頼
国語	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	カレーライス A-1 個性の伸長 C-9 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
社会												
算数												
理科												
音楽												
図工												
家庭	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀	食事の役割 A-7 節度、節制 B-33 礼儀
体育	陸上運動 B-18 友情、信頼	陸上運動 B-18 友情、信頼	陸上運動 B-18 友情、信頼	陸上運動 B-18 友情、信頼	陸上運動 B-18 友情、信頼	陸上運動 B-18 友情、信頼	陸上運動 B-18 友情、信頼	陸上運動 B-18 友情、信頼	陸上運動 B-18 友情、信頼	陸上運動 B-18 友情、信頼	陸上運動 B-18 友情、信頼	陸上運動 B-18 友情、信頼
保健												
英語												

県南地区道徳教育推進校「中島村立吉子川小学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	中島村立吉子川小学校
所 在 地	福島県西白河郡中島村大字二子塚字家来47番地
校 長 名	石沢 泰蔵
教 育 目 標	あかるく たくましい子ども やさしく おもいやりのある子ども めあてをもって がんばる子ども
学級及び児童生徒数	学級数 6 児童数 117名

2 研究テーマ

多様ななかかわりの中で自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成
～考え、議論する道徳の授業実践を通して～

3 研究テーマ設定の理由

本校は児童数117名で、全体的に素直で明るく、個性豊かな中にも、何事も一生懸命取り組むことができる児童が多い。学校行事などでは学級で協力して取り組んだり、縦割り班で仲良く活動したりしている。陸上部の活動が年間を通して行われていることに加え、地域のスポーツ少年団などに所属している児童も多く、自分の得意な分野で積極的に力を発揮している。反面、学習や生活場面において受け身で消極的な児童が多く、主体性に欠けているところがある。また、規範意識はあるものの、場の雰囲気や友達とのやりとりの中で流されてしまうことがある。

保護者は、学校に対して協力的であり、学習内容や児童の友人関係に関して関心が高い。子どもに対して、思いやりの心や温かい心をもち、仲間の気持ちを理解して協力し合える子どもになってほしいという願いをもっている。

このような実態を踏まえ、児童が多様な関わりの中で、道徳的事象や価値を多面的・多角的にとらえ、客観的に自己を見つめ直し、よりよい自分を目指して学び続ける力を育成していきたいと考える。

以上のことから、問題解決的な授業を通して、道徳的価値について、考えを深める指導方法を工夫し、自己を見つめ、よりよく生きようとする児童を育成することを目指し、本テーマを設定した。

4 研究計画

月日（曜日）	主な研究内容
4月 4日（水）	研究推進委員会・全体会
5月 31日（木）	先進校視察：福島大学附属小学校
6月 8日（金）	第1回授業研究会（第2学年）事後研究会
6月 29日（金）	第2回授業研究会（第3学年）事後研究会 指導助言者：白河市立白河第三小学校 江花 洋介 様
7月 17日（火）	学校課題研究全体会 ・1学期の反省と実践についての交流、情報交換
8月 21日（火）	先進校視察：東京学芸大学附属小学校小金井校
9月 11日（火）	第3回授業研究会（第5学年）事後研究会 ※村幼小中連携授業公開 指導助言者：県南教育事務所指導主事 渡邊 泰昌 様
9月 13日（木）	第4回授業研究会（第4学年）事後研究会 講師：聖徳大学大学院教職研究科教授 吉本 恒幸 様
10月 12日（金）	第5回授業研究会（第4学年）事後研究会 指導助言者：県南教育事務所指導主事 渡邊 泰昌 様
11月 9日（金）	第6回授業研究会・模擬授業
11月 19日（月）	第7回授業研究会（第1・6学年）事後研究会 ※道徳地区別推進協議会 講師：泉崎村立泉崎第一小学校長 小野 聡 様 講師：聖徳大学大学院教職研究科教授 吉本 恒幸 様
12月 7日（金）	研究のまとめ（推進校報告書作成）に向けて

2

道徳教育推進校の実施
報告・全体計画・別葉等

5 研究推進にあたって

【視点 1】道徳教育全体計画及び別葉の作成・活用上の工夫点、配慮点について
〈作成上の工夫点、配慮点〉 ① 「特別の教科 道徳（以下、道徳科）」完全実施を受けた、年間 3 5 時間（1 学年は 3 4 時間）以上を確実に実施し、教育課程を適正に実施する。 ② 地域、保護者の理解と協力を得るための基盤づくりとして、各学年の授業参観において道徳科の授業を行う。 ③ 「考え、議論する道徳」の推進を全校的な取組とし、授業研究を校内研究の中心に据え、授業改善を行う。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ○ 「見直しを繰り返し、活用できる別葉」を目指して計画的に進める。そのために、日々の教育活動が道徳教育とどのように関連しているのかを点検し、課題点について別葉にメモを残すなどして次年度へ生かす。
【視点 2】質の高い多様な指導方法への取組について
① 育てたい道徳性を明確にする工夫：「本時で育てたい道徳性は何か」「学年や児童の実態に合っているか」の観点での吟味・検討を行い、ねらいの焦点化を図る。 ② 課題解決のために多面的・多角的に考えさせる工夫：役割演技や動作化などの体験的な学習を取り入れた指導を工夫する。 ③ 自己を見つめさせる指導の工夫：自分が考えたことや感じたこと、学んだことを振り返ることができるノートやワークシートの活用を工夫する。
【視点 3】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について
① ふくしま道徳教育資料集の中から、本校の児童の実態に合った資料を検討し、どの時期にどのような授業を実践するかについて研修を深める。 ② 採用教科書の内容項目が同じ教材と入れ替えたり併用したりした場合には、記録を残し、次年度に重複しないように留意する。
【視点 4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について
① 全学年で共通の道徳ノートを採用する。なお、教材研究の結果、既定のノートの型が合わないと考えた場合は、担任がワークシートを作成し、ノートに貼付して活用する。 ② ノートに自分の考えを書かせ、励ましのコメントを入れる。 ③ 授業において、児童が力を発揮し、資質や能力の伸びのあった部分を個人内評価する。
【視点 5】家庭・地域との連携を生かした取組について
① 9 月の授業参観では、全学級道徳の授業を公開する。 ② ノートは、家庭に持ち帰り、学習状況や児童の道徳性に係る成長の様子を知らせることで、連携を深めていく。 ③ 村小中連携事業の一つとして道徳の授業を公開し、村内の幼小中の教職員に参観を呼びかけ、研修を深める。

6 「家庭・地域との連携」について

道徳科への関心を高めるための保護者アンケートの実施

【活動のねらい】

- 道徳教育及び道徳科についての保護者の理解・関心を把握し、研究内容に生かす。
- 保護者の意識の変容を捉え、取組の改善に生かす。

【活動の概要】

- 7月と10月に2回実施し、結果を分析し変容を捉えた。

【成果と課題】（成果○ 課題●）

- アンケートの結果、1学期には保護者の疑問や不安、関わりの少なさが見られた。しかし、2学期後半には、授業への期待や満足感が高まった。また、家庭内でも道徳の授業が話題になり、家庭の関心も高まった。

土曜授業における全校一斉道徳授業参観の実施

【活動のねらい】

- 道徳科の学習の様子を知っていただき、保護者の興味・関心を高める。

【活動の概要】

- 9月の土曜授業において、全学年道徳科授業参観を実施した。

【成果と課題】

- 前述のアンケートには、実際の授業を見ていただいたの肯定的な意見や、家庭とのつながりが大切であるとの意見などが多く寄せられた。授業参観以前と比べ、保護者の理解が深まったと感じた。
- 「教科書だけにとどまらない授業もお願いしたい。」という意見もあった。道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行っており、道徳科はその要であることについて、保護者の理解を得られるようはたらきかけていく必要がある。さらに、道徳科で扱っている内容が学校生活だけで完結するものではないことをより多くの保護者に実感していただき、連携を深めていきたい。



7 成果と課題（成果○ 課題●）

- ねらいの焦点化を図ることで、児童が課題意識をもって授業に臨むことができた。
- 先行オーガナイザーによる教材提示により、児童が短時間で教材の内容を把握することができた。その結果、展開後半や終末の時間を確保できるようになった。
- ペアやグループ、一斉による話し合い等の学習形態を、考えの広がったり深まったりする学習場面に取り入れたことで、多様な考えに触れさせることができた。
- 動作化や役割演技等の体験的な学習を取り入れることで、多面的・多角的に考えさせることにつながった。
- 授業の流れに沿って、テーマ、児童の考えを、理解しやすい配置を考えて板書したことは、授業の終末に振り返りをする際の手助けとなった。
- 発問によっては児童の考えが深まらなかったり、意図した話し合いにならなかったりすることもあった。気持ちを揺さぶる発問も検討し、迷いや葛藤を引き出すことにつなげたい。
- 板書については、思考の流れや順序を示すようなものだけでなく、教師が意図を持って対比的、構造的に示したり、中心部分を明確にしたりするなどの工夫について研究を進める必要がある。
- 今年度は、全学年共通の道徳ノートを活用した。しかし、全ページが同じ構成になっているため、授業によっては、使いにくい場合があった。そこで、教材や児童の実態に合わせ、教師が自作したワークシート等を貼付して活用した。今後は、自校化したノートを考えたり、ノート指導の充実を図ったりすることが必要である。

道 徳 教 育 全 体 計 画

教育関係法令等	学 校 教 育 目 標	児童の実態
教育関係法規・学校教育法 学習指導要領・教育機関諸 法規・いじめ防止対策推進 法・その他の関係法令	あやめのように清らかで豊かな心を持って 社会に奉仕する子どもの育成 ○ あかるく たくましい子ども ○ やさしく おもいやりのある子ども ○ めあてをもって がんばる子ども	・ 素直で明るい。きまりを守ろうとする子が増えてきている。 ・ 人のために進んで働こうとする奉仕の心が育ってきている。 ・ 努力する気持ちが育ってきた。
		教師
		・ 生命の尊さを知り、大切にしてほしい。
		保護者の願い
		・ 思いやりや温かい心を持ち、仲間の心を理解し協力し合える子どもになってほしい。 ・ 何事にも粘り強くやり抜く子どもになってほしい。

目 指 す 子 ど も 像 と 重 点 内 容		
低 学 年	中 学 年	高 学 年
- よい習慣を身につけ、気持ちよく生活できる子ども - 進んであいさつをし、明るく生活する子ども - 生きる喜びや生命の大切さを感じる子ども - 仕事を喜び、一生懸命に働く子ども	- よい習慣を身につけ、自分の生活をよりよくできる子ども - 相手のことを考えて行動する子ども - 生命の尊重を知り、生命のあるものを大切に する子ども - 自ら仕事を見つけ、進んで働く子ども	- 自分の生活を振り返り、さらに工夫してよい習慣にしようとする子ども - 思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って行動する子ども - 生命がかけがえのないものであることを知り、 自他の生命を尊重することができる子ども
A 主として自分自身に関する事		
〔善悪の判断、自律、自由と責任〕	〔節度、節制〕	〔自主、自律、自由と責任〕
B 主として人との関わりに関する事		
〔親切、思いやり〕	〔友情、信頼〕	〔相互理解、寛容〕
C 主として集団や社会との関わりに関する事		
〔規則の尊重〕	〔公正、公平、社会正義〕	〔よりよい学校生活、集団生活の充実〕
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事		
〔生命の尊さ〕	〔生命の尊さ〕	〔よりよく生きる喜び〕

各 教 科	道 徳	特 別 活 動	総合的な学習の時間
<国語> 人間性豊かに物事を深く感じ取る心情を育成する。 <社会> 人間尊重の精神を育てるとともに、国家や郷土に対する愛情を育てる。 <算数> 根気強く問題解決を図る態度を養う。 <理科> 自然に接し、自然を大切に する心情を養う。 <生活> 具体的な活動や体験を通して自立の基礎を養う。 <音楽> 豊かな情操を養い、うるおいのある生活態度を育てる。 <図工> 美しい物を大切にする心情を育てる。 <家庭> 家族の一員として、家庭をよりよくする態度を養う。 <体育> 健康で安全な明るい生活を営む意欲を育てるとともに、協力して実践する態度を養う。	- 授業を充実させ、道徳的実践力を育成する。 - 年間指導計画に基づいて計画的・発展的に指導する - 各教科、特別活動、総合的な学習の時間、その他の教育活動における道徳教育を補充・深化・統合する。 - 道徳的心情を豊かにし、児童の道徳的判断力を高め道徳的態度と実践意欲の向上を図る。 - ねらいとする道徳的価値を追究し主体的に自覚させる。 - 実践を可能とするために必要となる内面的資質としての道徳的実践力を養う。 - 私たちの道徳の活用を図る。 - ふくしま道徳資料集の活用を図る。	望ましい集団活動を通して、自主的・実践的な態度を育成する。 <学級活動> 学級生活の充実と向上を図り、安全な生活をしようとする態度を養う。 <児童会活動> 学校の全児童をもって組織し、学校生活の充実と向上のために諸問題を話し合い、協力してその解決を図る活動を通して、集団の一員としての自覚や協力的態度を育てる。 <クラブ活動> 異学年の集団活動を通して、共通の興味や関心を追究する活動を行おうとする態度を育てる。 <学校行事> 豊かな体験活動を通して、内面に根ざした道徳性を養う。	- 児童の興味や関心に基づく体験的な学習を通して、道徳性の育成を図る。 - 総合的な学習の時間における豊かな体験と道徳の時間との関連を図り、道徳教育を推進する。
			その他の教育活動
			<清掃> 学年を越えて協力し合い、学校をきれいにしようとする態度を育てる。 <給食> 食事ができることに感謝の気持ちを持ち、正しいマナーで食事をしようとする態度を育てる。 <外国語活動・国際交流> 外国人講師との交流を通して外国の人々や文化を大切にし、世界の人々と仲良くしようとする態度を育てる。

生 徒 指 導
日常生活のあらゆる場と機会をとりえて、基本的な生活習慣や集団への参加の仕方及び、学習意欲、習慣等について、情意面までふれた支援をするとともに、道徳の実践の場とする。 - 一人一人に集団生活の喜びを味わわせる。 - よい習慣を身につけ、よりよい生活をめざそうとする態度を養う。 - 自主的・創造的に行動する道徳的実践力を高めるようにする。 - 意欲的に学習に取り組めるようにする。 - 情操豊かで、うるおいのある生活ができるようにする。

学 級 経 営	家 庭 ・ 地 域 社 会 と の 連 携
学級内に温かい雰囲気と好ましい人間関係を育成し、諸活動を通して学級集団の質的な高まりと、児童一人一人の望ましい人間的な成長を図る。	道徳教育についての理解と啓発を図り、連携や協力を進めることにより、道徳性の向上を促す。 - 学校便り、学級便り、PTA便りの発行 - あいさつ運動の励行 - ゲストティーチャーとして、地域の人材活用 - 授業参観における道徳の授業の公開

平成30年度 道徳教育の内容と各教科の関連一覧表(道徳教育全体計画別葉) 第6学年

6 学年	高学年の 重点目標	自由を大切に、自主的に判断し、責任のある行動をする。	A-(1)
		自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	B-(11)
		先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学校や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。	C-(16)
		よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。	D-(22)

内容 \ 月		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
学校・学年に関わる主な学校行事		始業式 入学式 身体計測等 交通安全教室 授業参観 避難訓練 全国学力・学習状況調査	運動会 交通安全パレード 芸術鑑賞教室 家庭訪問	修学旅行 学習旅行 異文化体験学習 プール開き よい歯の教室 内科検診等	よい歯の教室 着衣水泳 防犯訓練 愛校活動 授業参観 終業式	始業式 身体計測等 水泳記録会	身体計測等 交通安全教室 授業参観
道 徳 ◎ 重 点		自分は自分 A-(4)個性の伸長 どんな心が見えますか C-(12)規則の尊重	ホワイトハウスにできた柔道場 C-(18) 国際理解、国際親善 チョモランマ清掃登山隊 D-(20) 自然愛護 ◎移動教室の夜 A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任 こだわりのイナバウアー B-(8) 感謝	食べ残されたえびになみだ B-(3) 節度、節制 ある日、町の中で B-(7) 親切、思いやり アイナふくしま D-(17)強度の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 その思いを受け継いで D-(19) 生命の尊さ	◎お別れ会 B-(11)相互理解、寛容 米作りがアフリカを救う C-(18) 国際理解、国際親善	どれい解放の父リンカン C-(13) 公正、公平、社会正義	ミッキーマウスの誕生 A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志 ロレンゾの友達 B-(10) 友情、信頼 はじめてのアンカー C-(15) 家族愛、家庭生活の充実
総合的な学習の時間		鼓笛 見つめようふるさと	鼓笛 見つめようふるさと	異文化体験学習	見つめようふるさと	見つめようふるさと	見つめようふるさと 自分の思いを表現しよう
特 別 活 動	学級活動(1)	○学級の組織・めあてを決めよう ○数高学年としてのあり方を話し合おう	○運動会を成功させよう	○異文化体験学習の準備をしよう ○異文化体験学習をしよう		○2学期の学級の組織・めあてを決めよう	○縦割り班活動の準備をしよう
	学級活動(2)	●6年生になって	●生活状況調査 ●図書館の利用の仕方	●よりよい家庭学習のしかた ●修学旅行に向けて	●歯科衛生について ●夏休みの計画		●縦割り班での自分の役割 ●防災のあり方(防災教育)
	クラブ児童会	校外子ども会① クラブ活動開始	委員会活動開始		(校外子ども会②)		縦割り班活動での自分の役割
教 科	国 語	○言葉の準備運動 ○詩を味わおう 一登場人物の心情をとらえ、感想をまとめよう ○漢字の広場① ☆全国学力学習状況調査 ○春のいぶき	○春のいぶき 二季節の季節をとらえ、自分の考えを発表しよう ○広場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	○漢字の形と音・意味 ○本は友達 ○漢字の広場② ○聞いて楽しもう ○夏のさかり 三町のよさを伝えるパンフレットを作ろう	三町のよさを伝えるパンフレットを作ろう	○詩を味わおう ○熟語の成り立ち	○言葉を選んで、短歌を作ろう ○漢字の広場③ 四意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう
	社 会	1 日本の歴史 ○導入 1 縄文の村から古墳のくにへ	2 天皇中心の国づくり	3 貴族のくらし 4 武士の世の中へ 5 今に伝わる室町文化 6 3人の武将と天下統一	6 3人の武将と天下統一 7 江戸幕府と政治の安定	9 明治の国づくりを進めた人々 10 世界に歩み出した日本	
	算 数	■不思議なパスカルの三角形 1 文字をつかった式 2 対称な図形	■切り紙遊び 3 分数のかけ算	4 分数のわり算 5 速さ	■たまごパズル	6 円の面積	■2つの数を見つけよう 7 比例と反比例
	理 科	○地球と私たちのくらし 1 ものの燃え方と空気	2 動物のからだのはたらき	3 植物のからだのはたらき ○学びをつなごう① 4 生き物のくらしと環境	○学びをつなごう② ○わたしの研究	5 太陽と月の形	6 大地のつくり
	音 楽	○にっぽんのうたみんなのうた ○音の重なりとひびき	○音のスケッチ	○ひびき合いを生かして ○演奏のみりよく	○演奏のみりよく	○にっぽんのうたみんなのうた	○音楽のききどころ ○豊かな表現を求めて
	図 工	○感じたままに花	○なぞの入口から・・・ ○強く優しい組木パズル	○墨のうた	○クロースアップで見る新世界	○布と枝のコンサート	○わたしのお気に入りの場所
	家 庭	1 わたしの生活時間 ①生活時間を調べよう ②生活時間をくふうしよう 2 いためてつくろう朝食のおかず	②いためてみよう 3 クリーン大作戦 ①そうじのしかたを見直そう	②そうじのしかたをくふうしよう 4 暑い季節を快適に ①すずしい住まい方をくふうしよう	②すずしい着方をくふうしよう	③洗たくをしてみよう	5 楽しくソーイング ①つくりたい物を考えよう ②計画を立ててつくろう
	体 育 (保 健)	○体づくり運動(体ほぐし) ○陸上運動(短距離走・リレー)	○表現運動 ○陸上運動(ハードル走) ○タグラグビー ○器械運動(鉄棒運動)	○持久走 ○新体力テスト ○保健(病気の起こり方・感染症の予防) ○着衣水泳	○クロール・平泳ぎ	○水泳記録会	○体づくり運動(体ほぐし) ○陸上運動(高跳び) ○陸上運動(ハードル走) ○陸上運動(幅跳び)
	英 語	1 Do you have "a"? 言語 文字	2 When is your birthday? 行事 月 日付 3 I can swim. スポーツ 動作	4 She can run fast. He can jump high. インタビュー 紹介	5 I like my town 施設と建物	5 I like my town 施設と建物	6 Turn right. 建物 道案内 7 Let's go to Italy. 世界の国々 世界の生活
	生活全般における指導		連休生活指導① 3ー(1) 生命尊重	連休生活指導② 3ー(1) 生命尊重		夏季休業前生活指導 3ー(1) 生命尊重	夏季休業後生活指導 1ー(1) 望ましい生活習慣
家庭・地域・その他の関連・連携			運動会 1ー(2) 勤勉・努力				

2

道徳教育推進校の実施
報告・全体計画・別葉等

第6学年

10月	11月	12月	1月	2月	3月
歯科検診 地区陸上競技会 校内絵を描く会月間 避難訓練 校内マラソン大会 あやめ発表会	個別懇談 愛校活動	幼稚園年長児学校訪問 個別懇談 終業式	始業式 身体計測 村学力調査	新入学児童一日入学 中学校訪問 授業参観	6年生を送る会 愛校活動 修了式 卒業式
のりつけされた詩 A-(2) 正直、誠実 ひとと厚 B-(10) 友情、信頼 美しいお面 D-(21) 感動、畏敬の念 命を見つめて D-(19) 生命の尊さ 見つめようふるさと 自分の思いを表現しよう	マザー・テレサ C-(14) 勤労、公共の精神 光をともし「魔法の薬」 A-(6) 真理の探究 ◎小川笙船 D-(22) よりよく生きる喜び ◎会話のゆくえ A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任	◎フランコ乗りとピエロ B-(11) 相互理解、寛容 市民に愛される動物園を目指して A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志 大みそかの朝に A-(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	ラッシュアワーの惨劇 D-(19) 生命の尊さ 熊野の森を守る南方熊南 D-(20) 自然愛護 行為の意味 B-(7) 親切、思いやり	◎鬼の銀蔵 A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任 ◎ラグビー日本代表のかがやき D-(18) よりよい学校生活、集団生活の充実 心にふく風 B-(9) 礼儀	最後のおくり物 B-(7) 親切、思いやり ◎青の洞門 D-(22) よりよく生きる喜び
〇学級や学校の問題を話し合おう 〇あやめ発表会の役割を話し合おう	〇卒業文集の計画を立てよう 〇卒業文集をつくろう	〇お楽しみ会の計画を立てよう 〇お楽しみ会をしよう	〇3学期の学級の組織・めあてをつくろう 〇感謝を伝える計画を立てよう	〇感謝を伝える準備をしよう 〇6年生のさよなら会の計画を立てよう 〇お世話になった学校をきれいにしよう	〇6年生のさよなら会をしよう
●性の被害（性教育） ●あやめ発表会に向けて	●食品添加物に気をつけよう ●上手な頼み方・断り方	●冬休みの計画	●健康な生活を送るために		●もうすぐ中学生
		(校外子ども会③)		校外子ども会④	6年生を送る会
〇漢字の広場④ 〇生活の中の言葉 五 自分の感じたことを、断片で表現しよう 〇秋の深まり 六 筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう	〇読み取ったことや感じたことを表現しよう 〇漢字を正しく使えるように 七 伝統文化を楽しもう	〇日本で使う文字 〇漢字の広場⑤ 〇言葉について考えよう	〇声に出して読もう 〇詩を味わおう 八 筆者の考えをとらえ、自分の考えと比べて書こう 〇漢字の広場⑥ 〇随筆を書こう	〇カンジ博士の山登り 〇春を待つ冬 九 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう	〇話し方を工夫し、資料を察してスピーチしよう 〇卒業するみなさんへ
11 長く続いた戦争と人々のくらし	12 新しい日本、平和な日本へ	2 わたしたちの生活と政治 〇導入 1 子育て支援の願いを実現する政治 (震災復興の願いを実現する政治)	2 国の政治のしくみ 3 わたしたちのくらし	3 世界の中の日本 〇導入 1 日本とつながりの深い国々 2 世界の未来と日本の役割	*学習のまとめ
■うさぎとかめ 8 角柱と円柱の体積 ■分数で考えよう	9 比 10 拡大図と縮図	●およその面積と体積 11 場合の数	〇学習をふり返ろう 12 資料の調べ方 13 いろいろな単位 ■円筒分水 ■分銅の重さ	●算数を使って考えよう ◎6年のまとめ ◎算数のまとめ	◎算数のまとめ
7 変わり続ける大地 〇 学びをつなごう③ 8 てこのはたらき	9 水よう液の性質とはたらき	9 水よう液の性質とはたらき	10 電気と私たちのくらし	〇 学びをつなごう④ 11 地球に生きる	〇 たくさんの発見をしたね
※全校合唱 ※創作	〇音のスケッチ	〇ジャズとクラシック音楽の出会い	〇私たちの国の音楽	〇音楽に思いをこめて 〇音楽ランド	〇音楽ランド
〇わたしのお気に入りの場所	〇おどる光、遊ぶかげ 〇見つけたことを話してみよう	〇はさみと紙のハーモニー	〇白い物語 〇私はデザイナー	〇私はデザイナー	〇白の世界
③楽しく使おう 6 くふうしよう おいしい食事 ①バランスのよいこたてを考えよう	2楽しく、おいしい食事をくふうしよう 7 共に生きる生活 ①わたしたちの生活と地域	②わたしの気持ちを伝えよう	②わたしの気持ちを伝えよう	③身近な食品でおかずを作ろう	③考えようこれからの生活 ④成長したわたしたち 中学生に向かって
〇持久走 〇器械運動（鉄棒運動） 〇ボール運動（ソフトバレーボール）	〇ボール運動（チーボール・ソフトボール） 〇ボール運動（サッカー）	〇器械運動（跳び箱運動） 〇保健（生活習慣病の予防） 〇表現運動（リズムダンス・フォークダンス）	〇体づくり運動（体ほぐし） 〇体づくり運動（体力を高める運動）	〇なわとび記録会 〇器械運動（マット運動） 〇保健（喫煙・飲酒・薬物）	〇保健（地域の保健活動） 〇ボール運動（バスケットボール） 〇表現運動（リズムダンス・フォークダンス）
8 He is famous She is great 好きなこと 欲しいもの	9 My summer vacation 過去の表現 行った場所 食べた物	10 What time do you get up? 世界の国々 世界の生活	11 What do you want to watch? スポーツ オリンピック・パラリンピック	12 My best memory 学校行事 学校生活 13 What do you want to be? 職業 将来の夢	12 My best memory 学校行事 学校生活 13 What do you want to be? 職業 将来の夢
あやめ発表会 1ー（2）勤勉努力 4ー（7）郷土愛	中島村文化祭 4ー（7）郷土愛	冬季休業前生活指導 3ー（1）生命尊重	冬季休業後生活指導 1ー（1）望ましい生活習慣		春季休業前生活指導 3ー（1）生命尊重 東日本大震災弔意表明 3ー（1）生命尊重 4ー（7）郷土愛

会津地区道徳教育推進校「会津美里町立本郷中学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	会津美里町立本郷中学校
所 在 地	会津美里町字川原町1933
校 長 名	藤田 信一
教 育 目 標	夢の実現をめざし、たくましく生きる生徒の育成 ○ 自ら学び考える生徒 ○ 他を思いやる生徒 ○ 自ら心身をつくる生徒
学級及び児童生徒数	学級数 8 生徒数 156名

2 研究テーマ

「自他のよさに気づき、自己の考えを深め、主体的に生きようとする生徒の育成」
～考えを伝え合い、聞き合い、深め合う授業づくりを通して～

3 研究テーマ設定の理由

道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としている。生徒たちが自他のよさに気づき、主体的に生きようとする力を育てるための道徳教育の充実を目指し、研究を進めていきたい。

4 研究計画

月 日（曜日）	主 な 研 究 内 容
5月上旬	・研究主題・研究方法の検討 ・アンケートの検討及び研究方法の確認
6月上旬	・道徳に関するアンケート実施（生徒） ・アンケートの集計・考察と指導案の検討 ・道徳教育推進全体会
6月26日（火）	・福島大学附属中学校研究公開参観
7月9日（月）	・研究授業指導案（1年）検討
7月18日（水）	・県外授業視察（栃木県小山市立城南中学校）
7月19日（木）	・研究授業（1年） 事後研究
8月下旬	・研究授業指導案（2・3年）検討
9月4日（火）	・研究授業（3年） 事後研究
9月10日（月）	・研究授業（2年） 事後研究
9月下旬	・研究公開指導案検討
10月1日（月）	・協議会の事前確認
10月4日（木）	・道徳教育総合支援事業道徳教育地区別推進協議会
11月中旬	・研究授業（1年） 事後研究
11月下旬	・道徳に関するアンケート実施（生徒）
12月中旬	・アンケートの集約と結果の考察
	・研修のまとめ
	・道徳教育推進全体会

2

道徳教育推進校の実施
報告・全体計画・別葉等

5 研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について 〈作成上の工夫点、配慮点〉 ○ 「特別の教科 道徳」を要として、生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間としてよりよく生きるための道徳性が養われるよう、学校の教育活動全体にわたり道徳教育に取り組む。 ○ 内容項目の「Ａ 主として自分自身に関すること」「Ｂ 主として人との関わりに関すること」を主な重点事項とし、特別活動、各教科と連携を図りながら道徳教育に取り組む。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ○ 学校の教育活動全体で行う道徳教育と、その要としての道徳科の役割を明確にした上で、様々な活動において、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が養われるよう道徳教育に取り組む。 ○ 本郷ならではの人材を活用し道徳教育に取り組む。（りんご摘果・陶芸教室）
【視点２】質の高い多様な指導方法への取り組みについて ① 生徒が興味・関心をもち、主体的に考えたいとなる「教材提示の工夫」 ② 生徒一人一人が自己と向き合い深く考えたいとなる「中心発問の工夫」 ③ 「考え、議論する道徳」を目指した「言語活動の工夫」
【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について ① 「ふくしま道徳教育資料集」を活用し、未だ止まない風評の中で、福島県民として、郷土に対する誇りと愛情、絆の大切さ、人間のたくましさを感じ取らせる。 ② 第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」の活用により、人との関わりにおける「思いやりや感謝の気持ち、人間愛の精神」について考えを深めさせる。 ③ 第Ⅲ集「郷土愛・ふくしまの未来へ」の活用により、震災を経験した福島県民として、強い希望と勇気、克己と強い意志について考えを深めさせるように教材提示を工夫する。
【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について ○ 道徳科における発表や会話、作文やノートなどの記述、観察等により、一つの内容項目から他の内容項目へ関連させているかを見取る。 ○ 作文やノート、レポート、スピーチ等を通して、生徒の学習状況や成長の様子を見取る。
【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について ○ 本郷中学校ならではの「陶芸教室」「りんご摘果」「先輩の話を聞く会」等の行事にゲストティーチャーを招聘し、地域と連携した道徳教育を推進する。 ○ 学校・学年だよりや保健だより等において、道徳教育に関する情報を発信する。

6 「家庭・地域との連携」について

(1) 活動のねらい

本校では、地域との連携を図りながら特色ある活動として、総合的な学習の時間において、りんご摘果や陶芸教室、職場体験を実施している。その中で、「自主、自律、自由と責任」「社会参画、公共の精神」「勤労」「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」等の道徳性を養う取組をしている。

(2) 活動の概要

① りんご摘果

全校生徒による縦割り班を作成し、地域のりんご農家において摘果作業を行う。その中で、勤労の尊さや意義を理解するとともに、社会の一員としての自覚をもって郷土を愛する態度を養う。

② 陶芸教室

全校生徒による縦割り班を作成し、地域の窯元において焼き物作りを行う。その中で、個性の伸長と創造性の育成を図るとともに、地域の伝統を守り、物を大切にする姿勢を育み、自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度を養う。

③ 職場体験

1、2学年で学年ごとに班を作成し、地域の様々な職場において体験活動を行う。その中で、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を育てるとともに、自己の生き方を考える態度を養う。

(3) 成果と課題

① 成果

家族や地域の方々、あるいは教師とともに体を動かしたり語り合ったりすることにより、そこで得られた成果や達成感を共有することができ、道徳的価値について考えることにもつながった。

② 課題

家庭や地域の方々が参画できる授業を積極的に展開していくことが必要であり、特に、学校との関わりが少ない地域住民の参画を促すことが大切である。



7 成果と課題（成果○ 課題●）

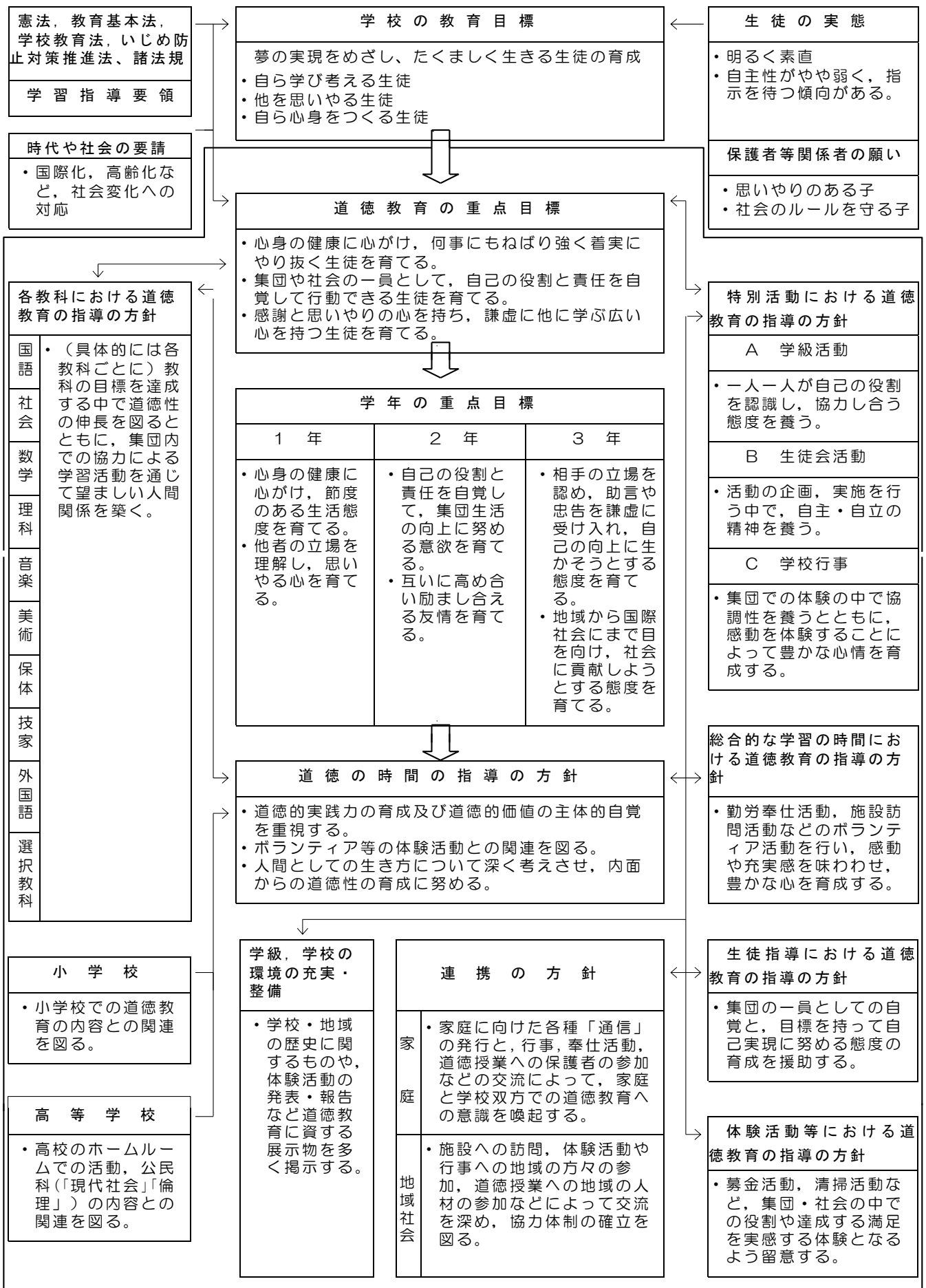
(1) 成果

- 特別活動や各教科との連携を図ることで、道徳的価値について広い視野から多面的・多角的に捉え、人間としての生き方についての考えを深めることができた。
- 体験的な学習では、地域や学校の特色に応じた課題、職業や自己の将来に関する課題等に向けて、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の生き方を考えていくための資質や能力を育成する取組ができた。

(2) 課題

- 早急に「教師中心の授業」からの脱却が求められ、「学習者は生徒」という考え方にに基づき、生徒の発言で授業が進められ、学習形態も生徒自ら選択するなど、さらなる言語活動の充実が必要である。
- 道徳教育推進のため、道徳の授業開き、全教師による年1回の研究授業、年間指導計画の実施に伴う教材研究、全教師によるローテーションでの授業等に積極的に取り組むことで、学校全体での「チームとしての道徳教育」が進められる。

平成30年度道徳全体計画



2 道徳教育推進校の実施
報告'全体計画・別葉等

南会津地区道徳教育推進校「南会津町立館岩中学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	南会津町立館岩中学校
所 在 地	南会津郡南会津町水石19
校 長 名	菊池 博基
教 育 目 標	「自立」
学級及び児童 生徒数	学級数 3 生徒数 37名

2 研究テーマ

「他者と共によりよく生きることを学ぶ道徳教育」
～自ら考え、学び合う授業づくり～

3 研究テーマ設定の理由

本校の生徒の多くは、中学校を卒業すると親元を離れて高校に通学する。また、本校の教育目標が本年度から「自立」となり、日々の教育活動において、生徒たちの人生や生活を見据えた指導を積み重ねていく。「自立」のためには、自分の現状を知るとともに、関わる多くの人々や社会生活を通して様々なことを学びとり、自ら成長していく力が大切であると考えている。

来年度から完全実施となる「特別の教科 道徳」の授業において重要となる点に、「考え、議論する道徳」への授業の転換と、アクティブで多様な指導方法の工夫が挙げられる。子ども自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるよう、主体的な学習を一層促すことや、子どもの発達段階や特性、指導のねらいに即して問題解決的、体験的な学習などを適切に取り入れることが求められる。

以上の点を踏まえ、研究テーマを設定した。

4 研究計画

月 日（曜日）	主な研究内容
6月 1日（金）	○東京都道徳研究推進校授業公開 東京都昭島市立昭和中学校
7月 13日（金）	○館岩中学校幼小中連携道徳授業公開 講師 宇都宮大学 准教授 和井内 良樹先生
9月 19日（水）	○東京都道徳研究推進校授業公開 東京都昭島市立昭和中学校
10月 15日（月）	○館岩中学校校内授業研究会 講師 宇都宮大学 准教授 和井内 良樹先生
10月 19日（金）	○道徳教育研究先進校視察 新潟大学附属新潟中学校研究公開
11月 12日（月）	○道徳教育地区別推進協議会（館岩中） 講師 宇都宮大学 准教授 和井内 良樹先生
○ 道徳教育推進全体協議会（3回実施）や職員会議の時に、道徳教育推進における計画や研究の重点について共有したり、先進校視察の伝達講習を行ったりする。 ○ 道徳研究推進委員会を適宜実施（10回実施）し、研究の方向性等を提案、確認したり、道徳授業の指導案を検討したりする。 ○ 道徳授業において全教師（担任、副担任、校長、教頭）が一人一研究授業を行い、成果と課題を次に活かしていく。	

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について 全体計画が実質化されるために、これから行う道徳指導が学校教育全体の道徳教育のどこに位置しているかを認識しながら指導に臨んだり、生徒が、どのような道徳的価値に出会い、道徳の時間における本時の指導内容とどう関係するかを理解したりできるように別葉等をもとに意識化していく。 〈作成上の工夫点、配慮点〉 ○ 内容項目を新学習指導要領に合わせて作成し、さらに重点内容項目を網掛けにし明確化するなど、学校全体で意識化を図っていく。 ○ 別葉は、各教科や特別活動等と内容項目との関連がわかるように一覧票形式にし、道徳授業において他の教育活動を意識して授業ができるようにする。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ○ 別葉を簡素化した道徳実践チェックシートを職員室に掲示し、そこへ授業者が道徳授業の実践日と資料名を記入することにより、年間35時間と22の内容項目の確実な実施に向け、道徳授業の量的確保の状況を確認できるようにしていく。
【視点2】質の高い多様な指導方法への取り組みについて 研究主題にせまるために、以下の3つの視点を設定し共通に取り組む。 ① 事象に対して、生徒一人一人に自分なりの考えをもたせる工夫 ② 他者と考えを共有し、様々な考えに触れる学習活動の工夫 ③ 生徒一人一人の考えの変容や成長を認識できる場面の設定 生徒たちへの議論や話し合いのさせ方、発問の工夫や構造的な板書、ICTの活用など多様な指導方法に取り組み、相互授業参観や教師同士の意見交換等によって効果的な指導方法について研究していく。また、大学の先生から指導をいただいたり、先進校視察の中で学んだりしたことを、積極的に授業の中に取り入れて自校化を図っていく。
【視点3】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について 震災から7年が経ち、さらに被害の大きかった地域から離れている館岩地域の生徒たちは、震災の記憶がかなり薄れつつあるように感じる。そこで、同じ福島県民として震災や震災後の実情を知る機会とするとともに、自分事として捉えやすいなどの地域教材よさを活かしながら有効活用したい。また、館岩地域は3年前に集中豪雨による土砂災害に遭い、避難を余儀なくされた生徒もいる。人と人とのつながりや思いやり、和の心の大切さ等もふくしま道徳教育資料を使用して考えさせたい。各学年で年間2回以上活用する計画を立てている。
【視点4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について 生徒たちは道徳ノートやノートに貼ったワークシートに自分の考え等を記載する。そこに授業を行った教員は「認め、励ます評価」を踏まえたコメントを記入するようにしていく。道徳授業の中においても、肯定的な声かけを積極的に行っていく。 また、本年度から通知票に道徳の評価を記載することとした（前期・後期）。道徳の学習において、観察や会話、作文やノートなどの記述、アンケートなどを通して、多面的・多角的な見方への広がりや、道徳的価値の理解の深まりなどを視点として見取っていく。具体的には、生徒の学習の過程や成果などの記録を、計画的に集積して学習状況を把握したり、道徳ノートを用いて、道徳的価値について自分自身との関わりについて考えたことや感想などを書きためていったりしていく。
【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について ○ 地域の人権擁護委員の方をゲストティーチャーとして招き、「いじめ」や「差別」などの人権に関わる問題を題材とした道徳授業を各学年1時間ずつ計画している。 ○ 来年度からの「特別の教科 道徳」の完全実施に向けて、保護者の理解が大切であると考えている。そこで、9月に保護者を対象として全学年道徳の授業参観を行ったり、保護者会や学校だより等を活用して道徳科の授業や評価について説明していく。 ○ 生徒や保護者に対して道徳へ関心をもってもらうために「モラル・エッセイ」コンテストの生徒、保護者の積極的な参加を促していく。

6 「家庭・地域との連携」について

(1) 全学年で実施した道徳授業参観

9月21日（金）に、全学年において保護者向けの道徳の授業参観を実施した。この授業参観は、年間計画にも位置づけられており、保護者への学校における道徳教育への理解と協力を得ることを目的に行った。多くの保護者の参観があり、「自分たちが受けた道徳の授業とは違う」、「生徒たちが話し合う機会がたくさんあっておもしろい」などの声を聞くことができた。また、道徳コーナーにおいてこれまでの道徳授業の様子（写真や生徒の記述など）について掲示したものを、保護者の方々は興味深く見ている様子であった。

(2) 地域の方を外部講師として行った道徳授業

10月24日（水）南会津町館岩地域の人権擁護委員である木下武司氏を外部講師として招いた道徳授業を行った。内容は人権を通して考えるいじめを題材とした授業で、「人権とは、人が幸せに生きる権利」であることを学んだ後に、芸能人のいじめ体験談DVDを鑑賞し、全体で意見交流を行ったり、講師の先生と対話形式で話し合ったりするものだった。授業を通して、いじめをなくすには、人を思いやる気持ちを大切にすること、自分と同じように相手も大切にするなど、たくさんのことを学ぶことができた。



(3) 地域の資源を生かした学習と道徳教育の関連

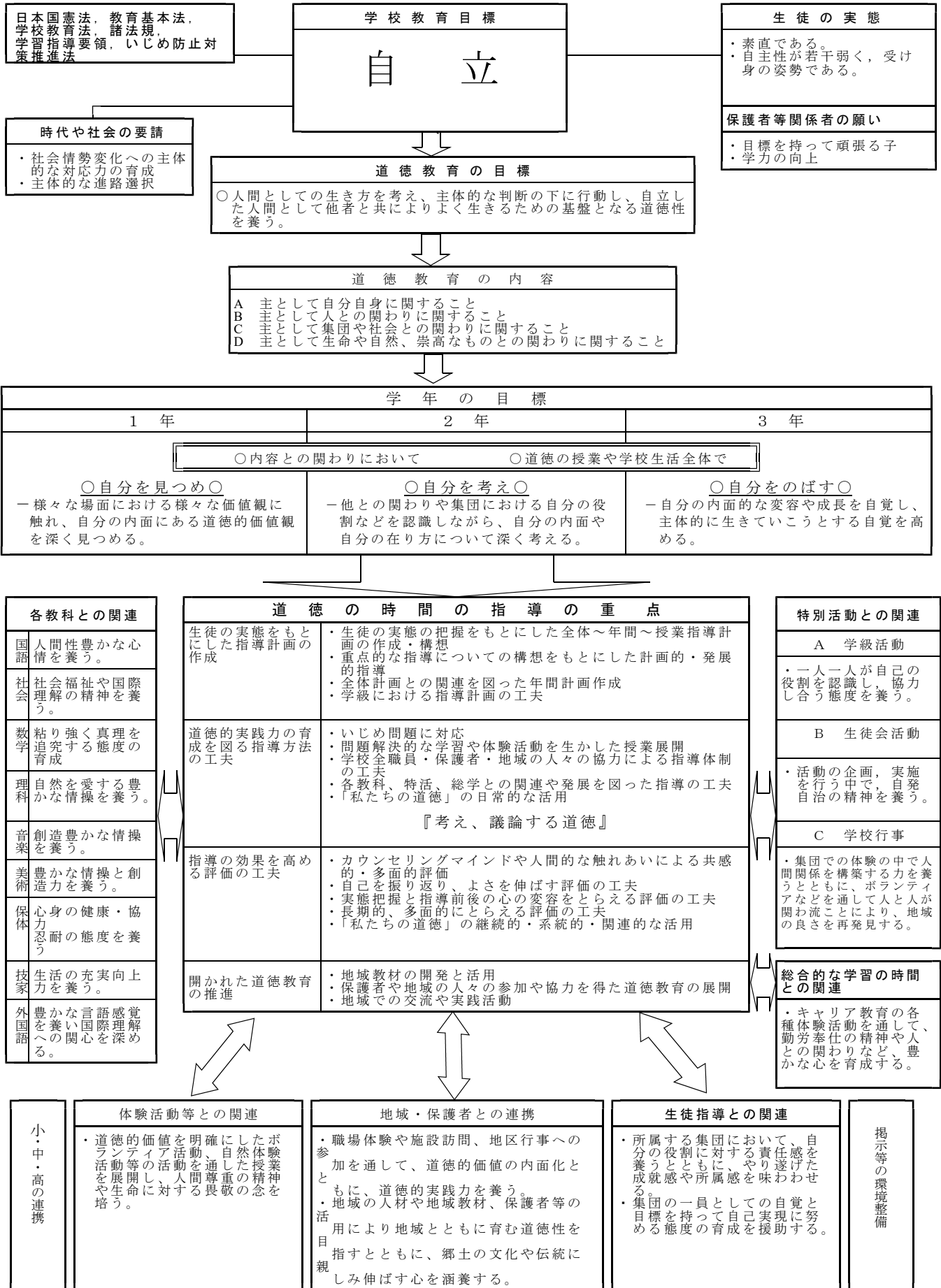
地域とかかわる学習において、道徳教育との関連を大切にしたい。例えば、地域のゴルフ場で行った「ゴルフ教室」においては、地域の方を講師に招いてゴルフのマナーについて講話をいただいた。自然保護の観点からも、そしてすべてのプレーヤーが気持ちよくラウンドできるようにするためにもマナーは大切であることを学んでいた。

3学年の家庭科の授業では、地域の乳幼児とその母親を招いて、「乳幼児子育てふれあい教室」を行った。実際に乳幼児とかかわったり、母親の子育てについての話を聞いたりすることにより、思いやりや感謝、家族愛等について考えていた生徒がいた。

7 成果と課題（成果○ 課題●）

- 本校では「自ら考え、学び合う授業づくり」をテーマとして授業実践を行ってきた。「自ら考える」ためには、生徒たちが教師の発問を自分事としてとらえることが必要であり、そのために生徒の教材への理解と教材を活かした発問の工夫が大切であることが見えてきた。「学び合い」を充実させるためには、発問の工夫のほかに、話し合いの方法を明確に提示するとともに、日頃から話し合いに慣れさせることが重要である。
- 全教員による相互授業参観を行い、話し合いの方法や学習形態で効果的であったものを共有し、それぞれの授業に取り入れるとともに、改善点を一人一人の授業に活かすことができた。また、生徒たちは自分の意見やその根拠をもった話し合いにも慣れ、深い学びにつながれるようになった。
- 別葉の一つとして作成した道徳実践チェックシートに資料名と実践日を記入してきたことで、22の内容項目の確実な実施につながっている。また、行事等の関連や重点項目への意識化にも結びついている。
- 「ふくしま道徳資料集」を各学年2回の活用を計画し、他校の実践を参考にして授業を行ったり、館岩中の実態に合わせた活用を行ったりしてきた。授業後の生徒のコメントには同じ県内で起きていることに対して自分事としてとらえた生徒も多かったことから、地域教材の有効性を実感することができた。
- 授業者は、生徒一人一人の道徳ノートに対し、認め励ますコメントを毎時間記入してきた。生徒たちのノートへの記載内容も充実し、道徳アンケートへの肯定的な回答も増加した。
- 道徳の授業での評価を通知票に記載した。今回は、これまでの道徳の授業をおおくりにとらえて成長について記載するとともに、具体的な授業でのエピソード的なものを記載するようにした。学校通信や三者相談等で保護者に対し、道徳科の授業の評価についての説明を行ったが、今後も継続して保護者に対して評価の在り方について説明を加えていく必要がある。
- 道徳教育全体計画の別葉において行事等の関わりを吟味するとともに、年間指導計画の教材配列を工夫することによって、意図的でより効果的な道徳教育を実現できると考える。実際に活用できるわかりやすい道徳教育全体計画と別葉の作成を工夫していかなければならない。

道徳教育全体計画（館岩中）



(中学1年生)

○学校の全学年活動を通して、生徒を大いに育てる実践的指導に努め、人間としてのよい人間性・方法論を育む。 ①自分自身がいかなる人間であるかという認識を深め、お互いの個性を尊重しあう態度を育てる。 ②集団生活におけるリーダー意識や責任を自覚し、素とそとという態度を育てる。	○中学生としての自覚をもち、望ましい生活習慣を身につける。 ○自分や友だちのよいところを知り、思いやりの気持ちをもち、ともに伸びようとする態度を育てる。 ○自主的に考える力を持って、その結果に責任をもつ態度を育てる。
南会連立立館中学校 道徳教育の重点目標	1年生の 重点目標

[illegible]

※ふくしま道徳教材資料集については、内容項目と生徒の実態に応じて適宜活用するものとする。

平成30年度 道徳実践チェックシート 中学校第1学年

	内容項目/領域など	主題名	資料	行事との関連	月	実践日	資料名など
A 主として自分自身に関する事	A・(1) 1-(3)	自主、自律、自由と責任	・責任の自覚 ・誠実な生き方 ・自主と責任	3 増えた塩ます 19 デンさん 29 父のひとこと	空きビン回収	4 9	
	A・(2) 1-(1)	節度、節制	・節度ある生活 ・心がけたいこと	11 山に来る資格がない 20 忘れ物			
	A・(3) 1-(5)	向上心、個性の伸長	・反省と努力	31 木箱の中のえんぴつたち	定期テスト		
	A・(4) 1-(2)	希望と勇気、克己と強い意志	・やり抜く心	12 九番バッテリー	校内マラソン大会	10	
	A・(5) 1-(4)	真理の探究、創造	・生きがいのある人生	27 シュリーマンの夢			
B 主として人との関わりに関する事	B・(1) 2-(2, 6)	思いやり、感謝	・人のやさしさ ・真の思いやりとは ・感謝の気持ち	8 心をつなぐバス 21 思いやりの日々 1 キタジマくんからのメッセージ			
	B・(2) 2-(1)	礼儀	・心と形	13 朝市の「おはようございます」			
	B・(3) 2-(3)	友情、信頼	・友情の尊さ	15 ちいちゃんのつめ			
	B・(4) 2-(5)	相互理解、寛容	・広い心で	6 自分らしさ—松井秀喜			
C 主として集団や社会との関わりに関する事	C・(1) 4-(1,2)	遵法精神、公德心	・権利と義務 ・よりよい社会を目指して	23 選手に選ばれて 17 本が泣いています	交通安全教室 薬物乱用防止教室	4 9	
	C・(2) 4-(3)	公正、公平、社会正義	・正義を貫く ・正義を求めて	7 いじめっ子の気持ち 22 正義って何？			
	C・(3) 4-(5)	社会参画、公共の精神	・奉仕の精神	10 楽寿号に乗って	空きビン回収	4 9	
	C・(4) 4-(5)	勤労	・働く喜び	26 「看護する」仕事			
	C・(5) 4-(6)	家族愛、家庭生活の充実	・明るい家庭	18 母はおしいれ			
	C・(6) 4-(4,7)	よりよい学校生活、集団生活の充実	・みんなのために ・集団の中での協力 ・集団生活の向上	14 合唱コンクール 16 全校一を目指して 33 席がえ	爽樺祭 生徒会総会	10 5 2	
	C・(7) 4-(8)	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	・ふるさとに生きる	25 ぼくのふるさと	ゴルフ教室 スキー教室	6 2	
	C・(8) 4-(9)	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	・伝統や文化の継承	32 古都の雅、菓子的心	学習旅行	9	
	C・(9) 4-(10)	国際理解、国際貢献	・世界の人々のために ・国際社会への貢献	9 命を助けたい—思いは国境を越えて 28 日本から来たおばさん	ブリヒル語学研修	11	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事	D・(1) 3-(1)	生命の尊さ	・生命の尊さ ・命をつめ命を支える ・生きることの大切さ	4 花に寄せて 24 決断!骨髄/バンク移植第一号 34 見沼に降る星	避難訓練	11	
	D・(2) 3-(2)	自然愛護	・かけがえのない自然	2 ハチドリの一としずく	自然体験学習	6	
	D・(3) 3-(2)	感動、畏敬の念	・自然のすばらしさ	35 火の島			
	D・(4) 3-(3)	よりよく生きる喜び	・広い心	30 二度と通らない旅人			

相双地区道德教育推進校「福島県立相馬東高等学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	福島県立相馬東高等学校
所 在 地	相馬市北飯渕字阿弥陀堂 200
校 長 名	佐藤 秀美
教 育 目 標	1 自ら学び、自ら考え、自ら実践する人間の育成 2 思いやりの心をもって、共に生き、共に社会に参画する人間の育成 3 自己の確立に努める個性豊かな人間の育成 4 心身ともに健康で、社会の発展に貢献する人間の育成
生 徒 数	総合学科 12 学級 生徒数 471 名

2

道德教育推進校の実施報告・全体計画・別葉等

2 研究テーマ

自己を見つめ、共によりよく生きようとする生徒の育成

～各教科の授業・各教育活動に道德教育的なものの見方を効果的に取り入れた指導の在り方～

3 研究テーマ設定の理由

本校の生徒は、明るく素直であるが、コミュニケーションをうまくとれないために良好な人間関係を築けず悩みを抱える生徒も少なくない。そこで、自己の在り方を改めて考える学習を通して他者との関係を見直し、共によりよく生きる姿勢を育てたいと考え、このテーマを設定した。

また、総合学科という本校の特色を生かし、他校にはない授業やカリキュラムを通じた道德的なものの見方を通して身に付けさせる指導法を模索し、今後の取組に生かしていきたいと考える。

4 研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備考
4～11月	あいさつ運動	
4月28日（土）	情報モラル講習会	
5月28日（月）	相馬支援学校との交流会	
6月 5日（火）	第1回福島県道德推進協議会（福島市）	
20日（水）	地震津波避難訓練	
25日（月）	道德指導者研修会（福島市）	
26日（火）	推進校視察訪問（福島大学附属中学校）	
7月 9日（月）	県外推進校視察訪問（茨城県立石岡第二高等学校）	
7月中旬	薬物乱用防止教室	
〃	地域福祉施設でのボランティア活動	
7月中旬	相双地区の地域理解（2年次・総合的な学習の時間）	
8月 8日（水）	北海道・東北ブロック道德教育指導者養成研修	

～10日（金） 24日（金）	道徳教育講座（麗澤大学） (札幌市)	
9月中旬 20日（木）	ブックトーク 道徳の研究授業実施	
10月中旬 〃 下旬	相馬支援学校との交流会 ボランティア活動 交通安全指導	
11月14日（水） 下旬	道徳教育地区別推進協議会 ・授業参観 ・講義 ・講演 ・研究協議 防火避難訓練	講師：藤永啓吾様（山口大学教育学部附属光中学校教諭）
12月中旬	地域福祉施設でのボランティア活動	
2月14日（木）	第2回福島県道徳推進協議会（福島市）	
3月上旬	本年度の研究の反省と次年度の計画	

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について
この地域は東日本大震災・原子力災害による影響で住民構成が変わり、地域コミュニティの変質という現実直面している。そのような環境の中で、コミュニケーション能力の低下や人間関係の希薄化が重なり、他者とのかかわりの中で自分を肯定的に捉えることができないという生徒の課題が顕在化している状況である。また、本校では社会の一員として、友人や地域と共に生きる喜びを感じながら、地域社会の新たな発展に貢献するため、正解のない問いに自ら立ち向かい、最善の答えを見つける力を備えた人材の育成を目指している。以上のことを踏まえ、「特別活動」、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、「各教科」等の学校教育全体を通して、道徳教育を実践することに配慮している。
【視点2】質の高い多様な指導方法への取り組みについて
① 自己肯定感を高めるために、道徳教育推進校視察や研究授業の機会を生かした授業等を展開する。
② 他者との関わりについて考えを深められるよう、コミュニケーションをとる場面を多く設けた教育活動を展開する。
③ 地域からの協力を得た道徳的実践を行い、実践の結果を家庭に発信する。
【視点3】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について
自己肯定感を高める授業において活用し、東日本大震災後の人々の様々な思いに触れさせることで前向きに力強く生きていこうとする態度を養う。
【視点4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について
授業後の感想やボランティア活動の様子、普段の学校生活で他者と関わり合う様子から、道徳の学習を通して自己を見つめ直し、多面的多角的に物事を考え、他者と関わろうとしている態度が養われているかを評価する。
【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について
地域社会の一員としての自覚を持ち郷土愛を深められるよう相馬支援学校との交流や地域の福祉施設等でのボランティア活動への参加を積極的に行う。また、より効果的な教育活動を実現するために家庭へ学校の情報を発信したり、道徳教育地区別推進協議会にPTA参加を促したりする。

6 「家庭・地域との連携」について

〈活動のねらい〉

地域社会の一員として自覚と深い郷土愛を持った生徒の育成を目指して、地域のボランティア活動等に積極的に参加する。また、地域や保護者の方々の意見を教育活動に生かすためにも、学校での生徒の様子発信や、地域や保護者の方々の意見を聞くための機会を設けることを学校全体として積極的に取り組む。

〈活動の概要〉

- ・各種ボランティア活動
- ・相馬支援学校との交流会
- ・連携中学校との意見交換会
- ・各種活動についてメール配信
- ・地区別推進協議会において他校種の先生方やPTA・同窓会の方々との意見交換の場を設定



〈成果と課題〉（成果○ 課題●）

- ボランティア活動で学校付近や浜辺の清掃に取り組んだ際、地域の方に声をかけていただき、地域の一員としての自覚や充実感を感じる生徒も多かった。誰かのために行動し、感謝される経験は自信につながったと思われる。
- 地区別推進協議会における意見交換会では、他校種の取組や、地域、保護者の思いを知ることができ、大変有意義な時間となった。また、相馬東高校の取組や実態を伝えることができた。
- 活動についてのメール配信は活用が不十分である。今後こまめな活用の方をを目指したい。
- 中高連携の体制はあるが、学習面での連携が主になっているので、道德教育についても中学校の意見や取組を参考にしていきたい。

7 成果と課題（成果○ 課題●）

- 高校において道德の授業を行う機会はないためゼロからのスタートであった。しかし、福島大学附属中学校や茨城県立石岡第二高等学校といった道德教育推進校に視察に赴き授業を参観したり、麗澤大学で行われた道德教育講座に参加したりすることで質の高い道德の授業を目指した。校内研修会や道德の研究授業は、その成果を教職員全員で共有する場となり、高校における道德教育について意識を高める契機になった。
- 道德の授業は2年次が担当となって行ったが、全4クラスの担任がそれぞれに授業を行った。共通の教材を扱いながらも、それぞれの生徒の実態や担任教師の思いによって教材の捉え方や考えさせたい内容に対するアプローチの仕方が異なり、各クラスともに特色あふれる授業を展開することができた。
- 地区別推進協議会で他校種の先生方や保護者の方々と話をする機会が得られたことで、各発達段階での道德教育の取組の在り方や、高校生に身につけてほしい道德的なものの見方などを知ることができた。
- 生徒にとっては中学校卒業後、久しぶりに受ける道德の授業であったが、現在の自分を見つめ直し、道德性について改めて考える良い機会になったと考える。また、生徒同士で様々な意見を交わす中で、他者と自己の関係性に気づき、共によりよく生きることの大切さを体験的に学べた生徒も多かった。
- 教科と位置付けられていない高校において道德の授業を行う難しさを感じた。教科となった小・中学校では今後も道德教育の研究が進んでいくことが予想されるので、連携を図りながら高校での道德教育の在り方を模索し続ける。
- 道德教育の全体計画については、本校の特色と生徒の実態及び今回得られた校内外の意見を反映させた新たな計画を立案し、今年度の取組を今後の教育活動に生かしていく。



平成30年度道德教育全体計画

福島県立相馬東高等学校

生徒の実態 地域・保護者の要望	教育目標	推進体制
○服装の乱れ、交通道德や交通ルールの軽視などの課題がある。 ○自己中心的な考え方やものの見方により、望ましい人間関係を構築できない生徒が見受けられる。 ○保護者は学力向上と同様に規範意識の向上を求めている。	① 自ら学び、自ら考え、自ら実践する人間の育成 ② 思いやりの心をもって、共に生き、共に社会に参画する人間の育成 ③ 自己の確立に努める個性豊かな人間の育成 ④ 心身ともに健康で、社会の発展に貢献する人間の育成	教務部教務係が教科・学年・各部と連携をとりながら年間計画及び目標を作成する。 具体的な活動内容は教科担当者・HR担任及び各部担当者が立案する。 調査・広報は教務部が担当する。



各教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動における教育内容
【国語・外国語】 ○教材の学習を通して、他者理解・異文化理解・集団と個人のあり方などについて考察を深めさせる。 【理科・保健体育・家庭】 ○生物や保健・家庭総合などの学習を通して、生命の尊厳・異性の尊重・他者との共生などについて考察を深めさせる。 【地理歴史・公民】 ○現代社会の学習を通して、正義・公正・協調などの理解を深めさせる。また、個人と生命の尊重・権利と義務・人間の平等について考察させる。 ○倫理や時事教養の学習を通して、共生における自己のあり方・生命への畏敬・社会奉仕などについて考察を深めさせる。 【総合的な学習の時間】 2年次：諸活動を通して、協同的な態度・他者を理解する姿勢を養わせる。 3年次：諸活動を通して、協同的な態度・他者を理解する姿勢を養わせる。 また、一部生徒においては、課題研究により上記の内容について探求させる。 【特別活動】 ○ホールルーム活動を通して、自己及び他者の理解と尊重・集団における役割と責任・健康や安全と規律ある生活などについて考察を深めさせるとともに、実践させる。 ○生徒会活動や学校行事を通して、集団や地域と自己のあり方・集団における所属と連帯・公衆道徳などについて理解を深めさせると共に、実践させる。

生徒指導との関連	家庭・地域との連携
○道德教育を充実させることで、高校生活がさらに落ち着いたものとなることが期待できる。 ○校外生活において、本校生の自覚及び高校生としての責任を持った行動ができる生徒の育成につなげる。	○HPや配付文書などにより、本校の取組を家庭や地域に発信する。 ○保護者の学校評価アンケートのうち、道德教育につながる評価・コメントを抽出し、具体的な課題の設定や教育方法の改善に活用する。

～道德教育とは～

- ・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を持たせる（高める）ための活動
- ・伝統と文化を尊重する姿勢を持たせるための活動
- ・わが国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図ることにつながる活動
- ・公共の精神を尊び、民主的な社会や国家の発展に努める姿勢を持たせるための活動
- ・他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する資質を養うための活動

平成30年度道徳教育年間計画

No.1

教科	科目	学習内容（活動内容）	目標	対象生徒	活動時期
国語	国語総合	評論「水の東西」	○「鹿おどし」と「噴水」を例にあげた、日本と西洋の感性の違いを論じる比較文化論を読み解き、異文化理解の態度を養い、日本の伝統的文化、日本人の感性について考えさせる。	1年次	10月
		漢文「論語」	○日本人の考え方に影響を与えた古代中国の思想について理解し、「仁」の思想を通して現代の私たちの生き方やあり方、社会について考えさせる。		3月
	国語表現	作文・小論文	○ディベートやディスカッションの学習を通して、自らの望ましい生き方や望ましい社会のあり方について考察させる。	3年次選択者	5月
	現代文A	随想「さくらさくらさくら」	○桜にまつわる短歌や、桜についての筆者の考えをとらえることを通して、日本人としての美意識や桜に対する思いについて考えさせる。	2年次選択者	4月
	現代文B	小説「ナイン」	○「新道少年野球団」のメンバーは、20年後、様々な人生を歩んでいる。共に暑い夏を戦った記憶のためか、第三者から見て理解できない局面でも深いところで仲間を信じている。他者理解や生き方について意見を述べ合う。	2年次選択者	8月
	古典B	随筆「徒然草」	○文章に表れた人間、自然、社会などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。また、題材を通して我が国の文化と伝統に対する関心を深めさせ、文化や伝統を尊ぶ態度を養う。	2年次選択者	5月
	現代文B	小説「山月記」	○自我を抑制できなかったことから、虎になってしまった主人公の人生について考察させ、人間のあり方、生き方について意見を述べあい、他者理解を深める。	3年次選択者	4月
数学	数学Ⅰ	2次関数	○数学における基本的な原理・法則の理解を深め、課題に対して協力して解決していく姿勢を身に付けさせる。	1年次	9月
		データの分析	○データの特徴を表す代表値を用いて物事を客観的に観察し、公正に判断する態度を養う。		2月
	数学Ⅱ	式と証明	○物事を客観的に理解し、論理的に説明できる力を養う。	2年次選択者	4月
	数学A	図形の性質	○論理的に定理や図形の性質を導くことにより、真理を追究していく態度を育てる。	2・3年次選択者	9月

No.2

教科	科目	学習内容（活動内容）	目標	対象生徒	活動時期
地理歴史	世界史A 世界史B	二つの世界大戦と平和	○第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解させ、平和の意義について考えさせる。	2年次	12月
		地域社会への歩みと日本	○1970年代以降の市場経済の世界化や地球規模での問題出現を理解させ、日本が世界の諸国・諸地域の多様性を認めながら共存していく方策を考察させる。		2月
公民	現代社会	現代の民主政治と民主社会の倫理	○生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等、法と規範などについて考えさせ、民主社会において求められる倫理について自覚を深めさせる。	1年次	5～6月
	現代社会	国際社会の動向と日本の果たすべき役割	○国際平和や国際協力の必要性及び国際組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えさせる。	1年次	10～11月
	倫理	青年期の課題と自己形成	○青年期の意義や課題を学習するとともに、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせる。	2・3年次選択者	5月
		現代の特質と倫理的課題	○生命への畏敬、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて考えさせ、合わせて倫理的な見方や考え方を身に付けさせる。		12月
理科	生物基礎	生態系とその保全	物質の循環・エネルギーの流れ・生態系のバランスの学習を通じて、生態系の精妙なシステムを理解させ、生命・環境に対する畏敬の念を高めさせる。	1年次	5～6月
	生物	生命の連続性	バイオテクノロジーの学習を通じて、生命倫理を考える機会を与える。有性生殖における減数分裂による遺伝子の多様性の学習を通じて、各人間個体が唯一無二のものであることを理解させる。	2・3年次選択者	6～7月
	環境科学	生物の多様性と保護	生物の多様性と保護に関する学習を通じて、生物種の減少の原因、生物種を守る意義、国際的な取り組みについて学ばせ、生物種の保存が大切であることを理解させるとともに、自然を大切にす姿勢や考え方を身に付けさせる。	3年次選択者	9月
保健体育	保健	意志決定・行動選択に必要なもの	○健康に関わる意志決定や行動選択において、集団のルールや規範意識に根ざした活動ができるようにする。	1年次	5月
		自己実現	○自己実現の達成過程を理解させるとともに、他者の自己実現を尊重する姿勢を身に付けさせる。		1月
		思春期の性行動	○性に関する知識・情報を正しく理解させるとともに、性行動が自らや他者にもたらす影響について考察させる。	2年次	4～6月

教科	科目	学習内容（活動内容）	目標	対象生徒	活動時期
芸術	音楽Ⅰ	歌唱	○校歌の成り立ちや歌詞の意味を理解させるとともに、他者と思いを一つに歌唱し、互いを尊重する態度を身につけさせる。	1年次選択者	4・5月
	音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	歌唱、器楽、創作、鑑賞	○他者との価値観の相違を理解、尊重し、自己表現する力を伸ばす。	1・2・3年次選択者	通年
	美術Ⅰ	「美術とは何か」	○美術を学ぶ意味を考えることを通して、作者の生き方と表現することの関係性について触れ、自分の精神性や生き方、価値観や美意識が作品に現れることを理解させる。	1年次	4月
	美術Ⅱ	「表現とは何か」	○美術を学ぶ意味を考えることを通して、作者の生き方と表現することの関係性について触れ、自分の精神性や生き方、価値観や美意識が作品に現れることを理解させる。	2年次選択者	4月
		絵画「感覚の冒険」	○制作者が選んだ色や形の一つ一つには想いが込められていることを感じさせ、より深く作品を鑑賞する力を身に付けさせる。	2年次選択者	5月
	応用美術 美術課題研究	「美術を学ぶ意味とは何か」	○美術を学ぶ意味を考えることを通して、作者の生き方と表現することの関係性について触れ、自分の精神性や生き方、価値観や美意識が作品に現れることを理解させる。	3年次選択者	4月
	書道Ⅰ	文房四宝	○道具のできるまでを学び、道具が動物や自然のものからできていることを理解させ、物を大切に使う態度を身につけさせる。	1年次選択者	4・5月
	書道Ⅱ	漢字仮名交じりの書	○他者が選んだ言葉や作品の制作意図には、それぞれ個人の思いの違いがあるのだという考え方を身につけさせる。	2年次選択者	9月
家庭	家庭総合	家族ってなんだろう？	○家族のあり方に関心をもたせ、父母・祖父母の敬愛の念を深めさせるとともに、家族の一員としての自覚をもって充実した家族生活を築こうとする姿勢をもたせる。	1年次	4～5月
		高齢者の生活と福祉	○高齢者の心身の特徴と生活を理解させるとともに、超高齢社会の課題について考えさせ、将来の生活に必要な福祉制度や地域福祉に関する知識を身に付けさせる。	2年次	1～3月
	子どもの発達と保育	子どもの発育	○胎児期の発達過程や出産、新生児の発育特徴の学習をととして、生命の尊さを理解させる。	2年次選択者	9月
	生活と福祉	高齢者の自立生活支援と介護	○加齢に伴う心身の変化と高齢者の自立生活支援について理解させ、人の尊厳について考えさせる。	2年次選択者	9月

教科	科目	学習内容（活動内容）	目標	対象生徒	活動時期
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	Lesson 9 The power of Unite Popeople	○南アフリカ共和国での黒人に対する人種差別に対し、初の黒人大統領のマンデラ氏が、白人に復讐することなく共生する道を模索する姿勢から、他者を認め、共生していくことの大切さについて考えさせる。	1年次全員	2月
	コミュニケーション英語Ⅱ	Lesson 2 Ethical Fashion	○人気のファストファッションが、低賃金・環境破壊といった問題を引き起こしている事実を学び、エシカルになるためにはどんな取り組みができるか考えさせる。	2年選択者	5月
	英語理解	Lesson8 Humpback Whales: A life of Competition and Cooperation	○ザトウクジラの母親が半年以上何も食べないで行う子育て、子孫繁栄のためのオス同士の激しい争い、餌を取るためのオス同士の協力を学び、生命の尊さ、自然界で生き抜くために強さについて考える機会とする。	3年選択者	10月
	外国文学	The Happy Prince	○金色に輝く王子と仲間とはぐれたツバメが、貧しい街の人のために滅び去るプロセスから「貧しい者」と「富める者」が存在するこの世の矛盾や自分よりも他人を思いやる優しさについて考えさせる。	2, 3年次選択者	通年
福祉	介護福祉基礎	介護の意義と役割	○その人らしい生き方、尊厳・基本的人権を理解させ、ノーマライゼーションの実現について考えさせる。	2年次選択者	4月
		介護従事者の倫理	○対人関係の仕事に必要な倫理観について考えさせ、ボランティア活動に活かせるようにする。		5月
	社会福祉基礎	生活を支える社会福祉	○家族や家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解させ、社会の一員としての自覚を促す。	2年次選択者	11月
商業	社会と情報	情報社会の個人	○情報を扱う責任とモラルについて考えさせる。	1年次	4月
		情報とメディア	○情報の残存性、複製性、伝播性など情報社会における情報の特徴を理解させ、問題解決について考えさせる。		5月
		コミュニケーション	○目的に応じたコミュニケーションの手段を適切に選択できるようにさせると同時に、その際のルール・マナーについて考えさせる。		10月
		情報の管理・保護に関する法律	○知的財産権、産業財産権、著作権等の権利の侵害事例から、それらの方を守る態度を身に付けさせる。		12月
		問題解決	○問題解決の過程をステップに分けて、具体的な問題について適用できる力を身に付けさせる。		2月

学校行事	制服着こなしセミナー	○外部講師の講話を聞き、制服の正しい着こなしを身につけるとともに、服装の乱れが自らや集団に与える影響について考えさせる。	1 年次	6 月
	薬物乱用防止教室	○外部講師の講演を聴き、薬物の恐ろしさの認識を高めるとともに、誤った行動が自分や身の回りに与える影響について考えさせる。	全年次	9 月
	修学旅行の諸注意	○修学旅行の諸注意を確認するとともに、集団の中の一員という自覚を強めさせる。	2 年次	1 0 月
	保健講話	○外部講師の講演を聴き、正しい性知識に基づいて望ましい性モラルについて考えさせる。	全年次	7 月
	主権者教育	○主権者として求められる力を身に付けるため、県選挙管理委員会と連携して、模擬投票などを実施し、政治的・社会的な課題について考えさせる。	2 年次	3 月
ホームルーム	基本的生活習慣の確立について	○自分の生活の問題点や課題を洗い出し、その改善に向けて意欲的に取り組む姿勢を持たせる。	各年次	各クラスのホームルーム年間計画による
	集団の中の個人の役割について (集団と個人・自他尊重)	○係活動や委員会活動に責任を持たせ、帰属意識を高める。 ○討論や文章のまとめを通して、集団の望ましい在り方や集団における個人の在り方について考察させる。		
	集団生活のルールについて (社会生活について)	○学校のルールを改めて確認しその必要性を理解することで、ルールの重要性とそれを遵守する姿勢の重要性を認識させる。		
	ジェンダーフリーについて	○男女の性別による役割意識にとらわれず、平等に自らの能力を生かして行動・生活することを促し、性にとらわれない考え方を養う。		

いわき地区道徳教育推進校「いわき市立江名小学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	いわき市立江名小学校
所 在 地	いわき市江名字天ヶ作154
校 長 名	小野 信尚
教 育 目 標	○ 考える子ども ○ 思いやりのある子ども ○ 元気な子ども ○ よく働く子ども
学級及び 児童生徒数	学級数 7 児童数 95名

2 研究テーマ

道徳的価値を基に、自己の生き方について考えを深める指導のあり方
～自ら「考え」「学び」「活かす」子どもの育成～

3 研究テーマ設定の理由

本年度からの「特別の教科 道徳」の全面実施を踏まえ、発達段階に応じ、道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと、道徳教育の転換を図る必要がある。

本校では「考える子ども」「思いやりのある子ども」「元気な子ども」「よく働く子ども」を教育目標に掲げ、児童に生涯にわたる生活や学習の基礎となる「生きる力」を育む教育を推進している。児童の実態から本年度の重点を「善悪の判断、自立、自由と責任」「親切、思いやり」「よりよい学校生活、集団生活の充実」とし、その具現化を図っていききたい。

4 研究計画

月 日（曜日）	主な研究内容
4月 6日（金）	現職教育全体会（昨年度までの研究概要）
4月20日（金）	現職教育全体会（年間計画・別葉について） 各部会、組織づくり
5月11日（金）	6年 提案授業 B 親切、思いやり「車いすでの経験から」
5月14日（月）	2年 提案授業 B 礼儀「自分も周りも明るく」
6月 7日（金）	現職教育全体会（方向性の確認、改善）
6月15日（金）	3年 授業研究 B 信頼、友情「いいち、にいつ、いいち、にいつ」 ※要請訪問、いわき市小教研道徳部理事訪問
7月9日（月）～ 7月13日（金） 夏季休業中	第1回児童アンケート調査 1年 授業研究 B 感謝「みんな だれかに」 先進校視察等 8/6福島県教育者研究会「みんなで、新しい道徳教育を進めよう」
8月24日（金）	現職教育全体会（講義、伝達講習会） 講義 福島市立岡山小学校長 宮武 泰 先生
9月 7日（金）	いわき市小教研道徳部理事訪問（指導案検討会）
10月16日（火）	道徳教育地区別推進研究協議会 いわき市小教研協力校授業公開
11月5日（月）～ 1月	第2回児童アンケート調査 研修のまとめ

5 研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について ＜作成上の工夫点、配慮点＞ ○ 特別の教科道徳の完全実施を踏まえ、全体計画、別葉、年間指導計画、学級における指導計画を、重点内容項目への取り組みが明確になるよう作成した。 ○ 別葉においては、学校行事や特別活動との関連を重点に置き、形式を工夫するなどして作成した。 ＜活用上の工夫点、配慮点＞ ○ 全体計画及び別葉においては、現職教育の際に検討する時間を設けるなどして、教職員全体で修正していく。
【視点２】質の高い多様な指導方法への取り組みについて ① 導入での教材提示の工夫 ○ 黒板シアター、紙芝居、読み聞かせ、ビデオ、ＢＧＭなどで興味関心を高めたり、本時で扱う内容項目への意識付けを行ったりする。 ② 発問と板書の工夫 ○ 本時で学習する内容項目に直結した問い（テーマ発問） ○ 児童アンケートを活かした発問、写真や挿絵を活かした場面発問、実際の社会生活を取り上げた発問など ○ 子どもの言葉を活かした構造的板書 ③ 指導に活かす評価の工夫 ○ 道徳ノートやワークシートの記述、発言、動作化や役割演技などの見取り
【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について ○ 東日本大震災で大きな被害を受けた本校にとって、江名小ならではの道徳教育を進めるにあたって、「ふくしま道徳教育資料集」は、なくてはならない資料となっている。特に「アイナふくしま」は本校並びに学区である江名地区の取り組みがモデルとなっている。郷土に対する誇りと愛情を持ち、伝統を引き継いでいく心を育むといった視点から、今後も継続して活用していく。 ○ 道徳科の授業に活用するだけでなく、児童が郷土を感じる読み物資料としても積極的に活用していく。そのために、各学級に資料集を配当し、児童が読みたいときに手にとって読める環境を整えていく。
【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について ○ 「学びの深まりを実感できるようにするために」 授業前半の自分の考え（記述・発言等）と授業後半の自分の考え（記述・発言等）を比較する。 ○ 「まとめ・振り返り」の視点を与える。 ① 気づいたこと・考えたこと ② いいなあと考えたこと ③ これからのこと ○ 「教師が授業における評価をするために」 子どもの姿を記録・累積し、励ます評価と授業改善に活かす。
【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について ○ 江名地区小中連携協議会「つなぐ教育」と連携した取り組み 学校・家庭・地域の課題を中学校区で共有し、豊かな心を育むための生活習慣の形成、人の気持ちを考える、進路への夢や希望を持つことを目指した共通実践を行う。 ・ 学校ホームページ、学校便り等による情報発信 ・ 授業参観日での道徳授業（ゲストティーチャー、保護者参加型）の実施 ・ わくわくいわきしごと塾の実施（キャリア教育の充実）、地域伝統芸能「三匹獅子」の継承を通して、地域のよさに気づき、地域とのつながりを深める。

6 「家庭・地域との連携」について

本校では、学校・家庭・地域が、共に考え、共に学び、共に手を取りながら、次代を担う児童の豊かな心の育成に努めている。その実現に向けた実践は次のとおりである。

① 江名地区小中連携協議会「つなぐ教育」と連携した取組

江名中、永崎小、江名小の三校が連携し、めざす子ども像を「夢に向かって学び続ける子」「相手の気持ちを大事にできる子」「しっかりと人の話が聞ける子」「からだと心が丈夫な子」として小小連携・小中連携の充実を図っている。全体会や専門部会を組織し、児童生徒の実態に応じた教育活動を推進している。

② 学校のホームページ、学校便りによる情報発信

学校行事や日頃の生活の中で児童のキラリと光った姿を発信している。学校生活の中で見られる道徳的な行為について、家庭と一緒に考える機会を提供している。

③ 授業参観日での道徳授業の実施

今年度より教科化された道徳科の理解を深めてもらうことねらいとしている。ゲストティーチャーや担任以外の教職員の授業参加に積極的に取り組んでいる。

④ キャリア教育の充実と地域伝統芸能の継承

市の事業である「わくわくいわきしごと塾」では、地域の人材・資源を活用することで、より体験的で実社会に即した学びにつなげ、児童の多様な職業観の涵養、郷土愛の醸成を図っている。また、地区の伝統芸能である「三匹獅子舞」については、伝統芸能教室として教育課程に位置づけ、児童に郷土を愛する心と継承していこうとする態度を育んでいる。



（5年：海洋実習船福島丸見学）

7 成果と課題（成果○ 課題●）

- 全体計画及び別葉については、子どもの実態に応じて、重点的に取り組む教育活動を明確にすることができた。特に使いやすく、見てわかる別葉を作成するために、内容の焦点化を図ったこと、実践活動の振り返り（Check）や見直し（Action）が記入できるように備考欄を設けるなどの自校化を図った。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を図ることができた。特に「問い」や「思い」を引き出し課題意識を持たせる導入や一人一人の思いや考えを表出させる展開、「振り返り」を通して学びの深まりを実感できるようにする終末を意識した授業が展開されるようになってきた。
- 黒板シアターなどによる教材提示の工夫や発問の精選、構造的な板書の工夫によって、授業でねらいとする道徳的価値を焦点化することができた。特に発問と構造的な板書の一体化は、子どもが自己を見つめたり、振り返ったりする場面で有効であった。
- 「ふくしま道徳教育資料集」に収録されている「アイナふくしま」は本校並びに学区である江名地区の取り組みがモデルとなっている。実際の授業ではゲストティーチャーとして「三匹獅子舞」に深く関わっている諏訪神社の江名氏を招くなど本校だからこそできる授業を展開できた。
- 子ども一人一人の学びを深めたり、広げたりするためにも、教材の特質を適正に把握すること、話し合い活動での切り返しの発問の工夫をすることなど、教師自身の授業をコーディネートする力を身につけていくことが必要である。
- 低学年でのワークシート、3年生以上での道徳ノートの活用を中心に児童の発達段階に応じた「指導を評価に活かす工夫」について取り組んできた。今後は通知表や指導要録の記入といった観点での評価のあり方について研究を進めていく必要がある。

道徳教育の全体計画

学校の教育目標

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
児童憲章など

- 考える子ども
- 思いやりのある子ども
- 元気な子ども
- よく働く子ども

時代や社会の要請
児童の実態
家庭や地域のねがい
教師のねがい

特別活動

(学級活動)

◇学級生活の充実と向上に関わる活動を通して、進んで問題を解決し、温かい人間関係を築こうとする態度と集団の中で自己を正しく生かす能力や態度の育成を図る。

(児童会活動)

◇児童の意見・発想を大切に学校生活における諸問題の解決を図ることにより、自主的実践的な態度や協力性、思いやりの心を育てる。

(クラブ活動)

◇共通の興味関心を追求する活動を通して、個性を伸ばし、豊かな人間関係を育てる。

(学校行事)

◇豊かな体験の場を設けて、主体的に参加させることにより集団への所属感を深め、協力性、責任感等を育てる。

総合的な学習の時間

○自ら課題を見つけ、学び方を考え、判断、解決する能力態度を育成する。

◇学び方やものの考え方を身に付け、探求活動などに主体的に取り組み、自己の生き方を考えることができる態度を養う。

◇情報や環境など、新しい社会的課題に気づき、積極的に関わろうとする意欲を育てる。

◇自然体験・ボランティア活動などを通して、自らを生かし望ましい人間関係を育てる。

道徳教育の重点目標

- 善悪の判断をし、責任のある行動をする子どもに育てる。
- 思いやりの心を持ち、相手の立場に立って進んで親切にできる子どもに育てる。
- 学校のみならず協力し合い、よりよい学校をつくり、集団生活の充実に努めようとする子どもに育てる。

各学年の指導の重点

低学年	○よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。 ○身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。 ○先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しむこと。
中学年	○正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。 ○相手のことを思いやり、進んで親切にすること。 ○先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
高学年	○自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。 ○誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。 ○先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。

道徳科の指導の充実

道徳的価値を基に、自己の生き方について考えを深める指導

- 教材提示の工夫
- 発問の工夫
- 話し合いの工夫
- 指導に生かす評価の工夫
- 教科書の効果的な活用
- 教具の工夫
- 板書を生かす工夫
- 表現活動の工夫
- 指導方法の工夫

わたしたちの道徳

活用の基本方針

- 道徳の時間に教材として用いたり、一部で補助的に用いたりし、各教科の学習内容と関連させて、活用を図る。
- 学校や家庭の日常生活の中で児童が自主的に活用するように促す。

各教科

(国語)

◇言語感覚を養い、正確な読解力と豊かな表現力を培い、他人を思いやる心情を育てる。

(社会)

○民主的な社会の一員としてのものの見方や考え方を培い、国民としての自覚を持ち、国際社会に貢献しようとする態度を養う。

(算数)

○論理的なものの考え方を通して、物事に対する合理的に追求していく態度を養う。

(理科)

○自然のあり方について調べることを通して、自然の不思議さに気づき、自然に親しもうとする態度を養う。

(生活)

◇具体的な活動や体験を通して豊かな情操を培う。

(音楽)

○音楽の美しさ楽しさを感じ取る心を養い、豊かな情操を培う。

(図画工作)

○造形表現や鑑賞を通して、豊かな情操を培う。

(家庭科)

◇家庭の一員としてよりよい生活を築こうとする心情を育てる。

(体育)

◇健康安全についてを理解し、運動を楽しむとともに、体力の向上を図り、お互いに励まし助け合う態度を養う。

生徒指導にかかわる道徳教育の視点

- 教師と児童、児童相互の心の交流を図り、児童一人ひとりが意欲を持て、将来を展望できるように援助する。
- ◇課題を抱えた児童に対しては、学年、学校全体で組織的に取り組む。

学校における教育環境の整備計画

- 校庭・校舎内の美化に努め、季節感のある自然環境作りをする。
- 道徳的価値に関する掲示物を作製する。
 - ・ハートアップコーナー
 - ・江名っ子レインボー
 - ・ハートビックアップコーナー

学校における豊かな体験の計画

- 授業や学級活動など、学校における全ての教育活動において道徳的実践を促す他に自然、人間、社会とのふれあいの場を設けるなど、豊かな体験の場を計画的に設定する。

基本的な生活習慣に関する指導計画

- 基本的な規範意識や生活習慣形成については、児童の創意を生かして、細やかな指導を行う。

家庭・地域社会との連携

- ◇学校・家庭・地域が連携し、情報を共有するとともに学校公開日を設けたり、「学校だより」などを通して、子どもの心を育てる共通の役割を担うものとしての相互理解を図る。

他の学校や教育機関との連携

- 幼稚園・中学校などとの情報交換を密にして、児童の実態をつかみ、定期的な交流を通して関連を深める。

◇印・・・人権的内容

全体計画別業 6年 道徳と教科等との関連(指導時期順)

教科地/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳		1「心を磨け」 B-(9) 礼儀	4「おはあやんのさがしもの」 C-(15) 家族愛、家庭生活の充実	7「優しいすでの話」 B-(7) 親切、思いやり	11「ピエロの音が…」 C-(12) 規範の尊重	14「嫌な旅行の場」 A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任	15「空きかんのほくえ」 C-(12) 規範の尊重、力と強い意志	16「言葉のおくりもの」 B-(10) 友情、信頼	22「せんぱいの心を受けついで」 C-(16) よりよい学校生活、集団生活の充実	26「風のよけ」 B-(11) 相互理解、寛容	29「すんまへん」でいよう A-(3) 態度、節制	31「夢」 A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志	34「安守の話」 C-(4) 勤労、公共の精神
価値		27「あこがれのバディ」 A-(4) 個性の伸張	5「白神山」 C-(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	8「白狐の少女」 C-(18) 国際理解、国際感覚	12「命の重さをはかろう」 D-(19) 生命の尊さ	13「おとぎ話の国」 A-(3) 希望と勇気、努力と強い意志	16「むづなぐき色」 A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志	「アイヌふくしま」(巻) C-(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	23「龍足堂の聖女ランナー」 D-(22) よりよく生きる	27「タマシイ」 D-(19) 生命の尊さ	30「東京大空襲の中」 D-(21) 感動、畏敬の念	32「雪の物語」 D-(21) 感動、畏敬の念	35「まんがに命を」 A-(6) 真理の探究
価値		3「うちらネコの手」 C-(14) 勤労、公共の精神	6「おとぎ話の国」 B-(8) 国際理解、国際感覚	9「おとぎ話の国」 B-(8) 国際理解、国際感覚	13「エンゼルガールのまじど」 C-(18) 国際理解、国際感覚	14「おとぎ話の国」 A-(3) 希望と勇気、努力と強い意志	17「おとぎ話の国」 A-(3) 希望と勇気、努力と強い意志	20「おとぎ話の国」 A-(2) 正直、誠実	28「心を通じよう」 B-(7) 親切、思いやり	30「心を通じよう」 B-(7) 親切、思いやり	33「小さな道徳塾」 C-(16) よりよい学校生活、集団生活の充実	35「まんがに命を」 A-(6) 真理の探究	38「まんがに命を」 A-(6) 真理の探究
価値		10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼	10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼	10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼	10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼	10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼	10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼	10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼	10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼	10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼	10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼	10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼	10「ぼかちゃん」 B-(10) 友情、信頼
学校行事		入学式 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)
特別活動		1年生を迎える会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)	運動会 (よりよい学校生活、集団生活の充実)
総合的な学習		コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)	コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)	コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)	コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)	コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)	コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)	コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)	コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)	コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)	コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)	コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)	コンピュータでできることは？ (善悪の判断、自律、自由と責任)
各教科		国語 (国語の理解、自律、自由と責任)	国語 (国語の理解、自律、自由と責任)	国語 (国語の理解、自律、自由と責任)	国語 (国語の理解、自律、自由と責任)	国語 (国語の理解、自律、自由と責任)	国語 (国語の理解、自律、自由と責任)	国語 (国語の理解、自律、自由と責任)	国語 (国語の理解、自律、自由と責任)	国語 (国語の理解、自律、自由と責任)	国語 (国語の理解、自律、自由と責任)	国語 (国語の理解、自律、自由と責任)	国語 (国語の理解、自律、自由と責任)
備考欄													

大島小学校第1学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成30年11月2日（金）第5校時
授業者：郡山市立大島小学校 教諭 村上早苗

授業テーマ	主人公の行動や思いに共感したり、自分の生活と結びつけて考えたりすることを通して、物や金銭を大切に生活しようという心情を育てることができる授業
-------	--

- 1 主題名 ものやお金をたいせつに A－（3）節度・節制
- 2 教材名 じしんがおきて（出典：みんなのどうとく1ねん 学研）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、健康や安全に気を付け自立した生活ができるための基本的な生活習慣を身に付けること、節度をもって節制を心がけた生活を送ることに関するものである。第1学年および第2学年の段階においては、周囲に対する気配りや思いやりをもち、物は多くの人の努力と勤労によって作られていることを知り、金銭の価値を正しく理解して物を大切にすること、身の回りを整えて気持ちのよい生活ができるようにすることについて指導する必要がある。

(2) 児童の実態（子ども観）

子どもたちは、様々な経験を通して少しずつ時間や物を大切にすることや、規則正しい生活が大切なことに気付いている。その反面、落とし物を誰も取りに来なかったり、使える物があるのに新しい物を買ってもらったりしている。「物を大切にすること」のアンケートでは、物を大切にすることがあると答えた児童はほぼ全員であったが、物を大切にするのはなぜなのかの問いに関する記述は未記入が多く、大切に理由について考えるまでには至っていない。

(3) 教材について（教材観）

本教材は、東日本大震災を題材としており、主人公のまなみは、食べ物がなくて困っている人々のために父親がパンを作ったり、先生から野菜が津波で流された話を聞いたりしたことで、物や金銭の大切さを実感する内容の教材である。父親の姿と先生の話の二つが心の中で重なり合うことで、主人公の考え方が変わっていく姿から、物や金銭の大切さを見つめ直させることができる教材である。

4 本時のねらい

どんな物にも、それを作った人がいること、そして、そこには作った人の心が込められていることに気づき、物や金銭を大切に生活しようとする心情を育む。

5 板書計画

じしんがおきて

ものをたいせつにするってどんなことかな

・やさしいがてだけれど、
がんばってたい。
・かぞくにかつてもらったものは
たいせつにつかいたい。
・どんなものでも
つくったひとがいるから
たいせつにしたい。

まなみさんがき
ゆうしよくをのこ
さなかったのは、な
ぜかな。

まなみさんがあ
らしいしたじきを
わなかったのは、な
ぜかな。

ネームプレート

6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 東日本大震災について知る。 - 物がなくなって困る。 - 食べ物がなくなったら、どうしよう。 2 学習課題を知る。 ものをたいせつにするとは、どんなことかかんがえよう。	5	○ 教材に出てくる「地震」「津波」「募金」などの言葉とともに、東日本大震災発生当時の様子や、避難所の人たちの苦労を具体的に伝えるために写真を用いる。また、集中して学習できるように、事前に地震について伝え、写真を掲示しておく。
展開	3 教材「じしんがおきて」を聞いて考え、話し合う。 (1) まなみが給食を残さなかったのはなぜかを考える。 ○ 役割演技をする。 - 残すともったいないから。 - 作った人が、がっかりする。 (2) まなみが新しい下じきを買わなかったのはなぜかを考える。 ○ 考えたことを、ワークシートに書く。 - 使えるのでもったいない。 - 物がなくて困っている人の話を聞いたから。 (3) 物を大切にするために自分ができることを考える。 ◎ ものをたいせつにするために、じぶんができることをかんがえよう。 ○ 自分のことをワークシートに書く。 ○ なるほどタイム（意見交換）を行う。 - 野菜が苦手だけど、がんばって食べたい。 - 家族に買ってもらった物は大切に使おう。	10 10 15	○ 支援が必要な児童も内容を理解できるように教材文の概要を伝えてから範読に入る。 ○ 「きょうは」という言葉から、それまでは残していたことに気付かせ、まなみが変わったきっかけや心の変化を簡単な役割演技で表現させる。 ○ 「友だちとおそろいにするために買う」ことを押さえ、必要に迫られて買うわけではないことに気付かせ、なぜまなみががまんしたかに着目させる。 ○ 一人一人が自分事として主体的に考え、伝えやすくするためにワークシートを活用する。 ※ 食べ物には、作っている人たちの心がこもっていることや、金銭の大切さを知り、無駄遣いしないことの大切さに気付くことができたか。 (発表・ワークシート) ○ 多様な考えに触れ、お互いの考えの良さや違いに気付くために、ワークシートに記入したあと、自由に考えを伝え合う。全体に広めたい考えについて意図的指名をしたり、子どもたちからおすすめの考えを紹介させたりする。
終末	4 学習のまとめをする。 (1) 本時を振り返り「これまでの自分」「これからの自分」の生活について考える。 ○ ジェスチャーで、表現する。 ○ 自分ができそうなことに、ネームプレートを貼る。 (2) 教師の説話（物を大切にしている姿）を聞く。	5	○ 本時の学習を生かして、物を大切にする意識付けを図るために自分がこれから実践していきたい考えにネームプレートを貼る。 ※ 物を大事にし、金銭を無駄使いしないことの大切さを自分の生活と重ねて考えることができたか。 (発表・ネームプレート)

質の高い多様な指導方法の視点から

(1) 「自分を重ねて考えることのできる課題提示の工夫」について

- 教材に出てくる、「地震」「津波」「募金」などの言葉とともに、東日本大震災発生当時の様子や、避難所の人たちの苦労を具体的に伝えるために写真を用いた。事前に掲示しておくことで支援が必要な子どもが集中して学習に取り組むことができた。また当時は生まれていない子どもたちも、保護者から話を聞き、イメージを持って、本時に臨むことができた。



(2) 「自他の思考過程を吟味・共有する場の工夫」について

- 地震のあと、給食を残さず食べたまなみになって役割演技をし、まなみの気持ちを表現することにより、残さず食べようとがんばる気持ちを実感し、意欲を高めることができた。
- 多様な考えに触れ、お互いのよさや違いに気付くために、ワークシートに記入したあと「なるほどタイム」として、自由に考えを伝え合った。友だちの考えを聞いて「いいね。」「そうか。」などと言葉で返すことにより、共感することができた。「学び合いのふわふわ言葉の活用」については、学年で活用を図ることによって、学び合う姿勢が定着してきた。
- 全体に広めたい考えについて、教師が意図的指名をしたり、子どもたちからおすすめと考えとして紹介させたりすることにより、自分の考えが学習の中で生かされたことで達成感を味わうことができた。
- 終末の部分で今までの自分を振り返るために、ジェスチャーを活用した。児童一人一人が主体的に考え、短時間で振り返ることができたのでジェスチャーは、有効であった。
- 自分の考えをもっているものの、文章に表現することが苦手な子どもがおり、発表や表情での見取りからの個別支援が必要になってくるが、十分にできなかった。

(3) 「地域・家庭とのかかわりを意識した振り返りの工夫」について

- 「きょうは」「友だちとおそろいにする」など、教材文の中のキーワードを押さえ、意識させる発問を行うことにより、価値に近づけることができた。下じきを買わずに募金したことを、把握することができた。
- まなみの父親と同じように、自分の親も自分のためにがんばってくれていることに気付き、ものを大切にすることや無駄遣いしないで大切にすることについての道徳的实践意欲が高まった。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

意見交流のあと「おすすめの考えの友だち」を、推薦することによって、推薦した方もされた方も、温かな気持ちになっていたように思う。経験を重ねると、友だちの意見をよく聞いて、吟味できるようになると考える。

授業の終末で、自分がやってみたいと思うことにネームプレートを貼ることにより、表出の弱い子どもでも意思表示をすることができた。中心発問の内容が中心になるように板書構成を行い、学習課題・中心発問・終末での自己決定（ネームプレートを貼る）が、スムーズにできた。事前のアンケートの内容では、「ご飯は残さず食べる。」「えんぴつを大切にする。」など、一般的な内容が多かったが、学習の終末では「大切にすると大切が戻ってくるからがんばっていきたい。」「ありがたいの気持ちで使いたい。」等、心情面での高まりも見られた。後日、この内容を「がくしゅうのあしあと」に掲示し、紹介した。

吉子川小学校第1学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成30年11月19日（月）第5校時
授業者：中島村立吉子川小学校 教諭 小玉 裕子

授業テーマ	体験活動を取り入れることで、挨拶をすることの大切さを多面的・多角的に考えさせる授業
-------	---

1 主題名 こころをつないで B-（8）礼儀

2 教材名 ぽっかぽか（出典：みんなのどうとく）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本教材は、挨拶をしたことで友達と仲直りできた主人公の行動を通して、ねらいに迫るものである。おばあさんの心のこもった挨拶が主人公の心を温かくし、挨拶を通して心と心が通い合い、更にそれを友達にも実行したことで、けんかしていた友達との関係が良くなったという構成になっている。児童が自分の体験と重ね合わせながら、人と仲良くなるために心のこもった挨拶をすることの大切さについて考えを深められる教材である。また、進んで挨拶をしたり心をこめて挨拶をしたりすることにより、心と心が通い合い、相手に対して一層親しみを感じることに気付かせ、よりよい人間関係を築こうとする態度を育てていくことができる。

（2）児童の実態（子ども観）

本学級は、20名の学級である。素直で穏やかな児童が多く、落ち着いて生活している。しかし、挨拶をすることについては、身に付いている児童がほとんどいない。月曜日の朝は、多くの児童が教室に黙って入ってくる。水曜、木曜日ぐらいになってようやく自分から言うことができるようになるが、翌週の初めには、また黙って入るようになる。このようなことから、家庭でも挨拶を行う習慣がない様子が伺える。また、声が小さかったり言葉がはっきりしなかったりして、心がこもった挨拶ができない児童もいる。心をこめた挨拶が、相手の心を温かい気持ちにしたり、よりよい人間関係を築いたりすることができることに気付いていない。

（3）教材について（教材観）

本時の展開前段では、はるの心を温かくしたのは挨拶であること、また心のこもった挨拶を実行することで友達との関係が良くなっていったことを、板書を工夫することでとらえられるようにする。また、はるが挨拶をされる場面と挨拶をする場面の両場面を取り上げ、それぞれのはるの気持ちを考えさせることで、挨拶することの大切さを多面的・多角的に考えさせたい。展開後段では、自己を見つめる時間を確保するが、1年生では頭の中だけで自己を振り返ることが困難であると予想される。そのため、挨拶の言葉を探し、ペアで挨拶を交わす体験を取り入れたい。体験することで、心をこめて挨拶をすると自分も相手も気持ちがよくなることを実感させ、これまでの自分を見つめることと、これからの自分に思いをはせることにつながるように働きかけたい。終末では、これまでのノート指導を生かし、本時を振り返って、それぞれが挨拶について思ったことや感じたことを素直に表現させたい。

4 本時のねらい

挨拶の体験活動を通して、自分も相手も気持ち良くなることに気づき、心が通い合う挨拶をしようとする心情、実践意欲を育む。

5 板書計画



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 生活を振り返り、ねらいとする価値に興味を持つ。 ・友達に「おはよう」と言われてうれしかった。 ・近所の人に優しい声で言われてうれしかった。 あいさつをするときに、だいじなことはなにか。	5	○ 「挨拶されてうれしかったこと」についての事前アンケートの内容を紹介し、挨拶についての学習意欲を高めるようにする。
展開	2 教材「ぽっかぽか」を読んで、話し合う。 (1)けんかをした時の気持ちを考える。 ○なおとくとけんかした後、はるくんはどんな気持ちでいたかな。 ・明日、仲直りできるかな。 ・嫌な気分だなあ。 (2)おばあさんに「まあ、ごしんせつにありがとう」と言われた時のはるくんの気持ちを考える。 ○言われたとき、はるくんはどんな気持ちになったのかな。 ・嬉しい気持ち。 ・心がぽかぽかした。 (3)はるくんがなおとくに「ごしんせつにありがとう」と言えた訳を考える。 ◎はるくんは、どうして「ごしんせつにありがとう」と言えたのかな。 ・なかなかおりにしたかったから。 ・なおとくんが先に「どうぞ」って言ってくれたから。 ・おばあさんに言われて嬉しかったことを思い出したから。 (4)挨拶をする時に大事なことについて話し合う。 ○挨拶をする時に、大事なことは何かな。 ・心をこめて ・やさしい言い方で ・相手の目を見て	18	○ はるくんとなおとくんの状況、はるくんとおばあさんの状況を確認し、はるくんとなおとくんの変化に注目しながら聞くようにさせる。 ○ 板書を活用し、おばあさんの心のこもった挨拶が、はるくんの心を温かくしたことに気付かせる。 ○ 心のこもった挨拶をすることで、二人の関係が変わり、お互いに心が温かくなったことに気付かせる。 ○ 挨拶をする側の気持ち、される側の気持ちの両面から考えさせることで、挨拶の大切さを多面的・多角的にとらえることができるようにさせる。 ※ 挨拶の大切さについて、多面的・多角的に考えることができたか。 (発言・観察)
閉	3 自己を見つめる。 (1)体験を通して、挨拶のよさを味わう。 ○やってみよう。言えるかな。 ・「お先にどうぞ」「ありがとう」 ○どんな気持ちになったかな。 ・言ってみたら気持ちいいな。 ・ちょっと恥ずかしいけれど、嬉しい気持ちになった。 ・楽しい気持ちになった。 ○他にはどんな挨拶があるかな。 ・おはよう ○校長先生に挨拶をしてみよう。 (2)日常の児童の心がこもった挨拶を紹介する。	15	○ 身の回りにある挨拶の言葉を探し、いろいろな友達とペアになって挨拶を交わす体験をさせる。この体験を通して、心をこめて挨拶をすることで自分も相手も気持ちがよくなることを感じ取らせる。 ○ 具体的な生活場面を想起して体験させることで、これから挨拶を大切にしていこうとする思いや願いを深める。 ○ 価値に関わる児童の普段の姿を紹介することで、自己を振り返ることができるようにする。
終末	4 本時を振り返る。 ・ノートに感想を書く。	7	○ 挨拶について本時で感じたことを書く。

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

(1)「育てたい道徳性を明確にする工夫」について

- 普段の生活の様子を見ていると、はきはきとした気持ちのよい挨拶や言葉遣いなどをしっかり身に付けている児童は少ない。そこで、本時では、挨拶についてのアンケート結果を導入時に提示したことにより、児童の学習への意欲を高めることができた。また、教材の中で、主人公が挨拶をされる場面の気持ちを考えさせたことで、挨拶することを多面的・多角的に考えさせ、ねらいの焦点化を図ることができた。
- 心のこもった挨拶を実行したことが心を温かくさせ、友達との関係を良好にしていったことを、黒板に表情マークを貼ったことで視覚的に捉えさせることができた。
- 主人公の心情を問う中心発問の後に、価値理解を深めるための発問を意図的に設定していくことが必要であった。児童の発言を生かしてねらいに迫ると良かったと思われる。

(2)「課題解決のために多面的・多角的に考えさせる工夫」について

- 具体的な生活場面を想起して体験活動を行った。その中で、「ありがとう」や「おはよう」という言葉に、児童の創意工夫でお辞儀や身ぶり手ぶりが加えられた。挨拶が場面や相手に応じて変化することや言葉以外にも気持ちを伝える手段があることを体験できたことで、挨拶をすることについて多面的・多角的に学ぶことができた。
- 挨拶をする時に大事なことについての話し合いを展開前段で行った。しかし、体験活動を終えた後に行った方が、実際に挨拶の大切さを強く感じたり、反対に挨拶をする時の難しさや恥ずかしさ等も感じたりできて、更にねらいに迫ることができたのではないかなと思う。

(3)「自己を見つめさせる指導の工夫」について

- 本時で学んだことを振り返るために、道徳ノートに感想を記入させた。児童は、授業を通して感じたことや今後の生活に生かしたいこと、主人公を自分に置き換えた時の行動等、素直な気持ちを書くことができた。
- 道徳ノートを早く書き終えて、他の児童を待つ姿が見られた。友達とノートを見せ合ったり、全体に紹介するなどすると、更に考えを深めることができたのではないかなと考える。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- 挨拶をする時に大事なことについて話し合う場面では、「おばあさんみたいに」と発言した児童の考えに対して担任が「どんなふうに」と問うことでおばあさんが頭を下げたり、目を見たりして挨拶をしたことを学級全体に広めることができた。それにより、児童は、真心がこもった気持ちのよい挨拶の仕方を具体的にイメージすることができた。また、「大きな声で」と発言した児童に理由を問うと、「声が小さいと相手に伝わらない」と答えた。これをもとに、児童の生活の様子に目を向けさせることができた。
- 実際に挨拶を体験させる場面では、挨拶をされた校長先生から「～と挨拶されてうれしかったよ」と認められたことにより、これからの生活の中で挨拶を大切にしていこうとする気持ちを持つことができた。
- 今回の授業では、教材について考える時間や体験活動を通して多様な視点から道徳的価値に迫るために、道徳ノートを有効に使用できた。しかし、教材によっては書くことを重視する場面も想定され、道徳ノートの形式を変更していく必要があった。
- 児童が書いた道徳ノートは必ず担任が集め、コメントを書くようにしている。本時では、その場でノートの内容を確認して、児童一人一人にメッセージを送った。道徳ノートには、児童一人一人に合わせた励ましや授業内の活動に対するメッセージを朱書きしている。児童の頑張りを認め、次時への意欲を高めるきっかけにすることができた。
- 道徳に関しては数字で評価することはしないが、担任による継続的な見取りや道徳ノートにおける心情の変化を見つけることをさらに大切にしていきたい。
- 授業後道徳ノートに教師のコメントを記入して教室内に掲示したことで、互いの考えの理解の場としたが、1年生の実態をふまえ、交流が深まるように更に工夫していく必要がある。

江名小学校第1学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成30年7月13日（金）第5校時

授業者：いわき市立江名小学校 教諭 田中優子

授業テーマ	道徳的価値を基に、自己の生き方について考えを深める指導のあり方 ～自ら「考え」「学び」「生かす」子どもの育成～
-------	--

1 主題名 感謝の気持ちを伝える B－（8）感謝

2 教材名 「みんな だれかに」（出典：あたらしいどうとく 東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

よりよい人間関係を築くためには、互いに認め合うことが大切である。その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。そして、それは、日々の生活、あるいは自分が存在することに対する感謝へと広がる。感謝の気持ちは、人が自分のためにしてくれている事柄に気付くこと、それは、どのような思いでしてくれているのかを知ることによって芽生え、育まれてくる。

(2) 児童の実態（子ども観）

この時期の児童は、家庭や学校など身近な人にたくさんお世話になっている。本学級の児童も、友達に物を借りたり、上級生に助けてもらったりしている。そして、すぐに「ありがとう」という言葉を使う姿や帰りの会の「キラリ！江名っ子」を発表する時には友達に感謝する姿も見られる。しかし、誰かに自分の世話をしてもらうことを当たり前のように感じていることがあり、感謝を伝えていないこともある。

本時では、困った時に助けてもらった人だけでなく、お世話になった人にも感謝し、その気持ちを相手に伝えようとする気持ちを育てていきたい。

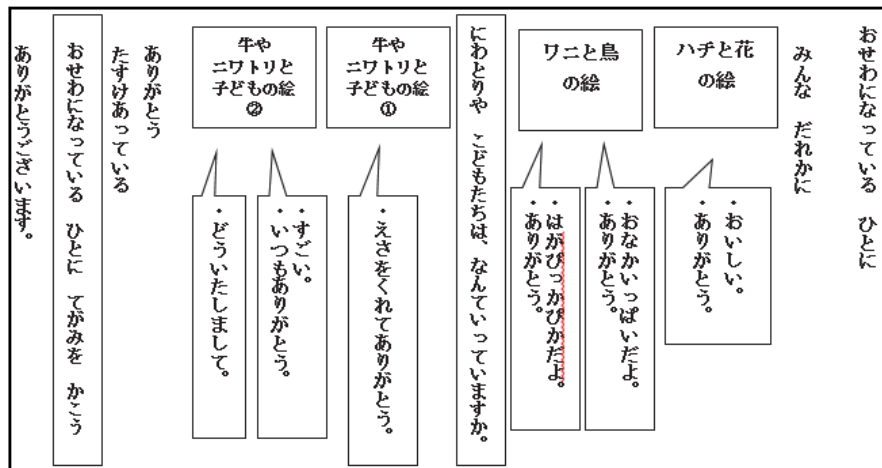
(3) 教材について（教材観）

本教材は、植物、動物、人間がともに生きるために、お互いが支え合い助け合いながら生きていることを「ハチと花」「リスと木」「ワニと鳥」「魚とイソギンチャク」「ブタと小さい虫」「牛やニワトリと子ども」の6つの場面を使って描かれている。また、生き物たちが互いに「ありがとう」という言葉で感謝の気持ちを伝えている。

4 本時のねらい

日頃、自分たちの生活を支えてくれたり、助けてくれたりしている人々に感謝し、その気持ちを伝えようとする心情を育む。

5 板書計画



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 本時の課題を確認する。 ○どんな人にお世話になっていますか。 ・おかあさん ・お父さん ・6年生 お世話になっているひとに	5分	○経験を想起することで、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展開	2 教材「みんな だれかに」を聞いて話し合う。 ○どんなことを言っているかを考えながら聞いてください。 (1) ハチと花について話し合う。 ○ハチは蜜をもらっている時、なんと言っているのでしょうか。 ・おいしい。 ・ありがとう。 (2) ワニと鳥について話し合う。 ○鳥は食べているとき、なんと言っているのでしょうか。 ・おなかいっぱいになったよ。 ・ありがとう。 ○ワニは、なんと言っているのでしょうか。 ・ぼくの歯は、ぴっかぴかだよ。 ・ありがとう。 (3) 牛やニワトリと子どもについて話し合う。 ◎ご飯をあげたニワトリから卵をもらっているとき、子どもはどんなことを言っているのでしょうか。 ・ありがとう。 ・大事に食べるね。 3 自分のことを振り返って考える。 ○今までお世話になった全員に「ありがとう」を言っていましたか。 ○その中の1人に短い手紙を書いてみましょう。 ○手紙を発表してください。	35分	○「ハチと花」「ワニと鳥」「牛やニワトリと子ども」の3つの場面を示す。 ○黒板シアターで教材提示をする。 ○鳥だけの気持ちだけでなく、ワニの気持ちにも触れることでお互いに感謝していることに気付かせる。 ○片方がいなくなってしまうらどうなってしまうかも考えさせ、当たり前の存在だがお互いに支え合っていることにも気付かせる。 ○役割演技をすることで、動物や子どもの思いに触れ、「ありがとう」と「支え合う」との関係について気付かせる。 ※お互いに感謝の気持ちをもっていることに気付いたか。(発表) ○たくさんの人に世話になっていることを想起させ、自己を振り返らせる。 ※手紙を書くことで感謝の気持ちを伝えようとしているか。(ワークシート)
終末	4 学習のまとめをする。 ○みなさんの生活の中から気付いたことを紹介します。	5分	○日常生活で児童が気付かないような事例について話し、まとめる。

質の高い多様な指導方法の視点から

(1) 「導入部分での教材提示の工夫」について

- 黒板シアターを活用することで、1年生であっても集中して話を聞かせ、教材文を理解させることができた。
- イラストの提示、教師による感情豊かな話し方など、視覚的、聴覚的、心情的なはたらきかけを行うことで、児童一人一人に教材文のスムーズな理解を促すことができた。
- 場面ごとに区切って教材の提示を行うことで、児童にそれぞれの場面の気持ちを考えさせることができた。
- 教材提示にやや時間をかけすぎてしまった。低学年の場合、価値に気付くだけで精一杯の面があるかもしれないが、教材にかける時間と自己を振り返る時間のバランスが今後の課題である。



(2) 「発問と板書の工夫」について

- 学年の発達段階を考慮し、場面発問型の板書（教材名を書き、教材の場面絵や発問を順を追って掲示しながら児童の発言を板書していく形式）を取り入れた。そのことで、読み物教材の内容を把握しやすくし、登場人物に自我関与しながら、ねらいとする価値に対して共感的理解を図っていくことができた。
- 発問を吟味・精選して授業を組み立てることで、児童に考えさせる時間を十分に確保することができた。また、中心発問は黒板の中心に提示し、本時で考えさせたいことを児童にも明確に意識付けさせることができた。
- 黒板シアターと場面発問型の板書がかみあっていないところがあったので、今後研究が必要である。

(3) 「指導に活かす評価の工夫」について

- 役割演技を行わせ、動物たちの感謝の気持ちにどれだけ気付くことができたのかを評価した。その際、表面的な理解にとどまっている場合には、お互いにやってみての感想を話したり聞いたりさせることで、多面的・多角的な理解を促すことができた。
- 展開後半に今までお世話になった中の一人に短い手紙を書かせて評価を行った。感謝の気持ちを伝えようとしていた児童は多かったが、たくさんの人へ感謝をしていたかという面では、深まりがみられなかった。（特定の人への感謝に偏っていた。）多面的・多角的な見方、考え方へと広げようとしたが、本時の授業の中では、時間的な制約で難しかった。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

事後研究会では、役割演技や手紙を書かせることは1学年には難しい活動ではないか、という意見が出された。（確かに手紙などが十分に書けない児童がいた。）その際、書けないからといって評価を低くするのではなく、様々な方法で評価をすることが大切であるとのご指導を頂いた。また、1学年で難しい活動であっても、今回の本学級の児童のように役割演技がきちんとできる場合もある。それまでの学習活動に対する教師の継続的な評価と励ましがあったからであると考える。今後も、実態に応じた評価と継続的な励ましが心がかたい。

また、展開後半で手紙を書かせたことは、児童の学習状況を記録として蓄積し、今後の道徳性に係る成長の様子を把握するための資料としては、必要かつ有効な活動であった。児童一人一人に教師のコメントを入れることで、児童の励ましにもなっている。本授業を通して、計画的で継続的な評価の必要性を改めて認識した。

福島第四中学校第1学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成30年11月2日（金） 第5校時
授業者：福島市立福島第四中学校 教諭 及川容子

授業のテーマ	主人公の加奈子がとってしまった行動の原因と解決策を考える活動を通して、寛容な気持ちで相互理解する態度を育てる授業
--------	--

- 1 主題名 他に学ぶ姿勢 C－（5） 相互理解、寛容
- 2 教材名 「言葉の向こうに」（出典：『私たちの道徳』文部科学省）
- 3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

人間の相互の理解は、自分の考えや意見を発信することが一つの鍵になる。様々な物事について、自分の考えや意見を人に伝えることは、人間関係を築き、相互理解を深めるために欠かすことができない。人間は、大抵の物事についてその全体を知り尽くすことは難しく、自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。人には、それぞれ自分のものの見方や考え方があり、個性がある。そこで大切なことは、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。他者との関わりの中で具体的な物事について話し合ってみないと、自分の見方や考え方の狭さに気づくことができない。そして、自分自身も他者も、過ちを犯しやすい人間であると深く理解することで、自分と異なる他者の立場や考え方を尊重することができる。寛容の気持ちをもてば、人を許し受け入れてとがめだてしないで、他者のよい面を積極的に認めようとすることができる。

（2）生徒の実態（生徒観）

5月に行った道徳のアンケートから、「道徳の時間は好きである」という項目について「そう思う」、「どちらかというと思う」生徒は89％、「道徳は役に立つ」について「そう思う」、「どちらかというと思う」生徒は100％であった。また、「人の気持ちが分かる人間になりたい」と全ての生徒が感じている。また、今回の主題に関して「他の人の個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解しながら接していますか」について「自分は優れている」と感じている生徒は96％である。しかし、実態を見てみると、毎日のように、自分たちでは解決できないもめ事や、口げんかで大人に助けを求める様子が見られる。日常生活の中で、他者は自分とは違うと分かっている、自分に事が降りかかると、自分の価値や、自分の立場を主張し、トラブルに至る場合が多いように感じる。

（3）教材について（教材観）

主人公の加奈子は、インターネットで、ヨーロッパのサッカーチームのA選手のファン仲間と交流を楽しんでいる。ある試合をきっかけに心ない書き込みに怒った加奈子は、自分もひどい言葉で応酬し、注意されてしまう。インターネットの上での言葉のやりとりの難しさに直面した加奈子だったが、「言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて。」という言葉から、言葉の受け手の存在を忘れてしまっていた自分に気づくという教材である。

4 本時のねらい

主人公の加奈子がとってしまった行動の原因と解決策を考える活動を通して、多様な見方や考え方があることを理解し、相手の立場を尊重し寛容な心を持つようとする態度を育てる。

5 板書計画

「匿名だからこそ、あなたが書いた言葉の向こうに、あなたが見えていない人々の顔が浮かべられている」と言っていた。 ・自分の言いたいことも考えて、相手に伝えることも考えて、人それぞれ違う意見がある。それを気にしないで、気持ちを伝える。サイト上の人々の気持ちを考える。 ・あなたが加奈子だったらどうしますか。 相手の立場や考え方を尊重し、自分も成長していくには、どのような態度や気持ちが必要かを考えよう。	言葉の向こうに 「インターネット・メール・LINE」 ・自分の好きなアイドルの嫌な書き込み。 加奈子は何に困っているのでしょうか。 ・サイト上で責められた。一人ぼっちになった。 あなたが加奈子だったらどうしますか。 ・無視する。 ・謝罪する。 ・サイト上の人を呼びかける。 ・匿名だからこそ、あなたが書いた言葉の向こうに、あなたが見えていない人々の顔が浮かべられている」と言っていた。
---	--

6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 課題意識をもつ。 ○ 「インターネット、メールや LINE」で嫌な思いをしたり、困った出来事が起きたりしたことはありませんか。 ・好きなアイドルについての嫌な書き込みを見つけて嫌な気分になった。	3	○ 本時と総合の時間のつながりを意識させるために、総合の時間で学習した「情報モラル」に関することを想起させる。
展開	2 教材「言葉の向こうに」の前半部分を読んで話し合う。 ○ 加奈子はどんなことで困っているのだろう。 ・悪口を言われたこと。 ・Aをかばったことを非難されてしまったこと。 ○ あなたが加奈子だったらどうしますか。 ・無視する。 ・サイトから抜ける。 ・謝る。 3 教材の後半部分を読んで話し合う。 ○ 「匿名だからこそ、あなたが書いた言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて」と言った人は、加奈子に何を伝えたかったのだろう。 ・自分の言いたいことだけでなく、相手のことも考えてほしい。 ・人それぞれに違う意見があることに気付いてほしい。 ・サイトを見る人の気持ちを考えてほしい。 ◎ あなたが加奈子だったらどうしますか。 ・相手の気持ちを考えずに書き込みをしていたのだから、謝る。 ・サイトをもう一度見直し、書き込みをしている人の顔を実際に思い浮かべてみる。 ・謝って、次から言葉に気を付け、楽しく使えるようにする。	17 20	○ 教材の内容が理解しやすいように、登場人物を紹介してから範読する。 ○ 主人公の立場に立って、自分事として考えさせることで、問題意識をもってねらいに迫れるようにする。 ○ この言葉を発した人の思いについて、互いに意見を交流させながら、班で考えさせることで、本時のねらいとする道徳的価値を多面的、多角的に考えさせる。 ○ 補助発言を投げかけることで、言葉を発した人の思いを、自分の経験や今の生活と結びつけて話し合い、考えを深めさせる。 ※ いろいろなものの見方や考え方があることを理解しながら、自分の行動について考えている。 (発表・ワークシート)
終末	4 今日学習したことを振り返る。 ○ 相手の立場や考え方を尊重しつつ、自分も成長していくには、どのような態度や気持ちが大切かを考えましょう。 ・自分がされて嫌なことは、相手にもしない。 ・自分の意見だけではなく、相手の意見も尊重する。 ・相手の気持ちを常に考えて行動する。 ・相手がなぜそういう考え方をするのかについても考える。	10	○ 本時のねらいとする価値を自分なりに深められるようにするために、振り返りの観点を明らかにして、ワークシートに記入させる。 ※ 相手や周囲の人の立場や考え方を尊重し、広い心をもって接することの大切さに気づくことができたか。 (観察・発表・ワークシート) ○ 教師が意図的に指名し、ねらいとする道徳的価値についての考えを深めさせる。

3

多様な指導方法に基づいた
授業実践

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

- (1) 授業のねらいに迫り、生徒の考えを深める発問の工夫について
- 今回の授業では、「道徳科における質の高い多様な指導方法について」（平成28年7月「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」）におけるの中に示されている、問題解決的な学習につながる発問を取り入れてみた。総合的な学習の時間で学んだ情報モラルについての学習を生かし、「自分だったらどうだろう」という発問を柱にして授業を組み立てた。身近な問題をとらえて考えさせることができた。
 - 生徒の心を揺さぶる問い返しがあってもよかった。ネットへの悪口に関して、「最初に悪口を書き込んできたのは向こうなのだから、加奈子さんは悪くないのではないか」と問うことで、なぜだめなのか、さらに深く考えさせることができたのではないかと思われる。
- (2) 多面的・多角的、批判的に考えさせたり、議論・討論させたりする授業の工夫について
- 加奈子にアドバイスをくれた人の思いについて、互いに意見を交流させながら班で話し合わせるにより、自分以外の多様な考えに触れさせることができた。友達の考えを受けて自分の考えを広め、自らの振り返りに生かそうとする生徒たちの姿が見られた。
 - 生徒同士の交流場面では、思考の可視化を工夫することでさらに多様な考えを引き出し、自己の内省に生かすことができたのではないかと思われる。
- (3) 振り返りの方法の工夫・改善について
- ローテーション授業として行った別の学級の授業では、「自分と違うものの見方や、考えを受け止めることについて何を学びましたか」という振り返りを行ったが、自分事として捉えさせるのが難しかったため、もっと観点を明らかにし、「相手の立場や考え方を尊重しつつ、自分も成長していくためには、どのような態度や気持ちが大切か」という振り返りに変更した。そうすることで、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中でより深めさせることができた。
 - 今回の授業は、どちらかというと資料の内容について考える時間が長かった。自分を振り返る場面にもっと比重を置いて考えさせた方が、自分自身としっかり向き合い、さらに深く思考することができるのではないかと思われる。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の観点から

- ローテーション授業として行った別の学級の授業では、評価は振り返りの場面一箇所だけであったが、「道徳の評価では、『一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させていたかどうか』が重要」ということを再確認し、生徒同士の意見交流の場面での評価も取り入れた。また、話合いの前と後に同じ発問を入れ、生徒の変容を見ることができるようにした。授業においては、友人の意見を聞いて頷く生徒の姿や、意欲的に自分の考えを伝えようとする生徒の姿が見られた。授業で取り上げた発問について、全員が真剣に向き合い、考えている様子がうかがえた。このような姿をその都度価値づけながら累積し、成長の見取りにつなげることができた。
- 生徒のワークシートを見ると、「広い心を持って接することの大切さ」について考えを深められている生徒が多かったが、中にはほとんど書けていない生徒もいた。道徳的価値の理解を自分自身の関わりの中で深めさせるために、生徒の心を揺さぶる発問の工夫や振り返りの工夫など、さらに改善していく必要があると考える。

本郷中学校第3学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成30年10月4日（木）第3校時

授業者：会津美里町立本郷中学校 教諭 三浦 唯

授業テーマ	友情や孤独について、個々で考えたり、意見交換をしたりすることで、ねらいとする価値に迫り、真の友情を築くために必要なことを深く考えさせる授業
-------	---

1 主題名 深い友情を築くために B-(8)友情、信頼

2 教材名 友情 （出典：みんなで生き方を考える道徳）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

人間の社会は、互いに協力することによって望ましい社会生活が営まれ豊かな文化が形成される。そこに生じる「友情」は、人間として互いの特徴や個性を尊重し、互いに支え、競い合い、高め合うことによって深まる。中学生の時期は、心から信頼できる友だちを求め、友達への期待も高まる一方、時には悩み、友達であるからこそ意見がぶつかることもある。しかしながら、これらの悩みや葛藤を乗り越えることで、真の友情は培われているものである。

(2) 生徒の実態（子ども観）

小学校の段階で、互いに信頼し学び合って友情を深め、異性への正しい理解とともによりよい友達関係を築くよさについて学習してきた。中学生になると体験や学習の質が高まり、互いに心を許し合える友達を真剣に求めるようになる。しかし、日常の学校生活の様子を見ると、友達関係の幅や友達との付き合い方などがある程度決まってきたおり、うわべの同調者を友達と錯覚して、友達関係に翻弄されている生徒も多い。自分から真の友情を築くための共通の課題について考えを深めたり、互いの正しい理解によってより豊かな人間関係が築かれることに気付かせたりする必要がある。

(3) 教材について（教材観）

一人でいることを「暗い」「友達がいない」と捉え、大勢で賑やかにしていることを「明るい」「人気者」と捉える傾向にある生徒に、じっくりと静かに自分と向き合い物事を考えることの醍醐味や、自立した個人同士の間には真の友情は存在し得ないということを伝えるのに適した教材である。また、中学生にとって最大の関心事であろう「友情」について改めて考えさせ、意見を交換したり、自分の考えや悩みを振り返ったりするのにも適した教材である。

4 本時のねらい

友情や孤独についての意見交換を通して、真の友情を築くために必要なことについて自分の考えを持ち、その実現に向けて努力しようとする心情を養う。

5 板書計画

本当の友情って・・・？

- ・大事なことを話し合える。
- ・困っているときに助け合える。

☆「いい友達」に巡り会えない時

- ・いろんな人に積極的に関わる。
- ・気が合わない人にも合わせる。

友達

友情

(本当の友情を築くために)

☆「一人でいること」

6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される生徒の反応)	時間	○指導上の留意点 ※評価
導入	1 QU テストの結果を見て、自分たちの友達観・友情観について知る。 ・人と仲良くする方法を知っている。(6割) ・仲の良いグループ内では、中心的なメンバーである。(3割) ・本音や悩みを話せる友人がいる。(5割) 2 課題の「本当の友情って・・・？」を知る。	4 1	○ QU テストの結果を見せ、友人関係についての学級全体の現状を理解させる。 ○ 特に「本音や悩みを話せる友人がいる」と答えた生徒が半分ほどあるという現状を知らせ、本時の課題につなげる。
展開	3 「いい友達」に巡り会えない時はどうするのかを3人の班で考え、全体に発表する。 ・いろいろな人と積極的に関わってみる。 ・気が合わない人にも合わせようとする。 ・無理をしないで一人である。 4 「一人であること」について3人の班で意見交換をし、全体に発表する。 ・暗い、仲間はずれ(マイナス面) ・一人で落ち着いて物事を考えられる。(プラス面) 5 教材1を読み、本時の課題に迫る。 ◎ 「本当の友情」とはどのようなことか。 (1)「本当の友情」とはどのようなことかを3人の班で考え、全体で共有する。 ・大事なことについて話し合える。 ・困っている時に助け合える。 ・悩みを相談し合える。 (2)「本当の友情」を築くために今後自分が心がけていきたいことをワークシートに書く。 (3)ワークシートに書かれた友達の意見を聞く。	10 10 20	【問いかけのポイント】 意見交換や発表を参考にしながら、「いい友達」や「一人であること」について自分の考えを持たせる。 ○ 3人の班であらかじめ発表の順番を決めさせ、必ず全員に発表の機会が回るようにする。 ○ ホワイトボードに書かせ発表させる。 ○ 発表させた後、マイナス面とプラス面を整理し、「一人であること」を多面的に捉えさせたい。 ※ 友達の意見をしっかりと聞きながら、自分の意見をまとめ、述べているか。(観察) ○ 本当の友情がどのようなことかを深く考えさせることで、自分が今後心がけていきたいことを考えやすくする。 ○ ワークシートを回収し、何人かの意見を紹介する。 【深い学びのポイント】 本当の友情とはお互いを信頼して、何かをし合えるという関係性の中に生まれるものであるということに気付かせる。 ※ 「本当の友情」について、自分事として考えることができたか。(観察・ワークシート)
終末	6 教材2を読み、「本当の友情」の大切さについて理解を深める。	5	○ 教師の説話なども交え、「本当の友情」への意識が高まるようにする。

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

- (1) 「生徒が興味・関心をもち、主体的に考えたいくなる教材提示の工夫」について
 - QUテストの結果を提示したことにより、学級内での友人関係や学級全体の現状を具体的に知ることができ、本時の目標に迫るきっかけとなった。
 - 一部抜粋という形で教材を活用したことにより、教材から道徳的価値に直接迫ることができ、自他の意見を深く考え、多角的に捉えることにもつながった。
 - 教師の視点からの教材の受け止め方と、生徒の視点からの教材の受け止め方を照らし合わせ、教師が気付かせたいこと、生徒が考えたいことが重なるようにすることが大切である。そのため、その内容からどのように活用できるかを十分検討し、生徒の実態に応じて弾力的に活用することが大切である。
- (2) 「生徒一人一人が自己と向き合い深く考えたいくなる中心発問の工夫」について
 - 教師自ら発問の意図を明確にしておくことで、補助発問から中心発問へのつながりが良く、ねらいに迫ることができた。
 - 授業の価値観や教材観に基づいて、ねらいとする道徳的価値に関して最も考えさせたい資料中の場面を明らかにし、中心発問を設定することが大切である。
 - 行動の仕方だけを考えさせる発問はさけ、生徒の思考に揺さぶりをかけたり、人物の心情に迫らせたりするなど、行動の根拠になる心の在り方に関する発問をしなければならない。
- (3) 「考え、議論する道徳を目指した言語活動の工夫」について
 - 3名のグループ活動を取り入れ、道徳的価値について互いの考えを出し合い、議論することで、自ら道徳的価値の大切さや、自分との関わりについて気付くことができた。
 - 自己の考えを明確にし、話し合いを深めるために、ホワイトボードやワークシートを活用し、書く活動を充実させた。書く活動により、教師側も生徒の感じ方や考え方を捉え、個別指導をする機会にもつながった。
 - グループ活動は教師の指示であり、教師がその意図を明確にすることは大切である。「なぜグループ活動をさせるのか」単に全体交流の活性化や発言の少なさを補うためであってはならない。
 - グループ活動から全体での共有では、グループによる発表に留まる場合が多くある。一つの発表に対しての意見・考えを求め、「議論する道徳」の展開につなげたい。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の観点から

- (1) 学習状況について
 - 3人組での意見交換では、「伝え合う」「聞き合う」ことを通して、自他の考えのよさに気付き、いい友達に対する自己の考えを深め合うことができた。
 - (2) 道徳性に係る成長の様子について
 - 友達関係の幅や友達との付き合い方などがある程度決まっており、一部の同調者を友達と錯覚して、友達関係に翻弄されている生徒が多かったが、授業を通して、一人でじっくり考えることのできる「孤独」のよさに気付くことができた。このことは、生徒たちにとって大きな収穫であった。
 - ワークシートの活用により生徒の頑張りや心の変化を認め、コメント記入や掲示等で励ますと共に、資料を蓄積することで評価に生かしたい。
- 【ワークシートより】
- ・ 相手に自分のことを分かってもらうのではなく、自分が相手のことを分かろうとする。相手を信頼し、積極的に友情を築こうとする。
 - ・ 本当の友情とは、互いに相手のことが考えられることだと思う。

館岩中学校第3学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成30年11月12日（水）2校時

授業者：南会津町立舘岩中学校 教諭 菅野 千春

授業テーマ	他者と共によりよく生きることを学ぶ道徳教育 ～自ら考え、学び合う授業づくり～
-------	---

- 1 主題名 人間の強さや気高さを信じ生きる D- (22) よりよく生きる喜び

- 2 教材名 二人の弟子（出典：私たちの道徳 中学校 文部科学省）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

[illegible]

(2) 生徒の実態（子ども観）

第3学年は、計14名からなる学級である。生徒の大半は、幼稚園から同じ集団の中で生活しており、周囲の人の気持ちを感じ取って行動することができる。しかし、人間関係が固定化しているためか、長所や短所など、幼稚園や小学校からもち続けている互いの印象の中で生活する様子が見られる。

3年生になり、進路や進学など、将来について考える機会が増え、自分自身と向き合う中で、自信がもてず劣等感にさいなまれたり、他人を羨ましく思ったりしたこと
はあるのではないかと推測する。「より良く生きる喜び」については、11月1日の
道徳の時間で伊能忠敬の生き方に触れ、既習している。そのため生徒は、より良く生
きるためには心の弱さに打ち勝ち、克服する必要があるという考えをもっている。し
かし、心の弱さに向き合うということがどのようなことなのかを具体的に想像するこ
とができない生徒が多い。

(3) 教材について（教材観）

本教材には、仏門で修業する二人の若者の対照的な生き方が描かれている。一人は、意志の弱さから修行を投げ出し、人生の苦しみの中で自分の愚かさに悲嘆する道信。もう一人は、厳しい修行に耐え抜いて立派な僧侶に成長したが、突然に舞い戻った旧友を許せない自分の醜さに苦悩する智行。対照的な生き方の二人の弟子が、自分の弱さや醜さに向き合い、それを克服し、人間として気高く生きようとする姿勢が描かれた文章である。

この教材で「人生相談をするならば智行と道信のどちらに相談するか」を考えさせることによって、弱さや醜さが時として人間らしい魅力になり得るということに気づかせたい。自分だけが弱いのではないということに気づき、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという自信をもって、よりよく生きる喜びを見いだす態度を育てたい。

4 本時のねらい

自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという自信をもって、よりよく生きる喜びを見出そうとする心情を育てる。

5 板書計画

「より良い生き方」－ 弱さと向き合うには？－			
理由	智行	道信	理由
・			・
・			・
・			・

より良い生き方とは⇒

6 学習過程

段階	学習内容・活動 (◎中心発問 ●基本発問・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 価値の方向付けを図る。 ● あなたは自分のことが好きですか。 ・好き。毎日楽しく生活しているから。 ・好きな部分も嫌いな部分もある。 ・嫌い。努力することができないから。いいところがないから。自信がないから。	一斉 3	○ 問い返しにより、意見の根拠も明らかにする。 ○ 自分について考えることを通して、より良い生き方について考えさせる。 ○ 特に嫌いな部分の根拠を明確にしておくようにする。 ○ 発言が少ない場合には、くじ引きによって指名する。
展開	2 物語を振り返り、智行、道信、上人の関係や人物について整理する。 智行 ・名家の三男で、幼いころから才覚を発揮。 ・本山での厳しい修行に耐えて立派な僧侶になった。 道信 ・先の戦で孤児となり、上人に育てられた。 ・都で評判の「白拍子」を好きになり、本山での修業を途中で逃げ出した。 上人 ・若い二人の学問への深い情熱を愛し、都の本山へ送り出してくれた。 3 人生相談をするならどちらに相談するかについて話し合う。 ● 人生相談をするなら、智行と道信のどちらに相談しますか。 智行 ・真剣に答えてくれそうだから。 ・真面目なので、正しい答えをくれそうだから。 ・正論を答えてくれそうだから。 ・努力し続けてきた人で、尊敬できるから。 道信 ・挫折や後悔を経験しているから。 ・弱い部分がある人の方が共感できるから。 ・自分の弱さに打ち勝った人だから。	一斉 3 個 5 班 15	○ 朝読書の時間に範読しておく。 ○ 読解にならないように、必要な情報のみを簡潔に振り返らせるようにする。また、資料に書かれている情報については教師から提示する。 ○ 本時では、智行と道信に着目することを伝える。 ○ エリートな智行の真面目さと、波乱万丈な生き方の道信の人間らしさに着目させる。 ○ なぜそのように考えるのか、根拠をもって意見交換をさせる。
開	4 3で話し合ったことを共有する。 5 主題にせまる。 ◎ よりよい生き方とはどのような生き方だと思いますか。 ・自分の弱さと向き合い克服しようと努力すること。 ・自分自身の弱さを乗り越えて、その経験を強みに変えられるような生き方をすること。 ・目標のために、辛いことに対してもひたむきに努力することができる心の強さをもって生きること。	一斉 10 個 10	○ 智行や道信の弱さに着目した意見を取りあげ、弱さと強さは表裏の関係にあることに気づかせる。 ○ 考えたことを発表させ、共有させる。 ○ 既習の内容と照らして、考えの深まりを確認させる。 ※ 自分自身の弱さと向き合い、より良い生き方について深く考えている。 (観察、ワークシート)
終末	6 振り返りを記入する。	個 4	○ 帰りの学活で名前を伏せて感想を紹介する。

3

多様な指導方法に基づいた
授業実践

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

- (1)「事象に対して、生徒一人一人に自分なりの考えをもたせる工夫」について
- 本時で使用した教材の範読を朝読書の時間に行った。そのため、授業内において自分を見つめる「個」の時間をしっかりと確保することができた。
 - 「人生相談をするなら、智行と道信のどちらに相談しますか」という発問に対し、一人一人が意欲的に、そして真剣に考えている様子うかがえた。この発問が自分事としてとらえやすく、考えを出しやすかったからと考える。
 - 「道信」に相談する集団と「智行」に相談する集団に分けて意見交流をさせてから個に戻す方法もあった。互いの意見の根拠を知り、自分の意見をより深めることができたのではないかと考える。
- (2)「他者と考えを共有し、様々な考えに触れる学習活動の工夫」について
- 班での話し合いにおいて、発問に対して、全員が根拠をもって考えを発表し、考えに対する意見交換が活発に行われていた。これまでの授業で積み重ねたことが一人一人に「話し合いの型」として定着していたため、抵抗なく話し合いに臨むことができたと考える。
 - 一人一人が他の生徒の発表を真剣に聞くことにより、多様な見方・考え方に触れることができた。班では「トリオ学習」の座席、全体での交流を重視した全員発表では「円形の座席」、異なる意見交流では「ダブルU字型の座席」と3度学習形態を変えたことにより、話し合いの目的意識が高まり、集中できたことが大きな要因と考える。
 - 教師の意図的な指名によって授業をコーディネートしていく必要があった。
 - 「道信」と「智行」を混ぜてグルーピングしたが、分けて話し合いをさせることで、二人の人物像や生き方に対する考えを自然に深め、それぞれの生き方から自分の生き方のヒントになるものを見つけ出す方法もあったのではないかと考える。
- (3)「生徒一人一人の考えの変容や成長を認識できる場面の設定」について
- 中心発問に関連した基本発問を導入に行ったことにより、2つの発問に対する考えの変容や成長を見取ることができた。発言やノートの記述内容に対する教師の意識づけにより、一人一人に対しても考えの変容や成長を認識させることができた。
 - 授業の最後に各自の振り返りをノートに記入する時間を確保した。その内容を帰りの学級活動を活用して教師が紹介したことで、共有化を図るとともに一人一人の深い学びにつなげることができた。
 - 他者の考えを受けて自分の考えを広げたり深めたりできた生徒もいたが、初めの考えから意見が変容しなかった生徒もいた。心の動きを可視化することの難しさを感じた。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

本校では、B5のワークシートを貼ることができる「道徳ノート」を毎時間使用して道徳科の授業を行っている。このノートを毎時間集めて、授業者が生徒を認め励ますコメントを記入している。継続的なこの取組によって、生徒一人一人が自らの成長を実感し、意欲の向上につながっている。今回の授業は、学年重点項目を取り上げたため、同じ内容項目の授業を数時間前に行っている。中心発問に対する自分の記述内容を、数ページ前のノートを開いて比較したり、参考にしたりしている生徒の姿が見られた。これまでの学習の積み重ねを確認できる「道徳ノート」の活用は、生徒が自己の変容や成長を意識できるという観点でも大変有効である。

今回の授業の内容項目は「よりよく生きる喜び」という難しいものであった。端的な表現で生徒の学習意欲を喚起するような発問を設定したため、生徒は様々な角度から考えた意見を表出することができた。ワークシートに自分と他者の意見を簡単にメモする欄を設けたことにより、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている様子を発言や記載内容からうかがうことができた生徒もいた。

50分授業の8割以上が自分を見つめ考え、意見を交流する時間に充てられていた。振り返りにおいて、前回同じ内容項目で行った授業で深められなかった道徳的価値や自分の考えが変わったことについて記載していた生徒もいて、道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めている生徒の様子が見て取れた。

相馬東高等学校 2 年次 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成 3 0 年 9 月 2 0 日（木）第 5 校時

授業者：相馬東高等学校 教諭 渡部 ゆかり

授業テーマ	資料の人物に自分を投影し、その人物の感情や判断を理解しながら話し合い、多面的・多角的に考えを深める授業
-------	---

1 主題名 法やきまりを守り社会で共に生きる C－(10) 遵法精神、公德心

2 教材名 二通の手紙

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

集団生活において規則やルールが必要であり、守るべきものであることを、ほとんどの生徒が理解している。しかし、なんでもすべて規則通りに行えばすむというものでもない。集団の中では、優しさや思いやりなどの人として忘れてならない人間尊重の精神がなければならない。このような観点に立ち、規則違反を犯した主人公の言動に共感させ、あわせて違反を犯した責任もそこには存在することを理解させたい。この教材を通して、社会の一員としてきまりの意義を正しく理解し、公私の関わり、自他の権利と義務などを考えさせ自立した生活を送れるように道徳的判断力を育てたい。

(2) 生徒の実態（生徒観）

4 月より新しいクラスになり、夏休み前まではクラスに馴染めない生徒もいたが、全体的に落ち着いた雰囲気の中で授業を受けている。ほとんどの生徒が規則を守り、まじめに物事に取り組んでいるが、なかにはバレなければ、人が見ていなければ、といった安易に規則を破る生徒も少数いる。

また、規則を破っているクラスメートに対して積極的に関わり、注意ができる生徒は少ない。規則やルールの意義を十分に理解した上で、規則やルールを守ろうとする意欲を育て、日々の実践に結び付けたい。

(3) 教材について（教材観）

動物園の入園係をしていた元さんが、動物園の規則を知っていながら、幼い姉弟のためにと考えて閉園間際に入園を許してしまう。元さんの行為は母親からは感謝されることになったが、規則を破って入場させ多くの人に迷惑をかけ、その結果懲戒処分を受けることとなった。母から届いた「感謝の手紙」と「懲戒処分」の二通を手にした元さんの姿を通して、法やきまりを守ることの意義について考えさせたい。本資料は心の葛藤を引き起こす内容であり、社会における法やきまりの意義やそれを遵守することの大切さについて深く考えさせたい。

4 本時のねらい

登場人物の心情や判断理由を考える活動を通して、法やきまりの意義を理解し秩序と規律のある社会を実現しようとする態度を育む。

5 板書計画

1、ルールやきまりは 何のためにあるのか？ アンケート結果を掲示 ↓ 規則を守ることとは、どうして大切なのか？ ・安全安心を守るために大切である。	2、自分が元さんだったら どうしますか？ 私は入園 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>させる</td> <td>させない</td> </tr> <tr> <td style="height: 100px; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="height: 100px; vertical-align: middle;">理由</td> </tr> </table>	させる	させない	理由	理由	3、佐々木さんの 立場に立って考える ・一番大きな思いやりは規則を守ることによって相手の安全を守ることだ。 ・ ・ ・
させる	させない					
理由	理由					

6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 規則を守ることは、どうして大切な のかを考える。 ○ 規則を守ることはどうして大切な のかを考えましょう。	5	○ アンケート結果を活用し、本時の内 容へ関心を持たせるとともに、本時 の内容にかかわる自分の経験につい て想起できるようにする。 ○ 活動目標を知らせる。
展開	2 「二通の手紙」を読み、考え話し合 う。 (1) 元さんの判断について考え自分の 意見をワークシートにまとめ、ク ラストークする。 ○ もしあなたが元さんと同じ立場 だったらどうしますか。その理 由も考えましょう。 ＜させる＞ ・ 姉弟の気持ちを大切にしたい ＜させない＞ ・ きまりは守るべき	10	○ p142.4行目までを読ませる。 ○ 「入園させる」と「させない」の両 方の意見について、判断の理由付け をさせながら考えさせることで、葛 藤した元さんの気持ちに共感させる。
	(2) 佐々木さんの気持ちを考えワーク シートに理由も付けて記入する。 ○ 元さんの「解雇処分」に納得が いかなかった佐々木さんの気持 ちがどのくらい分かりますか。	10	○ p144.6行目までを読ませる。 ○ 共感度スケールを用いて、佐々木さ んの気持ちへの共感の度合いを可視 化させる。考えの差異を手掛かりに 話し合いをさせる。
	(3) 佐々木さんの立場に立って考え、 自分の意見をまとめ、グループワ ークをし、クラストークをする。 ◎ あなたが佐々木さんの立場に立 って、山田さんに言いたいこと を記入しましょう。 ・ 一番の大きな思いやりは規則を 守ることによって相手の安全を 守ることだ。	15	○ 最後まで読ませる。 ○ 二通の手紙から元さんが気づいたこ とや元さんの姿から佐々木さんが気 づいたこととは何かを手掛かりに、 規則を守ることを自律的に捉えられ るようにする。 ※ 規則は自分を守るだけでなく、社会 の安定に帰依していることに気づく ことができたか。（発表態度）
終末	3 規則を守ることの大切さを確認しワ ークシートに記入する。 ○ 規則を守ることはどうして大切な のか、あなたの考えをまとめまし ょう。 ・ みんなの安全安心を守るために大 切である。 ○ 今日の感想を記入しましょう。	10	○ 数名に考えを発表させることで、規 則を守ることにについてより考えが深 まるように配慮する。 ※ 規則の意義を理解し、秩序と規律の ある社会の実現を目指し、規則を守 ることの大切さを深く考えることが できたか。（ワークシート）

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

- (1)「自己肯定感を高めるために、道德教育推進校視察や研究授業を生かした授業等を展開する」について
- 推進校視察訪問において参観した福島大学附属中学校や茨城県立石岡第二高等学校の授業を参考とし、板書やワークシートを工夫することで教師の発問や自分自身について真剣に考える生徒の姿が多く見られた。
 - 「規則はなぜ大切か」ということに対して、自分自身のこれまでや、教材の登場人物について考えることを通して、自分の生活を見直す機会とすることができた。
 - 場面を追ってすべての登場人物について考えてしまったため、ねらいとしていた内容が深まらなかった。中心発問を絞るなどして自分自身を見つめ、考えを深める時間を多くとるようにしたい。
- (2)「他者との関わりについて考えを深められるよう、コミュニケーションをとる場面を多く設けた教育活動を展開する」について
- グループ活動やクラス全体での意見発表の場を設けることで、自分とは異なる意見に耳を傾け、理解しようという姿が見られた。
 - 他者の意見を聞くことで自分だけの考えだけでは得られなかった視点で物事を考えようとする生徒がいた。
 - グループの班分けについて意見が異なる者がバランス良く配置できるよう考慮したが、コミュニケーションに苦手意識を持つ生徒同士になってしまった班もあったため、工夫が必要であった。ただし、そのような班には教師の働きかけによって意見交換が活発になることもあったので、次の機会に生かしたい。
- (3)「地域からの協力を得た道德的実践を行い、実践の結果を家庭に発信する」について
- 規範意識の向上は、本校の道德教育全体計画にもあるとおり地域の方々や保護者が本校生徒に望む姿の一つである。高校生活の大きなイベントの一つである修学旅行の前に今回の授業を行うことで、高校二年生という発達段階に望ましい規範意識を再確認したり、高めたりする機会になったと思われる。
 - 校内研修の意味合いが強く、地域の方々や保護者に授業の案内をしなかった。学校で行っている授業公開の時期に合わせるなどして校外の方々にも参観していただく段取りをすればよかった。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- ワークシートの中に心情スケーリングを用いることで、授業を通しての心情変化を視覚的に読み取る工夫をした。大きく変わる生徒は多くはなかったが、「なぜそう思うのか」という理由においては他者との意見交換をする前と後とでは考えが広がったと見て取れる生徒が複数いた。

大島小学校第5学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成30年11月2日（金）第5校時
授業者：郡山市立大島小学校 教諭 宗形洋子

授業テーマ	心情メーターを活用したり、気持ちの変化を話し合ったりする活動を通して、感謝することの意味を考え、これまでの自分を見つめ直すことができる授業
-------	---

1 主題名 支え合いや助け合いに感謝して B－（8）感謝

2 教材名 ひまわり（出典：ふくしま道徳教育資料集第Ⅲ集）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、自分の日々の生活には多くの人々の支えがあることに気付き、広く人々に尊敬と感謝の念をもつことに関するものである。第5学年及び第6学年の段階では、感謝する対象が人だけではなく、多くの人々の支え合いや助け合いで成立している日々の生活そのものと、さらに、そのような状況の中で自分が生きていることについての感謝にまで、広げることが求められる。

(2) 児童の実態（子ども観）

子どもたちは、4月に学級編制はあったが、以前に同じクラスになったことがある顔見知りの友達が多いことや運動会や宿泊学習などの行事に協力して取り組むことを通して、仲良く助け合いながら成長している。しかし、気心が知れているという気持ちから甘えなどもでてきており、友達に支えてもらうのが当たり前になっている様子が見られる。また、「感謝する」ことの意味や意義を深く考えていないため、相手の思いに応えようとする姿勢がまだ育っていない。

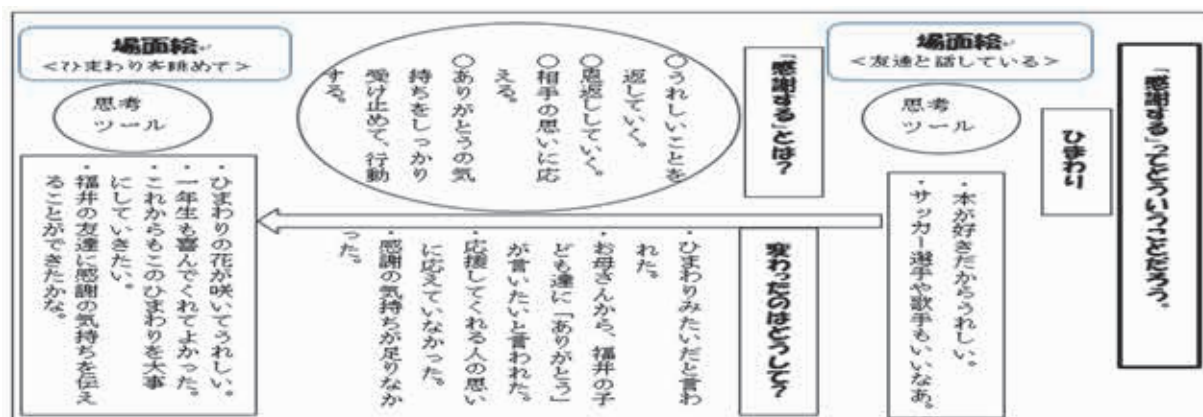
(3) 教材について（教材観）

本資料の主人公は、救援物資に交じって送られてくる本を喜んでいるものの、自分を支援してくれる人々の思いにまで気付いていなかった。しかし「ひまわり」の歌に込められた思いにふれ、母の言葉を聞くことで、感謝の気持ちをもって、自分にできることを考えるようになっていく。主人公の心情の変化を共感的に捉えさせることで、自分の生活を支えてくれる多くの人々の思いに目を向けさせ、支えてくれる人々の思いに応えていくために自分にできることは何かを考えるきっかけとしたい。

4 本時のねらい

支援をする人々の思いにふれ変化していく主人公の心情について考える活動を通して、自分の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えようとする心情を育む。

5 板書計画



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 誰かにしてもらって嬉しかったことについて発表する。 - 合奏の大会の時、「がんばって。」と言われた。 - 教科書を見せてくれた。 - 係の仕事を手伝ってくれた。 2 学習課題を知る。 「感謝する」って、どういうことだろう。	4	○ 日常生活における場面を想起させ、本時のねらいとする価値への方向付けをする。 ○ 東日本大震災に関わる資料のため、震災当時の様子について事前に調べさせておくようにする。
展開	3 教材「ひまわり」を聞き、感謝について話し合う。 (1) 本をもらった時と大輪のひまわりを眺めている時のぼくの思いについて考える。 【本をもらった時】 - 本もうれしい。でも、サッカー選手も来て欲しいなあ。 - 歌手が来て、歌のプレゼントもいいなあ。 【ひまわりを眺めている時】 - ひまわりの花を咲かせることができてうれしい。 - 感謝の気持ちを伝えることができたかな。 (2) 感謝の気持ちが変わった理由を考える。 ◎ 感謝の気持ちが変わったのは、どうしてか。 - お母さんに、ぼくはひまわりみたいだと言われたから。 - 応援してくれる人の思いに応えていなかった。 - 感謝の気持ちが足りなかった。 (3) 「感謝する」ってどういうことかを考える。 - うれしいことを返していく。 - 相手の思いに応える。	8 13 10	○ 教材文をより把握させるために、読んでいる際に、「ひまわり」の歌を実際に聴かせるようにする。 ○ 対話的な学びができるように場の設定をする。 ○ 2つの場面の主人公の思いの変化を捉えさせるために、思考ツールを活用し、子どもの考えを可視化し、黒板に掲示する。 ○ 自分の考えを持てるように、自分の考えをノートに書かせるようにする。 ○ 主人公とお母さんとの会話から送ってくれた人の思いに気付かせる。 ※ 話合いや書く活動を通して、主人公の変容を考え、多くの人の支えがあることに気付くことができたか。(発表・ノート) ○ 「感謝する」ことの意義について考えさせ、実践意欲へとつなげていくようにする。
終末	4 学習のまとめをする。 (1) 本時の振り返りを書き、自分のこととして考える。 (2) 地域の方からいただいた手紙を読む。	10	○ 「自分の生活を支えてくれている人に対し、どんな気持ちで接していきたいか」という視点を入れ、振り返りを書かせ、自己を見つめさせるようにする。 ※ 人々の支え合いや助け合いで生活が成り立っていることに気付き、感謝することができたか。(ノート)

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

- (1) 「身近に起こった福島のことに関心を持って考えられる教材提示の工夫」について
- 実際にあった出来事として捉えさせるために、福井県の小学校から送られてきた「ひまわり」の曲を範読の中で聴かせた。教材文を理解する上でもDVDの活用は効果的であった。
 - 主人公の心情の変化を捉えやすくするために、「本をもらった時」と「ひまわりを眺めている時」の二つの場面对比させた。救援物資に感謝しながらも他の支援に心動かされる主人公の心情を考えながら、支援をする人々の思いに気づき、その思いに応えた主人公の心情を共感的に捉えることができた。
 - DVDの視聴と資料の範読に時間がかかってしまい価値に迫る話合いや振り返りの時間が足りなくなってしまう。朝の時間を活用し、事前に読ませる工夫をすればよかった。
- (2) 「自分事として道德的価値を考え、表出することができる話合いの工夫」について
- 「救援物資として送られてくる本に対する主人公の感謝の思い」と「大輪に咲くひまわりの花をながめている主人公の感謝の思い」を心情メーターで表現させた。どうしてそのように考えたのかの話合いでは、主人公の感謝の思いをメーターで可視化したことにより、自分の事のように主人公の心情を捉えて発表することができた。
 - 二つの思考ツールが表した感謝の気持ちの変化について、主人公の思いがどうして変わったのかをノートに書かせた。自分の考えをノートにまとめたことにより、自信をもって発表する子どもの姿が見られた。
 - 時間が足りなかったため、「感謝する」ことについての話合いを活性化させることができなかった。
- (3) 「学習した内容が実感できる振り返りの工夫」について
- 振り返りでは、「今までの自分を振り返りながら、自分の生活を支えてくれている人に対してどんな気持ちで接していきたいか。」という視点を入れたことにより、今までの自分とこれからの自分を比較しながら見つめさせることができた。
 - 終末では、ボランティアの方からいただいた手紙を読み聞かせることにより、学校の昇降口等に花を生けてくださる方の思いに改めて気付くことができた。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

一人一人の子どもたちにどう変わって欲しいのかによって、見取る場所は異なってくる。本授業の展開の「主人公の変容を考え、多くの人の支えがあることに気付くことができたか」では、児童の発言やノートに書かれた内容、少人数で話し合っているときの様子などを見取ることが大切だと感じた。

終末の「人々の支え合いや助け合いで生活が成り立っていることに感謝することができたか。」を評価するために「今までの自分を振り返ることができたか」「この学習で何を学んだのか」「これからの自分はどうするのか」「多面的・多角的に考えられたか」等の視点を設け、ノートや発言内容から子どもたちのよさを認められるようにした。自分の成長を実感させ、意欲の向上につながるものにしていけるように、励ます評価の工夫をしていきたい。

吉子川小学校第6学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：平成30年11月19日（月）第5校時

授業者：中島村立吉子川小学校 教諭 久保木壮平

授業テーマ	東日本大震災当時の困難な状況の中でも畜産を続けた農家の思いや「働く」ことの意義について考えて話し合い、「働く」ことに対する現在や将来の自分を見つめることのできる授業
-------	--

1 主題名 主として集団や社会との関わりに関すること C—(14) 勤労、公共の精神

2 教材名 までの牛（出典：福島県道徳教育資料集第Ⅰ集）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本主題の内容は、仕事に対して誇りや喜びをもち、働くことや社会に奉仕することの充実感を通して、働くことの意義を自覚し、進んで公共のために役立つことに関する内容項目である。生きていくには、自分の仕事に誇りと喜びを見だし、生きがいとやりがいをもって仕事をするのが大切である。働くことは、日々の糧を得て自立し自分の生活を維持向上することと、社会的責任を果たして公共の役に立つ喜びを感じるものの両面から成り立つ。働くことの価値を理解し、現在の自分が学んでいることとのつながりで捉えることは、将来の社会的自立に向けて職業観や勤労観を育む上で重要なことである。

（2）児童の実態（子ども観）

本学級は、22名の学級である。アンケートによると、東日本大震災から復旧に向かうまでの期間や震災自体にははっきりとした記憶をもつ児童は少ない。また、原発事故による被害や避難についての知識は浅い。震災の教訓を風化させないためにも、被災した福島県で生活し、わずかながら震災の記憶をもつこの世代の児童に対して、ふくしま道徳教育資料集を扱った授業を行う意義は大きい。また、日々の生活において、委員会活動や学級での当番、係、日直等に加え、登校班や縦割り班清掃、学校行事での最高学年としての役割など、様々な場面で責任を果たそうとする姿が見られる。しかし、その一方で、やりがいや喜びを感じながら仕事に取り組んでいる児童は少ない。キャリア教育を行う中では、将来の職業や社会人になった自分をイメージできない児童が多いことを感じる。

（3）教材について（教材観）

本資料は、東日本大震災により避難を余儀なくされた畜産農家の小林さんが、慣れ親しんだ飯舘村を離れて千葉県山武市に牛と共に避難し、愛情をこめて育てていく姿を描いている。飯舘村から避難した畜産農家のうち現在も畜産を続けている農家は3%に過ぎず、かなり困難な状況の中で仕事を続けてきたことが窺える。そんな中でも、使命感をもって自分の役割を果たし、仕事にやりがいを感じながら社会に貢献する小林さんの姿が心に残る資料である。飯舘村は、緊急避難を要した原発20km圏内の警戒区域とは異なり、原発事故から1か月以上経った4月22日に国から計画的避難区域に指定されたことを受け、全村避難に向けて動き出した。その後2か月ほど経った6月16日に牛の移動を始めるまでの期間、風評被害の中で畜産を続けることや新しい環境での生活への不安、牛の命を守ることや家族を養うこと、畜産のプロになるという夢、人や社会に自分の仕事求められることのやりがいなど、様々な思いの中で迷い、決断した小林さんの心情に迫り、「働く」ということはどういうことかを考えさせたい

4 本時のねらい

課題解決のために話し合い、自己を見つめる活動を通して、困難な状況にあっても自分の役割を果たし、社会のために奉仕しようとする態度を養う。

5 板書計画

仕事		までの牛…ゆっくり、丁寧に		自分
11月5日キャリア教育ワークショップでの児童の感想から抜粋したもの	ホワイトボード（児童の意見）①	②	生活するため お金をかせいで家族を養うため	・ボランティア清掃 →学校のために積極的に
人は、なぜ働くのだろう。	③	④	やりたいこと、好きなことだから その仕事で成功するため	・放送委員 →全校生のために明るく
牛を飼育する小林さんの写真	⑤	⑥	誰かの役に立ちたいから 役割や責任を果たすため	・あやめ発表会の係 →役割を果たした
飯舘村と山武市の位置（地図）			人、なぜ働くのだろう	・医者 →命を救って役に立ちたい
小林さんの牛舎の写真			世の中の役に立ちたいから	・美容師 →お客さんを笑顔に
原発事故に関する写真			夢を実現するため もっとたくさんの牛を育てたい。	
			人にも求められるうれしいから おいしいって言ってもらいたいから	
			生活を楽しむため	

6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される反応)	時間	○指導上の留意点 評価
導入	1 ねらいとする価値に興味をもつ。 (1) キャリア教育での学習を振り返る。 人は、なぜ働くのだろう。 (2) 資料に関する写真や地図を見る。	3	○事前に学習したキャリア教育での児童の感想を用いることにより、働くことに対するイメージを想起させる。 ○本時の資料に関することや「働く」ということを視覚的に捉えられるようにする。
展開	2 「までいの牛」を読んで考え、話し合う。 (1) 教師の範読を聴き、小林さんの状況を把握する。 (2) 様々な困難の中でも畜産を続ける決断をした小林さんの気持ちを考え、話し合う。 ◎小林さんが、畜産という仕事をあきらめずに続けたのは、なぜだろう。 ・生活するためのお金が必要だったから。 ・育ててきた牛の命が大切だったから。 ・飯舘牛ブランドを復活させたいから。 ・風評被害に負けたくなかったから。 ・夢をあきらめたくなかったから。 ・誰かの役に立ちたかったから。 ・プロとしてのプライドがあったから。 ・おいしい牛肉をたくさんの人に食べてもらいたいという思いがあったから。 ・やりがいのある仕事だから。 (3) 小林さんの生き方について考え、働くことの意義を考える。 ○人は、なぜ働くのだろう。 ・お金をかせいで自分で自分の生活をするため。 ・夢を実現するため。 ・自分の役割や責任を果たすため。 ・自分の生活を楽しくするため。 ・誇りや喜びをもって生きるため。 ・やりがいや生きがいをもって生きるため。 ・人に喜んでもらうため。 ・人や世の中の役に立つため。	30 (5) (15) (10)	○範読後、パワーポイントを活用し、飯舘村の全村避難や、放射性物質による風評被害、当時の小林さんの困難な状況を確認する。 ○原発事故後も続いている飯舘村の畜産農家が極めて少ないことを伝え、その状況の中で畜産を続けることの難しさを伝える。 ○多面的・多角的に考えを深められるよう、グループで話し合わせ、出た意見をホワイトボードに書かせる。 ○仕事に対する小林さんの思いに迫って考えられるよう、なぜそう思ったのかをお互いに問いながら話し合いを進められるよう助言する。 ○グループで話し合った内容を全体で共有する際、キーワードに着目させたり、児童がもつ職業観に触れながら問い返したりし、考えを深めさせていく。 ○意見を書いたカードを、友だちと相談しながら黒板に貼る活動を通して、多様な考えを出し合い、友だちと自分の考えを比較できるようにする。 ○いくつかの視点で整理して捉えられるよう、意図的に指名した数名には貼る位置を伝える。他の児童には、意見が似ている友だちの近くに貼るよう助言する。 ○児童が友だちの意見を多面的に捉えて価値に迫ることができるよう、挙手した児童や意図的に指名した児童に発表させながら話し合いを進める。
	3 自己を見つめる。 ○自分が「働く」ということについて考えよう。 ・朝のボランティア清掃に取り組んで、ろうかがきれいになったので、これからも学校のために積極的に働きたい。 ・学習発表会のステージ係という自分の役割をやりとげて、会が成功した時はうれしかった。 ・努力をして将来医者になることができたなら、一人でも多くの命を救って役に立ちたい。	10	○これまでの他教科や特別活動、学校行事、キャリア教育、日頃の生活等での「働く」ことに関する写真をパワーポイントで提示して振り返ることで、自分の実生活や将来と関連づけながら考えさせる。 ○全体で発表させることで、互いに考えを深められるようにする。 「勤労、公共の精神」について、自分との関わりで捉え、考えを深めることができたか。(ワークシート、発表)
終末	4 本時を振り返る。 ・思いや考えをまとめる。	2	○授業開始時の自分と比べ、授業を通して感じたことや考えが深まったことについて、ワークシートに考えを書くよう助言する。

7 考察

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

(1)「育てたい道德性を明確にする工夫」について

- 震災当時の被災した事実について知識の浅い本学級の児童にとって、震災の教訓を風化させないためにも本資料を扱う意義が大きかった。また、同じ福島県で生活し働いていた畜産農家の小林さんの生き方について学習することで、福島県の現実と「勤労、公共の精神」を関連づけながら考えを深めることができた。
- 「働く」ことについて、本時の授業だけで考えさせるのではなく、道德や他教科、総合的な学習の時間、特別活動、学校行事等と関連させて単元を構成した。また、学習の成果を児童自身の文章や写真に残して蓄積した。授業の導入では、事前のキャリア教育で学習した後の児童の感想から言葉を抜粋して提示したことにより、「働く」ことに対するイメージを捉えさせることができた。
- 震災当時の状況が分かるような写真や映像、プレゼンテーションソフトを用いたり、取材から分かった小林さんの思いに触れたりすることで、困難な状況の中でも自分の仕事にこだわり続けた小林さんの思いに迫ることができた。
- 「公共のために役に立つ喜び」が「自分の仕事に対する喜び」につなげられるような話し合いの深め方、意見の交流が必要だった。
- 小林さんは仲間の支えがあって畜産を続けられたということに着目させ、人と関わり合い、支え合いながら仕事をしていくことの喜びについても考えさせる必要があった。
- 資料の範読を終え、小林さんがなぜ畜産にこだわったのかを考えさせた際、「勤労、公共の精神」に関わる言葉ではなく、大半の児童が「生命の尊さ」や「家庭生活の充実」、「希望と勇気、努力と強い意志」に関わる言葉を書いていた。導入段階や範読に至るまでに、「働く」ことに重点を置き、価値に迫るような工夫がさらに必要だった。

(2)「課題解決のために多面的・多角的に考えさせる工夫」について

- 小林さんが困難な状況の中で畜産を続けた理由やその思いを考えさせ、グループでの話し合いをワールドカフェ方式で行った。その際、メンバーの入れ替えを2回繰り返し、残った一人が前回の話し合いの説明をしてから話し合わせたことにより、友だちの様々な意見に触れることができた。
- 全体で共有する際、各グループから発表された考えに対して、「なぜそう思ったのか」「小林さんのどういう気持ちに着目してそう思ったのか」を子どもたちがお互いに問い返せるような工夫があると、さらに深めることができたと考えられる。
- 「人は、なぜ働くのだろう。」という発問に対して考えたことを、カードに書いて黒板に貼る活動を取り入れた。その際、自分と似た考えのカードの近くに貼るようにさせたことで、友だちの考えと自分の考えを比較したり、多様な考えがあるということに気付かせたりすることができた。
- カードに書いた内容について数名に発表させたが、働くことの意義を「自分の仕事に対する喜び」と「公共のために役に立つ喜び」という両面から考えさせることや、自分と違った視点に対して考えを深めさせる教師の問い返しが必要だった。



(3)「自己を見つめさせる指導の工夫」について

- 働くことに対してどのような考えをもったか、働くことに対してこれまで自分はどうか、これからの自分はどうかを考えた。プレゼンテーションソフトによるスライドショーを用いて子どもたち自身が仕事をしている写真やキャリア教育での講師の先生方の写真、学習発表会で未来の自分達を演じている写真など、計40枚程度の写真を見せてから考えさせたことで、「働くこと」と「現在の自分」を関連づけることができた。
- 現在の学校生活での仕事だけでなく、社会人になった将来のことにも考えを広げることのできた児童は少なかった。働くことの意義を、現在だけでなく将来の自分も含めて見つめ、考えられるような発問の仕方を工夫する必要があった。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- 毎時間道德ノートを活用（本時ではワークシートをノートに貼付）し、自分の考えや話し合ったこと、自分を見つめて考えを深めたことを書かせている。考えを認め、励ますようなコメントを記入し、教室にノートのコピーを掲示することで、児童の道德に対する関心や意欲が少しずつ高まってきている。
- 授業の中で、一人一人の考えを認め、助言したり励ましたりしながら、価値に迫る働きかけをしていくことが課題である。

江名小学校第5学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成30年10月16日（火）5校時

授業者：いわき市立江名小学校 教諭 吉田弘樹

授業テーマ	道徳的価値を基に、自己の生き方について考えを深める指導のあり方 ～自ら「考え」「学び」「活かす」子どもの育成～
-------	--

1 主題名 ふるさとのよさ C－(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

2 教材名 アイナふくしま（出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅲ集）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

国を愛する心のもとになるものは、自分が生活している「ふるさと」郷土を愛する心である。高学年では、受け継がれている我が国の伝統や文化を尊重し、先人の努力を知ること、更に発展させていこうとする態度を育てることが大切である。郷土の伝統と文化は、地域ごとに独自なものを生み出し、郷土の誇りとなってきた。親から子へ、そして孫へと受け継がれていく大切なものとは、伝統と文化と共に、それらを支える郷土への愛や誇りであることを理解できるようにしていくことが大切である。

(2) 児童の実態（子ども観）

本学級の児童は、総合的な学習の時間を通して、地域の伝統文化にはどのようなものがあるか調べてきた。また、本教材で取り扱う江名に伝わる三匹獅子舞について、三、四年生の時に保存会の方からお話を伺ったり、体験したりすることで理解を深めてきた。しかし、他学年の児童数名が三匹獅子舞の練習に参加し、本祭りで踊りを披露している一方、本学級の児童でそれを行っている者は一人もいない。

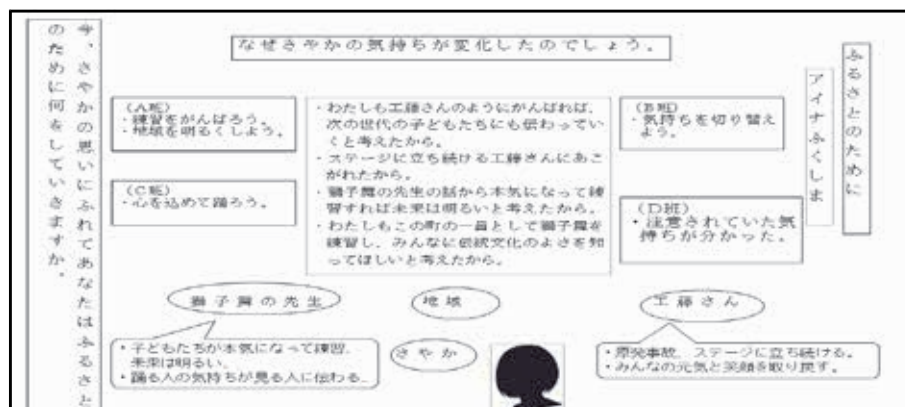
(3) 教材について（教材観）

地区の三匹獅子舞の練習に取り組み始めた主人公が、練習の大変さからやる気を失いかける。そんな時、以前学校でフラダンスを教えてくれたダンサーが、震災直後からどんな思いでステージに立っていたのか、また、現在も「アイナふくしま」を踊ることを通して「ふるさとに元気と笑顔を取り戻したい」という願いを客席に届け続けていることに気付く。主人公は、このフラダンサーの行動と地域に活気を取り戻すために三匹獅子舞を復活させた獅子舞の先生の願いとを重ね合わせながら、「今度は自分が元気を伝えたい」という思いを強めていくという話である。また、本教材は江名の三匹獅子舞をモデルに作成されており、ふるさとを大切にしようとする心情を育む上で最適な教材である。

4 本時のねらい

地域の伝統文化を継承しようとする主人公の気持ちを考える活動を通して、郷土に伝わる伝統と文化を大切にしようとする心情を育む。

5 板書計画



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 本時の課題を確認する。 ○ふるさとではこれるものは？ ○ふるさとのために何かしてきたことはありますか。 ふるさとのために	5分	○事前に学習したことを想起しねらいとする価値への方向付けを行う。 ○児童の変容を捉えるため、初めの考えを道徳ノートに書かせておく。 ○切り返しの発問をすることで自分ごととして考えさせる。
展開	2 教材「アイナふくしま」を読んで、話し合う。 (1) 変化する前の「さやか」の気持ちを考える。 ○新聞記事を読む前の「さやか」はどんな気持ちだったでしょう。 ・参加しなければよかった。 ・練習が大変だな。 (2) 変化した後の「さやか」の気持ちを考える。 ○本祭りがあと10日にせまったさやかは、どんな気持ちだったでしょう。 ・練習をがんばろう。 ・地域を明るくしよう。 ・心をこめて踊ろう。 (3) なぜ「さやか」の気持ちが変わったのかを考える。 ◎なぜ「さやか」の気持ちが変わったのでしょうか。 ・私も「工藤さん」のようにがんばれば、次の世代の子どもたちにも伝わっていくと考えたから。 ・ステージに立ち続ける「工藤さん」にあこがれたから。 ・獅子舞の先生の話から本気になって練習すれば未来は明るいと考えたから。 3 自分のことをふり返る。 ○今「さやか」の思いに触れて、あなたはふるさとのために何ができますか。 ・三匹獅子舞をやってみたい。 ・三匹獅子舞の練習の話を聞いてみたい。 ・江名の伝統や文化をもっと調べたい。	35分	○資料を読む前に「さやか」の影絵を提示し、児童が目的意識を持って読めるようにする。 ○「さやか」の表情を影絵から想像することで、「さやか」の気持ちを考えさせるようにする。 ○グループで話し合うことで、全体で考えを出すことのできない児童にも考えを出させるようにする。 ○あらかじめ小グループの中で多様な考えを出させ、それをもとに全体で話し合わせる。物事を多面的・多角的にとらえ、「さやか」の取り組んでいる活動が自分だけのためではなく、地域の人たちのためであることに気付かせるようにする。 ※主人公の「郷土のために自分が今できることに向き合い、力を尽くしていこう」とする心情について気付くことができたか。 (ノート、発表) ○変容と学びの深まりを的確に捉えるため、道徳ノートを活用する。 ※郷土に誇りをもち、ふるさとを大切にしようとする意欲へとつながることができたか。(ノート、発表)
終末	4 本時の学習をふり返る。 ○ゲストティーチャーの話を聞く。	5分	○ゲストティーチャーの話を聞くことで、伝統文化を尊重しようとする心情を高める。

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

(1) 『ふくしま道德教育資料集』の継続的な活用について

- 本校では、「ふくしま道德教育資料集」の活用を、各学年1単位時間、教育課程に位置づけている。資料の内容の多くが震災に関連していることから、ほとんどの学年で3月に実施する予定である。そのため「ふくしま道德教育資料集」を活用しての授業は、本授業が今年度最初であった。研究授業を通して、資料集をどのように活用して授業を行えばよいか、全職員が共通理解を深めることができた。
- 今回の授業では、教科書にある同じ内容項目の教材と差し替えて、本資料を活用した。教科書教材との関連や、資料活用とのバランスをどのようにはかるかが検討課題となった。

(2) 道德科以外での活用について

- 本校では、資料を各学級に配当し、児童が読みたいときに手にとって読める環境を整えてきた。5学年では、今回の授業後に、資料集のその他の読み物資料についても、読書の時間などに手をとって読んでいる姿が見られた。このような姿が全学年に広がっていくことが今後期待される。
- 今回の授業は、総合的な学習の時間での地域学習のまとめとも関連していた。「アイナふくしま」は、地域学習の資料としても大変有意義なものであった。

(3) その他

- 今回、教材のモデルとなった地元の神社の方をゲストティーチャーに迎えて、終末で説話をさせていただいた。児童はより自分事として真剣に話を聞くことができた。
- 地元資料ではない他の資料についても、児童がいかに身近なものとして受け入れ、自己の生き方について考えるような授業を行えるかが今後の課題である。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

授業展開中盤で「さやかの気持ちが変わった理由」について、道德ノートには、

- ① きっかけとなった事実があったから（新聞を見る、父に教えてもらうなど）
 - ② がんばっている登場人物（工藤さん）に主人公（さやか）が励まされたから
 - ③ 登場人物がどのように考えてがんばっているかを主人公が共感したから
 - ④ 主人公が登場人物のがんばりを自分のことに置き換えてがんばろうと思ったから
- などの記述がみられた。

主人公の心情により深く自我関与させるため、①⇒②⇒③⇒④のような見方となるよう段階に応じて働きかけを行った。意図していた『「次の世代に伝える」ことの大切さに気付いたから』などの記述や別の登場人物（獅子舞の先生）の考えについての記述がなかったため、それらの視点も与え、多様な意見に触れさせることで、多面的・多角的な考えへと促した。児童の気づきを形成的評価としてとらえ、授業に反映させることができた。

授業展開後半で、「ふるさとのために何ができるか」という発問については、「獅子舞」「伝統行事への参加」「伝統文化を受け継ぎたい」「伝統文化をつないでいきたい」などの記述を見ることができた。

福島第四中学校第3学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成30年11月2日（金） 第5校時
授業者：福島市立福島第四中学校 教諭 二瓶 勉

授業のテーマ	震災を経験した主人公の心情に、自分の過去の体験や教育講演会で学んだことを重ね合わせて考えることで、学校や集団のためによりよく生きようとする心情を育てる授業
--------	---

1 主題名 よりよい校風をつくる C-（15） よりよい学校生活、集団生活の充実

2 教材名 「いま新しき力あふれて」
（出典：『ふくしま道徳教育資料集 第I集』 福島県教育委員会）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

生徒の生活の場である学校はそれぞれ一様ではなく独自の校風がある。これは一朝一夕に築かれたものではなく、これまでの先輩や保護者、地域の人々の長年にわたる努力によって培われたものである。これを後輩たちが協力し合って継承し、さらに発展させよりよい校風づくりをしていくことが学校には求められる。人が、それぞれの集団の一員としてよりよく生きていくためには、自分の属する集団の意義や目指す目標を十分に理解し、自分の役割と責任を果たし集団生活の充実に努めることが大切である。

（2）生徒の実態（生徒観）

男子15名、女子18名、合計33名の学級である。明るく素直で学習意欲も高い学級であり、男女の仲もよいが、道徳の授業ではあまり積極的に自分の意見を言えない生徒が多い。道徳アンケートからは、「礼儀」、「友情・信頼」、「学校生活・集団生活の充実」などの価値についての意識が高く、福島四中の伝統や集団生活をよりよくしようという思いが強いこともわかる。一方、「愛国心」「郷土愛」「社会参画」などの価値についての意識が低いという実態もある。また、この学年の生徒は、東日本大震災当時小学校1年生であり、住んでいた地域や家庭環境等の違いはあっても、その災害の体験やその後の生活に対する記憶は残っているはずである。震災の記憶をもつ境界の世代としての役割にも触れたい。

また、この学年の生徒は、東日本大震災当時小学校1年生であり、住んでいた地域や家庭環境等の違いはあっても、その災害の体験やその後の生活に対する記憶は残っているはずである。震災の記憶をもつ境界の世代としての役割にも触れたい。

（3）教材について（教材観）

本教材は、東日本大震災を経験した中学2年生の作文を中心にまとめたものである。地震による校舎倒壊、原発事故等による困難で制限された生活の中から、「命」は「時間」であることを知り、前向きに生きることの大切さ、学校や地域コミュニティの存在意義、そして生きる意義について考えさせることのできる資料である。

4 本時のねらい

東日本大震災により、学校が直面した困難な状況を乗り越えようとする主人公の思いについて考えを深める活動を通して、学校や自分の所属する集団に対する愛着や誇りをもち、よりよい校風や集団づくりに努めていこうとする心情を育てる。

5 板書計画

『いま新しき力あふれて』 ～よりよい校風をつくる～			
○「僕」にとって、日野原先生の言葉にはどんな意味があったのか。		◎あなたにとっての「四中魂」とは何か。	

日野原先生の言葉

命とは

寿命とは

6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 四中のよさについて発表する。 ・学校が落ち着いている ・仲が良い ・あいさつ日本一 ・無言清掃	5	○ 本時のねらいとする価値につながるように、四中生が大切にしていること、よさや特徴について、簡潔に確認し、生徒の意識を高める。
展開	2 資料の範読を聞く。	5	○ 臨場感や医師の言葉の重みを感じさせるため、教師が範読する。
	3 日野原医師の言葉を振り返る。 ・命とは、 <u>与えられた時間</u> のこと ・寿命とは、 <u>使える時間</u> のこと ・生きるとは、与えられた時間をどう使うか考えること	5	○ 医師の言葉の意味や想いのこもった言葉の大切さを感じさせるために、模造紙で提示する。
	4 資料について、自分の考えをまとめる。 ○ 「僕」にとって、日野原先生の言葉にはどんな意味があったのだろうか。 ・命の大切さを考えさせてくれた ・本当の幸せについて考えさせてくれた ・学校のために自分に今できることをしようという気持ちにさせてくれた ・生きる希望をもらった	7	○ 日野原医師の言葉が主人公に与えた意味を考えさせることで、本時のねらいに深く迫るためのきっかけとする。
	5 教育講演会のDVDを視聴し、講師から聴いた言葉を振り返り、考える。 ・「こんなとくのために学んできた」 ・「街は壊れても学んだことは壊れない」 ○ 教育講演会の講師の言葉から、どんなことを感じ、どんなことを学びましたか。 ・こんな言葉が言える人になりたい ・なぜ学習するか分かった ・日々の努力が大切だと思った	5	○ 教育講演会のDVDを視聴させ、「僕」の気付きと自分の体験を重ね合わせることで、自分のこととして考えることができるようにする。 ○ 体験から得た思いを想起し易くするために、講演会後に書いた感想を提示する。
終末	6 今までの自分を振り返る。 ◎ あなたにとっての「四中魂」とは何ですか。 ・四中の仲間 ・校舎やさかみちなど全ての環境 ・たくさんの思い出 ・部活動 ・かしのは祭などの行事	13	○ 3～4人の道徳班で自由に互いの考えを述べ合うことで多様な考えに触れ、生徒一人一人の考えを深めることができるようにする。 ※ 学校や身近な集団に対する愛着や誇り、よりよい校風や集団づくりについて、自分の考えと友達の考えを比べて考えている。 (ワークシート、発表)
	7 今日の授業を振り返り、自己を見つめる。 ○ これからの自分にどんな言葉をかけたいですか。 ・残りの学校生活を大切にするんだよ ・四中魂を忘れず頑張れ ・これからたくさんの思い出を創ろう ・いざというときのためにしっかりと学ぶんだぞ	7	○ 本時での学びについて、客観的な視点で振り返らせるために、「これからの自分にかける言葉」を考えさせる。 ※ 今までの学校生活を振り返りながら、よりよい校風や集団づくりを支える今の自分の役割や責任について考えている。 (ワークシート)
	8 教師の大切にしている言葉を聞き、自分の学校へ対する思いを温める。 ・「さかみち」への感想の記録	3	○ 教師自身が聞いた、忘れられない言葉について話し、授業に余韻をもたせる。

「ふくしま道德教育資料集」の視点から

(1) 授業のねらいに迫り、生徒の考えを深める発問の工夫について

- 補助発問で、主人公の考えが変わったきっかけである日野原医師の言葉を取り上げることにより、「命」は「与えられた時間」であることや、前向きに生きることの大切さに気付かせることができた。
- 震災後、制限された学校生活を送る主人公の姿が描かれた資料と震災復興に関する教育講演会の内容を重ね合わせ、「あなたにとっての『四中魂』は何か」を考えさせることにより、道德的価値を自分自身のこととして捉えさせることができた。
- 中心発問で「あなたにとっての『四中魂』は何か」を取り上げ、自分自身のこととして考えさせることはできたものの、「この発問では、教育目標や生徒会スローガン等、すでに答えが分かっているのではないか」との指摘もあった。生徒たちに自分自身の問題として考えさせつつ、さらに考えを深めさせるためには、問い返しを行うなどの工夫や、中心発問の吟味が必要だった。

(2) 多面的・多角的、批判的に考えさせたり、議論・討論させたりする授業の工夫について

- 震災復興に関する教育講演会のDVDを視聴させ、講演会後に書いた感想を提示することにより、「僕」の気付きと自分の実体験を重ね合わせながら、本時の価値について多面的・多角的に考えさせることができた。
- 事後研究会では、「感想用紙をそのまま提示・発表させると、『思いを重ね合わせる』という感じではなくなってしまう。今回の資料と講演会、二つを照らし合わせてみた今の気持ちを聞くことを中心にした方が、多少時間がかかっても、さらに深みのある意見が出されたのではないか。」という意見が出された。

(3) 振り返りの方法の工夫・改善について

- 本時での学びについて、客観的な視点で振り返らせるため、「これからの自分にかける言葉」を考えさせてみた。この学年の生徒は震災の記憶をもつ境界の世代であるため、その役割にも気付かせ、集団や社会のためによりよく生きようとする思いを引き出したいと考えた。生徒たちからはねらい通り、「困難があっても、それに挑む精神をもつ」「四中魂を忘れず、当たり前な毎日に感謝して生きる」などといった前向きな言葉を引き出すことができた。
- 最後に「教師の忘れられない言葉」について話をしたが、時間が少し足りなくなり、余裕がなくなってしまった。十分な余韻を与えることができたならよかった。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- 3～4人の道德班で自由に互いの考えを述べ合うことで、多様な考えに触れさせ、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させ、生徒一人一人の考えを深めさせることができた。授業中の生徒の様子やワークシートからも、生徒同士の交流を通じた考えの深まりを感じることができた。そのワークシートに教師が目を通し、考えの深まりを認めるとともに、生徒がそれをファイリングし、自分の成長をとらえる手がかりとさせていくことができた。
- 最後の振り返りでは、たとえ困難に遭ってもそれを乗り越えよりよく生きていこうとする前向きな姿勢や強い思いを、ほぼ全ての生徒から引き出すことができた。ただし、「よりよい校風や集団づくりを支える今の自分の役割や責任」まで考えている生徒は多くはなかった。今後、さらに確実にねらいに迫ることができる発問や授業づくり、振り返りの方法などを工夫していきたい。

本郷中学校第2学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成30年10月4日（木）第3校時

授業者：会津美里町立本郷中学校 教諭 永井 靖子

授業テーマ	ワークシートに自分の考えを書いたり、少人数で話し合いやロールプレイングを行ったりすることを通して、集団の向上のために努めようという道徳的心情を育む授業
-------	---

1 主題名 集団生活の向上に努める C-(15)よりよい学校生活、集団生活の充実

2 教材名 ありがとうの唄 （出典：ふくしま道徳教育資料集 第1集）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

集団は、一人一人の協力があって維持されるものである。そのためには、互いの人間関係を大切にするとともに励まし合う協力関係を作り上げていくことが大切である。また、一人一人がその集団の中でかけがえのない存在であることに気付き、集団生活の向上・充実のためにできることについて考え、それを実践していこうとする意欲や態度を養うことが求められている。

(2) 生徒の実態（子ども観）

生徒アンケートによると、自己肯定感や周囲から承認されているという感覚を学級の約7割の生徒が持っているが、その中で確信や自信を持っている生徒は2割程度である。授業態度が落ち着いている生徒が多いが、進んで発表できる生徒は少ない。しかし、自分の意見を持ち、それを書いて表現することができる生徒は比較的多い。班活動や学校行事等では、協力しようという気持ちが見られる集団であるため、さらに積極的に意見や行動を示したり、リーダーシップを発揮したりしてクラスに貢献しようという心情を少しずつ養っていく必要がある。

(3) 教材について（教材観）

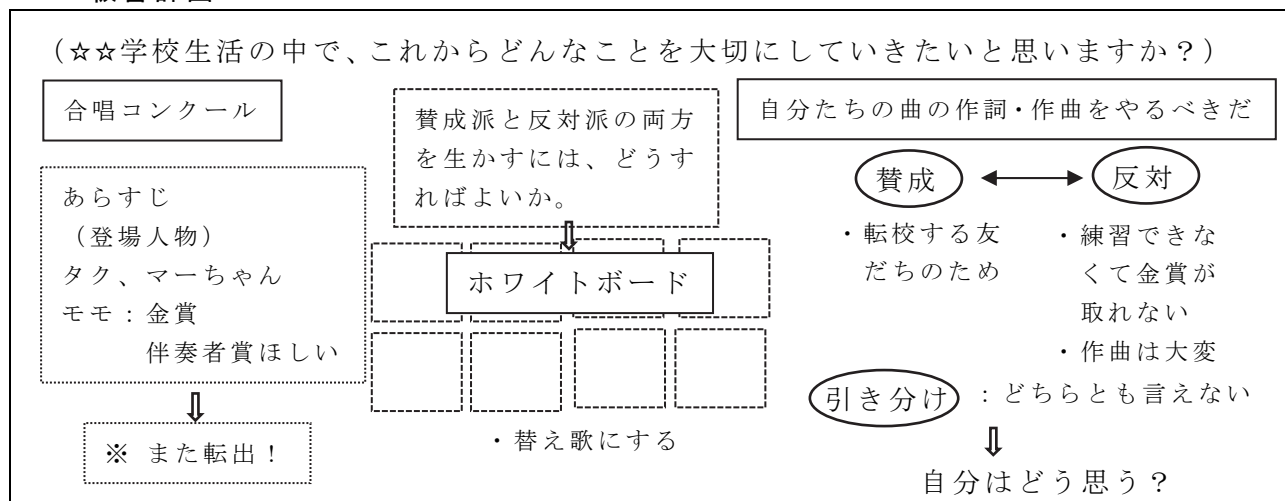
震災以降、仲間の転出が続いている学級という設定であり、7年以上経過している今、生徒たちが当時の中学生の感情を深く理解することは容易ではないかもしれない。しかし、校内合唱コンクールに向けた学級活動の場面を扱っていることもあり、登場人物の心情や場面について自分たちなりに想像することは難しくない教材である。

登場人物の心情や考え、気持ちの変化などを理解していく中で、級友や学級全体のために協力しようとする姿、他を尊重する心や学級が一丸となって一つのことをやり遂げる成就感、感動など、身近にある様々な価値に触れることのできる教材である。

4 本時のねらい

登場人物の立場の心情などを自分事として考えたり、グループで話し合ったりすることを通して、集団（学級全体）の向上のために自分ができることを実践しようという道徳的心情を育む。

5 板書計画



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される生徒の反応)	時間	○指導上の留意点 ※評価
導入	1 昨年の校内合唱コンクールの歌声を聞く。 ○ 当時の気持ちを発表する。 ・よかった。いい思い出。 ・歌は苦手で嫌だ。辛かった。 2 本時の内容について知る。 「合唱コンクールに関して」	5	○ CDを聞くことで、スムーズに合唱コンクールに意識が向くようにする。 ○ 「よかった」「嫌だった」に2択で挙手を求める。その後、具体的な理由（本音）についても考えるよう促す。 ○ 扱う価値や「ねらい」には触れず、合唱コンクールに関する教材を読み、みんな考えていくことを伝える。
展開	3 教材を読む。 (1)「一人一人の気持ちをとことん発表しようということになった」という部分に着目する。 4 ロールプレイングを行う。 ○ 『作詞・作曲をやるべきだ』について、賛成派役と反対派役に分かれて行う。 (1)賛成・反対の理由を考える。 (作戦タイム) (2)賛成派・反対派役ともに相手を説得しようと話し合う。 (3)役割交替をして話し合う。 (4)各班で話し合いを振り返る。 (5)話し合いの中で最も説得力があった言葉を発表する。 5 自分自身はどう考えるか、ワークシートにまとめる。 6 「新しい方法」について班で考える。 ◎ 賛成派と反対派の両方の気持ちや考えを生かすには、どうすればよいか。 (1)ホワイトボードを活用しながら、班の考えを書き発表する。 ・全部、一部を替え歌にする。 ・クラスのメッセージを作って、それを言ってから歌う。 (2)再度、班で話し合う。 ・替え歌がいい。両方の考えが同じように生かされている。	5 15 3 15	○ 教材の「最初の部分」だけを配付しあらすじを認識させながら、教師が朗読する。(一部改作) 【問いかけのポイント】 自分がこのクラスの一員だと仮定し、テーマについて賛成派と反対派に分かれたロールプレイングをすることを通して、自己の考えを広げさせる。 ○ 3～4人の班を組ませる。予め、司会者役（リーダー）を決めておく。 ○ 作戦タイムを2分程度設ける。時間を区切って、スムーズに進める。 ○ ホワイトボードに、簡単にメモしながら話し合わせる。 ○ 賛成派からスタートさせ、全員が話すよう促す。 ○ 「賛成」「反対」「どちらとも言えない」について、自分事として考えさせる。 【深い学びのポイント】 賛成・反対の2択ではなく、両方の気持ちが生かさせるための「新しい方法（考え方）」について話し合うことを通して、考えを広げたり、深めたりさせる。 ○ ホワイトボードを黒板に貼り、発表をさせる。 ○ アイディアを共有しながら、質問や付け足しの意見等についても尋ねる。 ※ 班の中で互いに考えを伝えたり、聞いたりしているか。(観察)
終末	7 個々に、自分の考えを深める。 (1)授業を振り返りながら、自分の考えをワークシートに書く。 ○ 学校生活の中で、これからどんなことを大切にしていきたいかを考える。	7	○ 机を移動させ、個で考える雰囲気を作る。 ※ 今後自分が大切にしていきたいことについて考え、自分の思いや考えをまとめようとしたか。(観察・ワークシート)

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

- (1) 「生徒が興味・関心をもち、主体的に考えたいくなる『教材提示の工夫』」について
- 震災に対する生徒の認識が薄いことを考え、合唱コンクールの自分たちの歌声を聞かせることで、教材が身近なものとして捉えられるようにした。また、教材提示も中心発問につながる部分だけを抜粋し、早い段階で資料を離れることで、課題に対して主体的に話し合い、自分事として考える時間をとることができた。

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

- (1) 「『ふくしま道德教育資料集』を活用し、未だ止まない風評の中で、福島県民として、郷土に対する誇りと愛情、絆の大切さ、人間のたくましさを感じ取らせる」について
- 地元、会津美里町の伝統行事に触れながら教材を活用し、地域の伝統行事を継承しようとする人々の姿を織り交ぜながら、たくましく生きようとする姿から、これからどう生きるかを考えさせることができた。
- (2) 「資料を通して、福島県民として困難な状況に置かれている状況での仲間と協力しようとする姿、他者を尊重する心を感じ取らせることで、強い心を培うための指導方法を工夫する」について
- 震災から7年以上経過しているということから、なかなか震災を自分のこととして考えることが難しい。そこで、自分たちの置かれている状況と類似している内容である「第Ⅰ集：ありがとうの唄」を教材として選定した。授業ではロールプレイングにより、2つの立場で考えることで、他者の思い、様々な価値観を考えることができ、そこから他者を尊敬する心、協力する姿勢を自分事として考えることができた。
- (3) 「様々な価値から生命の尊重、家族のつながりにアプローチできるような、授業構想・課題設定の工夫をする」について
- 職場体験学習の経験と関連させながら教材を活用し、全ての仕事が人の役に立っていることを認識させ、自他の命を守るために職務を全うする姿を通して、勤労観や生命尊重の意味を考えさせることができた。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の観点から

- (1) 学習状況について
- 「伝え合い、聞き合い、深め合う授業づくり」に迫るためにロールプレイングや問題解決的話し合い等の活動を工夫することで、互いに考えを出し合い、班ごとに結論を見いだすことができ、「考え、議論する道德」に近づくことができた。
- (2) 道德性に係る成長の様子について
- 集団生活の充実に向けて、始めは漠然とした考えであったが、ロールプレイングやグループでの話し合い活動を通して、それぞれが今後に前向きな考えを自分なりの言葉で表現できるようになった。
 - ワークシートの活用により生徒の頑張りや心の変化を認め、コメント記入や掲示等で励ますと共に、資料を蓄積することで評価に生かしたい。
- 【ワークシートより】
- ・ 自分の意見だけでなく、友達の意見も尊重していきたい。みんなの意見を聞いて話し合うことが大切。
 - ・ 誰かだけが我慢するのではなく、全員の意見を出し合い、話し合っていきたい。

館岩中学校第2学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成30年7月13日（金）第5校時
授業者：南会津町立館岩中学校 教諭 星 恒光

授業テーマ	他者と共によりよく生きることを学ぶ道徳教育 ～自ら考え、学び合う授業づくり～
-------	---

1 主題名 思いやり、感謝 B－（6）

2 教材名 温かさを分け合って （出典：ふくしま道徳教育資料集 第I集）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本教材は東日本大震災の際、育った地域が原子力発電所の事故の影響で避難区域となってしまう、他県へ転校することになった生徒が書いた人権作文がもととなっている。あらすじは新天地で両親不在という過酷な状況に置かれた生徒が、転校初日に級友からニックネームをつけて呼ばれるようになった。その結果、福島からの転校生ということで放射能汚染による差別や風評被害から感じていた大きな不安が一気に取り払われ、温かい言葉をかけてくれた級友に感謝するとともに、自身も温かさを分けられる存在になりたいと強く思うようになるといったものである。多種多様な価値観をもつ人間がいる以上、ものの考え方や捉え方、それに基づいた行動は人それぞれである。その中で温かい人間愛に恵まれないと感じて、自己中心的になり、他を顧みない行動に走ってしまう場合もある。本教材では温かさに気づき、感謝し、自分も温かさを他人に分けられる人間になり、人として強く生きていく態度を養うことをねらいとしている。

(2) 生徒の実態（生徒観）

第2学年は計13名の学級である。生徒の大半は幼稚園や小学校からずっと同じ人間関係で過ごしてきており、生徒の仲は良い。しかし一緒にいた時間が長いために人間関係が固定されてきているため、互いにあまり遠慮をせず、言いたいことを言い合いぶつかり合ってしまう場面が見られる。また級友の新たな一面に目を向けようとせず、よりよい関係を築こうとしない様子や、自分の考えをあまり表現せず、相手がどのように思っているのか深く考えない様子も見られる。

(3) 教材について（教材観）

本教材は先述の通り、他者からの温かい言葉に感謝し、よりよい人生を強く生きようとする態度を養うことをねらいとしている。生徒観でも述べたとおり、本学級はよりよい人間関係を構築する意欲が低いことが課題として挙げられる。そこで本時ではよく知っていると思っていた級友が自分の考えに対しどのように反応をするか、あるいは自分と同じ課題に対しどのような回答をするかを知り、級友の新たな一面を知ること、また温かさとは何かを改めて考えることで、よりよい人間関係を構築する喜びを見いだそうとする力について考えさせたい。

4 本時のねらい

転校生の呼び名や資料の「温かさ」とは何かを考える活動を通して、他者を思いやる心が自己と他者の絆を強くすることに気づき、よりよく生きていこうとする態度を育成する。

5 板書計画

道徳ワークシート	平成30年7月13日	プロジェクター投影用スクリーン
転校生に学ぼう。 ・ <u>転校生の呼び名を考えよう。</u> ・ <u>「みっちー」と呼ばれることを温かく感じたのはどうしてか。</u>		転校生の特徴、教材の原文、 中心発問に対する回答を投影する。

6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 あだ名は必要かどうか、挙手で答える。	一斉 3	○ 「あだ名の危険性」について過去に道徳で授業を行っているため、あだ名は不要という生徒が多く出てくる可能性がある。 ○ 時間をかけないよう、理由は聞かず挙手で行う。
展開	2 転校生が来たと仮定し、転校生の呼び名を考える。 ・「○○」という名前だから「△△」という親しい呼び名がいい。 ・なんとなく「□□」がいい。 (あだ名が必要な生徒の意見) ・あだ名なんて必要ない。 ・「○○君」で十分だ。 (あだ名が不要な生徒の意見)	個 8	○ 呼び名という日常的なものを題材にすることで、本時の内容はどこにでもありふれるものであることを実感させる。 ○ 転校生の特徴(10個)を少しずつ提示することで、その人のことがわかってきたという感覚をもたせる。 ○ 特徴の最後に「原発避難で転校」を提示し、差別や偏見に対して強い不安をもっていることに気づかせる。また最後にもってこることで、これまでの自分の呼び名(考え)はふさわしいかどうか振り返らせる。 ○ 机間巡視をし、生徒の考えを把握する。またチェックを入れることで生徒の考えを奨励し、新しい考えを生み出す意欲を高める。
	3 考えた呼び名を、理由をつけて発表する。	一斉 6	○ 理由を付けて発表することで、自分の意見や考えを他者に伝える機会を設ける。また他者の考え方にふれることで、今後の自分の考えの参考にさせる。 ○ 発表時は発表生徒の時間とし、静粛にさせる。
	4 教師が範読する教材を聞く。	一斉 8	○ 黙読だと生徒によって読むスピードに差が出てしまい、関心が薄れてしまったり関係ないことを行ったりする可能性があるため黙読ではなく範読を行う。
開	5 中心発問に対し、自分の考えをまとめ、発表する。 ◎「みっちー」と呼ばれることを温かく感じたのはどうしてか。 ・呼び名に差別が感じられない。 ・親しみがこもっている。 ・話し方や呼び方が優しく温かかった。 ・級友の表情が笑顔だった。	班 一斉 18	○ ありふれた呼び名に対し、温かいと感じた筆者に注目し、なぜ温かいのかを考えることを通じて、思いやりの心の示し方には多様な方法があることに気づかせる。 ○ 少人数学級の特性を生かし、できるだけ多くの生徒に発表させ多様な考えにふれさせる。 ○ 生徒の意見を他の生徒に返すことで、他者の立場になって考えさせる。 ○ 道徳ノートの右ページに参考になった考えをメモさせる。 ○ あだ名そのものにはこだわらせない。
終末	6 道徳の振り返りを記入する。	個 7	○ 率直な感想が記入できるよう、机間巡視では称賛しながらチェックする。 ※ 「温かさ」について自分なりに考え、まとめている。(道徳ノート、ワークシート)

7 考察

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

(1) 「事象に対して、生徒一人一人に自分なりの考えをもたせる工夫」について

東日本大震災による被害があまり大きくなかった南会津であったが、本資料集では同じ県内で起こったことを題材としているため、生徒一人一人が自分事として捉えやすかった。本校では、道德科の時間に限定せずに資料にふれる機会を設けてきたことで、自分事として捉え、震災の事象の中から感じる個々の考え・思いをもたせることができた。

(2) 「他者と考えを共有し、様々な考えにふれる学習活動の工夫」について

東日本大震災の出来事をもとに、福島から転校した生徒が放射線により差別を受けていたことを知り、「同じ県民として心を痛めた」や「優しい言葉かけをしてくれた仲間のありがたさがよく分かった」という感想をもち、授業で発表、共有することができた。

(3) 「生徒一人一人の考えの変容や成長を認識できる場面の設定」について

上記のように、資料集をもとに個々に考えをもたせ、自分事として捉えさせ、他者との交流を行わせたことは、個々の考えの変容、成長を認識させる機会となった。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

一人一人を受け止めるために「道德ノート」の積極的な活用を図った。道德ノートを活用し、自分の変容を振り返りつつ、表現方法を少しずつ習得し、自分の考えをもつ喜びや考えを表現する喜びを感じていた。

それらの状況を教師がしっかりと受け止め、生徒の様々な考えを認める上で、道德ノートの活用は効果的であった。



相馬東高等学校 2 年次 道徳学習指導の実際と考察

日 時：平成 30 年 11 月 14 日（水）第 2 校時

授業者：相馬東高等学校 教諭 早川 雄三

授業テーマ	登場人物の心情の変化を考察することで、他者への思いやりや感謝の重要性に気付くことができる授業
-------	--

1 主題名 温かい人間愛 B－（6）思いやり、感謝

2 教材名 五〇〇人の大家族
ふくしま道徳教育資料集第Ⅱ集 敬愛・つながる思い

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

学習指導要領にあるように、「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝」することは、学校生活はもちろん、社会生活においても人と人との関わりの中で最も大切な価値項目である。人は周囲の様々な人々から支えられて生きている。ただ、生徒にとって、そのことを普段の生活の中で意識する機会は少ないのが現状である。そのため、震災という大変な状況が描かれている本資料を通して、自分が誰かに支えられてきたことを認識し、そのことに感謝する気持ちを養うことは、重要なことである。

(2) 生徒の実態（生徒観）

修学旅行を通して、生徒同士が協力して物事に取り組む態度は徐々に身に付きつつある。しかしながら、クラス全員で受ける授業が少なく、固定化されたメンバー内では協力体制ができているが、すべてのクラスメート内でスムーズに協力する体制はまだ整っていないと思われる。道徳を取りあげた授業は教科の学習と比べて、それほど活発に学習しているとはいえない。道徳的価値について考えることに関心はあるのだが、自ら発言するなどの積極的な姿勢がなかなか見られない。こうした生徒が、様々な人々の立場や見方を考え、周囲に自分の考えを表現しながら、学習を深める機会としたい。

(3) 教材について（教材観）

本資料は、三代続いた旅館の主人が、東日本大震災の被災者を無料で受け入れることを決断したことにより、中学生である私、父、兄、従業員、被災者、それぞれの立場の思いが交錯する姿が描かれている。困難な状況の中で、それぞれの登場人物が、互いを労い思いやる姿が、受け入れに反対していた兄や私の気持ちを变えていった経緯を考えることで、互いに支え合うことの重要性に気づくことのできる資料である。

4 本時のねらい

兄妹の心情が変化した理由について考察することを通して、人は互いに支え合って生きていることを認識し、周囲を思いやり感謝することのできる態度を育む。

4

ふくしま道徳教育資料集を
活用した授業実践

5 板書計画

困っている人を助けた、または、助けてもらったことはありますか。 ・道を教えた → 思いやり ・救急車を呼んだ	あなたが父なら、被災者を受け入れますか。 <受け入れる 15人> ・困っている人を放っておけない ・ <受け入れない 14人> ・従業員を守らないといけない ・ <わからない 10人>	兄と私の心情が変化したのはどうしてか。 ・これまで多くの人々に支えられてきたことに気づいた ・誰かの役に立ちたいと思った ・互いに支えあっていくことの重要性に気づいた。 ・
そのあと、相手はあなたに対して、どうしましたか。 ・お礼 → 感謝 ・何もなかった		

6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 誰かを助けた、または、助けられた経験について振り返る。 ○ 困っている人を助けた、または、助けてもらったことはありますか。 ・道を教えてあげた ○ そのあと、相手はあなたに対して、どうしましたか。 ・お礼を言った 2 資料の前半を黙読する。	5 6	○ 自分の経験について想起させる。誰かを助けるという行動には、思いやる気持ちがあったことを確認することで本時の内容の動機付けとする。 ○ 感謝につながるワードを引き出し、感謝することの大切さを確認することで、普段の生活の中で周囲の人々と支え合いながら生きていることを意識させる。
展開	3 父の決断について考える。 ○ あなたが父なら、被災者を受け入れますか。 ・困っている人を放っておけない ・従業員を守らないといけない 4 班に分かれ、考えを話し合う。 5 資料の後半を黙読する。 6 班での話し合いを通して、翌朝の兄と私の心情の変化について考える。 ◎ 兄と私の心情が変化したのはどうしてか。 ・これまで多くの人々に支えられてきたことに気づいた ・役に立ちたいと思った ・互いに支えあっていくことの重要性に気づいた	5 7 7 15	○ 挙手により考えの類別を行う。 ○ 父の決断には様々な葛藤が含まれ、意見が分かれるのは自然であることに留意させる。 ○ 兄にも家族や従業員を思いやる気持ちがあることを確認することで、それぞれの立場の思いが交錯していることに気づかせる。 ○ 話し合いを基に賛成・反対の理由をカードに記述させ、掲示し可視化を図る。 ○ 前日と翌朝の兄と私の様子を比較することで、二人が被災者の受け入れに対して、前向きになった心情の変化に気づかせる。 ○ 班で二人の心情の変化の理由をまとめさせ、掲示し可視化を図る。 ○ 誰もが互いに支えられていることを確認し、感謝の気持ちを忘れず、思いやりのある行動を提案する。
終末	7 今日の授業で感じたことをまとめる。	5	※ 自分も他者もかけがえのない存在であることを自覚することで、思いやりや感謝についての考えを深めることができたか。

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

- (1) 「自己肯定感を高めるために、道德教育推進校視察や研究授業を生かした授業等を展開する」について
- 校内で行った研究授業の実践を生かし、発問を絞ることで自分自身の道徳性について深く考える機会となった。
 - 班分けについて、これまでの研修を生かして各授業担当者の意図をもって授業を展開した。その結果、発言が活発になったり、新たな人間関係の中でも自信をもって発言したりする生徒の姿が見られた。
- (2) 「他者との関わりについて考えを深められるよう、コミュニケーションをとる場面を多く設けた教育活動を展開する」について
- 「賛成」と「反対」の立場に分かれての意見交換であったが、その二つにとらわれることなく「どちらともいえない」と考えた生徒が数名おり、その意見がどちらの立場にもいい働きになった。他者の意見を踏まえて統合的に考えることができた。
 - 震災後から今まで、この地区で暮らす多くの生徒が様々な形で「思いやり」の心に触れる機会があり、それを「感謝の心」で受け取っていることがよく分かる発言をグループ内で交わす姿が見られた。
 - 高校生ということもあり、「思いやり」や「感謝の心」の重要性は当たり前のことと捉えている生徒が多く、意見交換だけでは改めて考えを深めるには至らない生徒もいた。生徒同士の話し合いの中に、効果的なゆさぶりをかけるような発問ができればよかった。
- (3) 「地域からの協力を得た道徳的实践を行い、実践の結果を家庭に発信する」について
- 授業後の研究協議では同地区の小中学校、高校の先生方から震災についての道德教育についての意見をいただき、大変参考になった。今後の教育活動につながる良い機会になった。
- (4) その他
- 震災当時小学校4年生だった生徒達の中には、現在も震災の記憶にトラウマを抱えている生徒もいる。そういった生徒にはなるべく震災を連想させないように配慮したが、その分、ねらいを達成する授業になったのかやや疑問が残る。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- それぞれの登場人物の立場で物事を考えることに関して、その人物の置かれた立場を考えながら物事を判断しており、高校生らしさを感じた。発達段階に応じたものの考え方ができているので、それを実生活にも生かすことをさらに意識させたい。
- 教科化されていない高校において今回の授業内だけでの評価は困難だと感じるという意見も見られる。現段階では細やかな観察や事前アンケートからワークシートの変容を見取り、総合的な学習の時間や普段の学校生活の指導に生かしていくことができるようにしていきたい。

【Q&A】

道徳科の教育課程Q&A



新学習指導要領 Q & A [特別の教科 道徳] (小・中)

1 なぜ、「特別の教科」なのですか。今回の教科化で、今までと変わること、変わらないことを教えてください。

「特別の教科 道徳」(以下 道徳科とする)については、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から他教科に先駆けて先行実施される。教科化に際して、「学級担任が担当することが望ましいと考えられること」「数値による評価はなじまないと考えられること」など、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という枠組みが設けられた。

また、今回の改訂では、「いじめの問題」等、現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成する役割が強く求められており、改訂の要点として次の5点が挙げられる。

(1) 目標の明確化

⇒教科の特質と学習活動の明示「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、自己(人間)の生き方についての考えを深める学習を通して」

(2) 体系性を高め指導の効果を上げるための内容の改善

⇒「それぞれの内容を端的に表す言葉を付記」や「内容項目についての整理」等

(3) 多様な指導方法の工夫

⇒「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の例示

(4) 魅力的な教材の開発や活用の工夫

⇒地域教材の積極的な開発と活用

(5) 評価

⇒数値による評価は引き続き行わないこととし、児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様子を継続的に把握

なお、これまでの「道徳の時間」と同様に、学校の教育活動全体で行う道徳教育の「要」としての役割を果たすことは今までと何ら変わらない。

2 道徳教育の全体計画等の作成に当たって、どんなことに配慮すべきか。

以下のポイントについて、学校としての計画(ロードマップ)を明確に描くことができるのか、円滑な実施に向けた、今後の大きなポイントとなる。

- 「重点目標」「指導の重点化」(重点とする内容項目の設定)を校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、全職員が共有しながら作成しているか。また、全体計画の項目は、総則等に照らして適切か。
- 「学校のいじめ防止基本方針」や「各種教育の目標や全体計画」等と道徳教育との関連性や整合性が図られているか。
- 別業をどのような形式でどのような計画でつくり、いかに実効性のある計画にしているか。
- 評価をいつ、どのような体制で実施していくのか、保護者等にどのタイミングで周知していくか。

3 道徳科の授業を原則的に担任が行うのはなぜか。担任が授業を行う際、配慮すべきことはあるか。

道徳科の授業を原則的に担任が行う理由としては、「学級担任が児童生徒の実態に精通していること、時間的にも触れ合う機会が多く、継続的に道徳性の成長を見ることができること」が挙げられる。しかしながら、あくまでも「原則」であり、担任一人が全てを担うことを意味する訳ではない。

例えば、校長や教頭が参加する授業を行うことはもちろん、教員同士が互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組んで、子どもについて情報交換したり、評価の視点や方法等について、学年内、学校内で共通認識をもったりすることが効果的である。

つまりは、学級担任授業を行うことを原則としながら、学校、学年としての組織的に対応することが大切である。

4 教科用図書の教材と従来活用していた「副読本」の資料の違いは何か。教科用図書が導入されたことで、どのような点に留意すべきか。

学校教育法34条には、「小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならない。」（中学校にも準用）さらに、教科書の発行に関する臨時措置法第2条には、「教科書」とは、…学校において、教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材…」とされ、「主たる教材」としての使用義務が明記されており、この点において、「教科書に準じて作られている補助的な図書」としての「副読本」と大きな違いがある。

検定教科書の導入により、年間指導計画の作成等の教育課程編成作業においては、教科書中のどの教材をどの時期に配列するか等について、各教科等の学習内容や体験活動等との関連を踏まえながら、しっかりと精査する視点がより重要となる。

5 道徳科の年間指導計画を作成するにあたり、ふくしま道徳資料集や市町村発行の資料集掲載の教材等を、教科書中の教材に代わって位置付けることは可能か。可能であるとすれば、その位置付けにあたって、どのような配慮が必要か。

「小（中）学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道徳科の教材に求められる内容の観点」には、「…道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。…地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい」と記述され、地域教材を意図的・計画的・組織的に開発し、活用することが望ましいとされている。

このことにより、「ふくしま道徳教育資料集」（県教委発行）及び「市町村発行の道徳教育資料集」等を、年間指導計画に「副教材」として積極的に位置付けることは、道徳科の趣旨と内容の実現に向けて非常に有効である。

なお、地域教材の開発にあつては、教材の具備すべき条件を備えているか精査するとともに、年間指導計画への位置付けに際しては、「教科書教材」に加えて「副教材」として併記し、その対応を明らかにすることが望ましい。

加えて、自校及び学年の重点とする内容・項目に照らして、教科書中の教材数が不足している場合、「私たちの道徳WEB版（文部科学省）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文部科学省）」「ふくしま道徳教育資料集」等を主教材として位置付けることが可能である旨を付記しておく。

6 学校で決めた道德教育の重点内容項目に対して、教科書教材が一部不足してしまうような場合、どのような対応が考えられるか。

各学校の道德教育の重点内容・項目は、校長の指導の下、全職員が共通理解して設定した、とりわけ重要な内容の一つであることは言うまでもない。万が一、教科書教材数に合わせて、各学校の重点内容項目が設定されるということになれば、児童生徒の実態、地域や保護者、教師の願いが道德教育に位置付けられないということになってしまう。そこで、このような場合は「ふくしま道德教育資料集（県教委）」「小（中）学校道德読み物資料集（文科省）」「私たちの道德（WEB版）」等を主たる教材として位置付ける対応が考えられる。その際は、特記事項等にその旨を明記し、次年度以降の教育課程編成の参考となるように配慮してほしい。

7 自作教材は、今後活用することができなくなるのか。

自作教材の作成と活用については、授業者単独の判断であったり、その場限りの活用となったりしないことが大切である。そのためには、「小（中）学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編 第3章 道德科の内容 第2節 内容項目の指導の観点」に照らして、児童生徒の発達の段階や特性に見合っているか、さらに「同第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道德科の教材に求められる内容の観点」に沿っているかを踏まえて、教材の具備すべき条件を備えているか事前に精査し、その使用が適切かどうか、校長の指導の下、学年や学校で共通認識をもって確認する手続きが必要となる。

8 「考え、議論する道德」に代わって、「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」などの質の高い多様な指導方法を耳にするようになった。両者は、どのようにつながっているのか。これから求められる多様な指導方法について教えてほしい。

『特別の教科 道德』の指導方法と評価について（報告）平成28年7月22日 道德教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議においては、これから求められる質の高い多様な指導方法の例示として、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の3つが示された。これらは「考え、議論する道德」をより具体化したものであると考えられ、それぞれが独立した指導の「型」を示しているのではなく、それぞれの要素を組み合わせた指導も考えられるとされている。今後は、各学校において、これら3つの指導方法を目安とした指導方法の開発と研究が推進されることを期待したい。

9 複式学級における道德科の授業をどうつくればよいか分からない。どのように計画を立案すればよいのか教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道德 第3 指導計画の作成と内容の取扱い」では、「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げることとする。」とされており、該当する学年の全ての内容項目を取り扱うことが教育課程編成上必須の要件となる。

さらに、小学校学習指導要領解説「特別の教科 道德編 第3章 道德科の内容 第1節 内容構成の考え方（3）」には、「～特に必要な場合は、他の学年の内容項目の指導を加えることはできる」とされており、いわゆる飛び複式学級や変則複式学級の指導にお

いて、該当学年において取り扱わない内容項目を加えて指導できる旨が明記されている。
これらを踏まえると、「特別の教科 道徳」の複式学級における教育課程編成に際しては、次の3例が想定される。

- A 学年別の学習とし、それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習（「直接指導」と「間接指導」の組み合わせによる指導。通常の教科書給与による）
 - B 2年間分をそれぞれ第1年次（A年度）と第2年次（B年度）別に平均に配当し、両学年が同目標内容で学習（該当する両学年の教科書の同時（一括）給与）
 - C 2年間分の学習内容について、A年度は○学年の教材を主に、B年度は●学年の教材を主に配当し、両学年が同目標内容で学習（A年度は○学年の教科書給与、B年度は●学年の教科書給与）

いずれの例においても、メリットとデメリットがあり、どのような教育課程を編成するかは、自校及び児童生徒の実態をどうとらえて、学校として最も適切な教育課程を編成するかが問われるところである。

なお、いずれの例においても、今後の学級編成の推移を想定したり、教科書給与上の事務手続きを適切に行ったりするなど、学校全体として見通しをもった対応が求められる。

さらに、市町村の様々な事情により、ケースが限られる場合もあるので、各市町村教育委員会に確認願いたい。

10 複式学級の教育課程編成を行うにあたり、通常の学年通りの教科書の一括給与を行い、学年別の指導（それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習）を行うための道徳科の年間指導計画を作成する際、何か配慮・工夫する点はあるか。

例えば、同じ内容項目を同時期・同時間に配当することにより、学年別と学級全体の学習形態を組み合わせる弾力的な学習指導を実施することなどが考えられる。具体的には、次の例の通りである。

（例）3・4学年（複式学級）において、5月第2週の同時間に、いずれの学年も同じ内容項目（親切・思いやり）を扱い、共通のねらいを設定した年間指導計画を構想

- ☐ 導入は両学年合同の活動とし、ねらいとする内容・項目（親切・思いやり）についての方向付けを図る。
- ☐ 展開前段の活動は各学年別で行い、各学年別の教材を活用して、「親切・思いやり」を追求する。その際は、直接指導と間接指導を組み合わせる実施したり、管理職を含めた教師の協力的な指導を行ったりしながら、各学年の児童の実態に合った展開を工夫する。
- ☐ 展開後段（自己を見つめる時間）と終末は、両学年合同に戻し、展開前段で話し合った「親切・思いやり」について紹介し合ったり、「親切・思いやり」にかかわって自分の生活を見つめ直したりする。

この例は、あくまでも学校の創意工夫の一つでしかない。校長の指導の下、各学校の実態に応じたカリキュラムを全職員の共通理解の基に計画し、実践していくことが大切である。

なお、教材に描かれた特性（季節や行事等）により、同じ内容項目であってもどうしても同時期・同時間で組み合わせることのできない内容もあると考える。その場合、例えば、学校や学級で重点的に扱う内容・項目等についてのみ同時期・同時間で扱うなど、自校の共通方針に基づいて、柔軟に年間指導計画を作成することが大切である。

- 11 特別支援学校における道徳科の授業の位置付けは、教科化される前と変わるか。
また、道徳教育の全体計画や指導計画を作成する上で、どのような点に留意すべきか。
さらに、小・中学校の特別支援学級では、どのような点に留意すべきか。

特別支援学校においても、道徳科の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いは、小学校又は中学校に準ずることとなっている。準ずるということは、同一ということの意味しているため、小学校及び中学校学習指導要領に示されているとおりに取り扱わなければならない。しかし、知的障がい特別支援学校においては、各教科等の一部又は全部を合わせて指導を行える規定（学校教育法施行規則第130条第2項）があることから、この規定により各教科等を合わせた指導の中で適切に扱う場合もあるため、取扱いについては自校の教育課程によるとされている。

特別支援学校学習指導要領第5章 特別の教科 道徳には、指導計画の作成や内容の取扱いについて、3つの配慮事項が示されていることから、それらを十分に配慮する必要がある。

また、特別支援学級においても、小・中学校に設置されている学級であることから小学校及び中学校学習指導要領を踏まえる必要がある。しかし、知的障がい特別支援学級において特別支援学校の学習指導要領を参考としている場合は、上記と同様である。

- 12 「大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること」とあるが、具体的に教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領解説「第5章 第2節 道徳科における児童（生徒）の学習状況及び成長の様子について」の「道徳科に関する評価の基本的な考え方」には、「道徳科の学習状況の評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。」とされている。指導要録の記入上の大きくくりなまとまりは、一年間を指すが、児童生徒を受け止めて認め、励ます評価を、どの時期にどう実施し、児童生徒や保護者に還元していくか、各学校で設定する必要がある。保護者に還元していく方法が、通知表へ記述する、面談でお知らせするなど、どのように実施するかについては、各学校の判断に委ねられる。いずれの場合も、市町村教育委員会の指導助言の基、進めていくことが大切である。

- 13 評価にかかわって、「個々の内容項目ごとではなく」とは、どうとらえればよいのか、教えてほしい。

一つ一つの内容項目ごと（授業ごと）に、「ABC」や「数値」等による評価をしないことを意味する。「内容項目について記述してはいけない」ということではなく、各学校が設定した大きくくりなまとまりの期間で、児童生徒がいかに成長したかという点からの個人内評価として実施し、把握した学習状況や道徳性の成長に係る様子の中で特に顕著なものを評価することから、児童生徒の成長を特に表す内容項目にふれることは何ら問題はない。当然ながら、児童生徒や保護者に評価を還元することにより、児童生徒を積極的に認め励ましたり、その後の指導に生かしたりする役割があることも言うまでもない。

14 道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を評価の観点とすることはなぜ適当ではないのか。また、個人内評価であっても、何らかの観点がないと、評価ができないのではないのか。

「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」はそれぞれ独立したものではなく、相互に関係し合っており、切り分けられないものであることから、これらを資質・能力の3つの柱にそれぞれ分けて位置付けることはできないものと考えられる。

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては、観点別に分析的に評価する（観点ごとにABCを付ける）ことは適当ではないと考えられる。

一方で、評価を行い、指導の改善等につなげるためには、授業の中でどのような児童生徒の姿に着目するかという、視点をもつことが大切であると考えられる。小（中）学習指導要領解説編では、学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
 - 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
- といった2点を重視して評価を実施することが大切である。

15 道徳科の授業で行われる評価を、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の評価と関連させ、よく行動できている点について積極的に評価したいと考えているが大丈夫か。道徳科の評価について教えてほしい。

学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」の要素となる。

道徳科における評価は、道徳科の授業を行った結果として見られた「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」を見るものであるため、授業の中で見られた発言や記述などを基に評価を行うことになる。

道徳科の評価を行う基本的な方向性として、次の5点を確認しておきたい。

- (1) 数値による評価ではなく、記述式とすること。
- (2) 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- (3) 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価とすること。
- (4) 学習活動において、児童生徒が多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかといった点を重視すること
- (5) 調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにする必要があること。

16 道徳科の教育課程編成上、「これだけは …」というポイントがあれば、教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領（平成29年3月）・第3章特別の教科道徳・第3指導計画の作成と内容の取扱いの1には、「…第2に示す（各学年段階の）内容項目について、相当する学年（各学年）において全て取り上げることとする」とされている。小学校低学年19項目・中学年20項目、高学年22項目、中学校22項目の内容項目を全て取り上げることは必須要件となるので、各学年の年間指導計画を必ず確認してほしい。

17 教科化に際して、教職員の研修を充実させたいと考えているが、参考になるホームページや資料等を教えてほしい。

以下の報告書や動画等について、校内研修、教育課程編成等の参考にさせていただきたい。

〔学習指導要領等〕

- 小(中)学校学習指導要領 平成29年3月31日 文部科学省(文部科学省HP)
- 小(中)学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月文部科学省(文部科学省HP)

〔通知等〕

- 学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)(28教義第846号 平成28年8月10日付)

〔報告書・広報誌等〕

- 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(文部科学省HP)
- 福島県道徳教育推進報告書(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳のとびら(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳のかけ橋(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳の礎(福島県教育庁義務教育課HP)

〔動画等〕

- 道徳教育アーカイブ(<https://doutoku.mext.go.jp>)
- 校内研修シリーズ「道徳教育」(独立行政法人教職員支援機構HP)

平成31年3月15日 印刷
平成31年3月25日 発行

福島県教育委員会

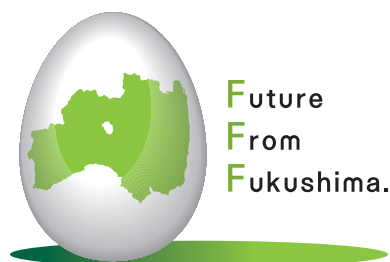


◆ ふくしま道徳教育資料集三部作 ◆

第Ⅰ集 生きぬく・いのち

第Ⅱ集 敬愛・つながる思い

第Ⅲ集 郷土愛・ふくしまの未来へ



ふくしまから
はじめよう。



福島県教育委員会

(この冊子は、下記のアドレスよりダウンロードできます。)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a>